

|                           |     |
|---------------------------|-----|
| 一 牛心台                     | 五一六 |
| 二 天宝山                     | 五三八 |
| 三 鞍山站                     | 五四九 |
| 四 本溪湖                     | 五五五 |
| 九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件         | 五六一 |
| 一〇 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件       | 五九一 |
| 一一 三江口附近ニ於ケル日本守備兵ノ被害一件    | 七五二 |
| 附 南滿洲鐵道沿線守備隊ニ関スル件         | 七六〇 |
| 一二 奉天柳原農場紛争ニ関スル件          | 七七五 |
| 一三 太平寺廟地商租ニ関スル件           | 七八九 |
| 一四 滿洲ニ於ケル宗社党及其他ノ挙事動静ニ関スル件 | 八五二 |
| 附録 日本外交文書大正五年第二冊日附索引      |     |

## 事項一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件

附 各地ノ反袁運動狀況

一 一月五日 石井外務大臣ヨリ  
在英國井上在露國本野岡大使、在中國日置公  
使各宛(電報)

中国公使ヨリ二月上旬帝制実行ニ付日本政府  
ノ意向問合セタルニ対シ回答ヲ留保シタル件

第七号 (英國)

第八号 (露國)

第七号 (中國)

十二月三十一日英國大使來訪支那問題ニ談及本大臣ハ雲南  
事件ノ前途予見スヘカサル今日暫ク形勢ヲ觀望スルノ外  
ナカラント述ヘタルニ英國大使ハ本國政府ニ於テモ同様ノ  
意見ニテ其ノ趣旨ノ訓電アリタリト答ヘタリ尚一月五日支  
那公使來訪二月上旬ヲ以テ帝政ヲ実行シタキ支那政府ノ希  
望ニ付重ネテ日本政府ノ意嚮ヲ問ヒタル処本大臣ハ之ニ對  
スル回答ヲ留保スル旨申聞置キタリ

(在英井上大使ヘハ「在仏米伊大使ヘ転電」ト附記ノコト)

二 一月六日 幣原外務次官  
在本邦露國大使會談

中国帝制ノ実施及承認問題ニ関スル露國ノ態  
度ニ付申越ノ件

一月六日露國大使ハ外務次官ヲ訪ヒ左ノ趣旨ヲ述ヘタ  
リ

支那帝制問題ニ関シ日英兩國政府ハ雲南事件ノ鎮定スル迄  
觀望ノ態度ヲ執リ支那政府最近ノ申入ニ對シテモ暫ク回答  
ヲ与ヘサルコトニ意見一致シタル趣ノ処露國政府モ亦今回  
同一ノ態度ヲ執ルコトニ決定シタリ但シ露國政府ハ右日英  
兩國政府ノ考案ハ単ニ暫定的ノ性質ヲ有スルニ止マリ之ヲ  
以テ本問題ノ終局的解決トナサムトスルノ趣意ニハ非スト  
諒解ス蓋シ支那政府ハ二月上旬ニ至ラハ四國政府ノ回答ヲ  
待タスシテ断然帝制ヲ宣布スルコトトナルヤモ計リ難ク露  
国外務大臣ハ今ヨリ此ノ場合ヲ予想シテ之ニ処スヘキ方針  
ニ関シ予メ關係國政府間意見ヲ交換スルノ必要ヲ認メ石井

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 三

男ノ意見ヲ叩クヘキ旨電訓シ来レリ思フニ袁世凱力愈々帝政ヲ宣布スル場合ニハ独塊兩國ハ勿論中立国モ亦拳ツテ新政体ヲ承認スルニ至ルヘク伊国ハ承認問題ニ関シ独塊兩國ニ先ンセラルルノ不利ヲ確信スルモノノ如ク從テ最後迄四国政府ト歩調ヲ共ニスヘキヤ疑フヘシ事茲ニ至テハ四国政府ノミ承認ヲ拒ミ一時支那ト公然ノ關係ヲ絶ツヲ得策トスルヤ否ヤハ此際篤ト講究シ置クコトヲ要スト思考ス

三 一月六日 在天津松平總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

天津ニ於ケル帝制成立祝賀大会状況報告ノ件

公信第六号 (二月十五日接受)

大正五年一月六日

在天津

總領事 松平恒雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

天津ニ於ケル慶賀大会状況報告ノ件

袁世凱皇帝決定ニ関シ当地商務總會協理下蔭昌主催トナリ本月一日、二日、三日ノ三日間ニ亘リ慶賀大会ヲ举行スヘキ旨客年末ヨリ計画シ居タル処举行ノ時間ニ就テハ客年一

右何等御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 日置公使

四 一月八日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ帝制宣布及承認問題ニ関スル在中国

英露仏三国公使ノ意見ニ付報告ノ件

第二〇号 (二月九日接受)

袁世凱支那政府ヨリ五国代表者ニ向ヒテ陰曆一月上旬ニ国体ノ變更ヲ実行シタキ旨公然申出テ且ツ其後本使ニ対シ機會アル毎ニ同様ノ希望ヲ漏ラシタルコトハ既ニ貴聞ニ達シ置キタル通りナルカ他面支那政府ニ於テハ著々国体變更ノ準備ヲ進メ現ニ年号迄モ改メタル次第ニテ一般ノ情勢ヨリ判斷スルニ五国側一致シテ強硬ナル反対ヲ唱フルカ如キコトナキ限り愈々陰曆一月上旬ヲ以テ帝制ヲ宣布スルノ決心ヲ有スルモノト認メラル依テ本使ハ過日来努メテ英露仏三国公使ト接觸ノ機會ヲ作り具ニ本問題ニ関スル意向ヲ探リタルニ三国公使ノ所見ハ左ノ二点ニ付全然一致シ居ルコトヲ確メタリ

(一) 支那政府ハ中外ニ対シ其面目威嚴ヲ保持スルノ必要ト速

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 四

二

月二十九日開催ノ選舉法制定慶賀大会提灯行列ノ如ク夜間举行ノ議モアリタル処官憲側ニ於テハ目下ノ形勢ニ顧ミ夜間举行スル時ハ雜開ニ紛レ不穩ノ拳ニ出ルモノナキヤヲ慮リ夜間ノ举行ヲ許ササリシ由ニテ本月一日ヨリ三日間昼間举行スルコトナリ其第一日ハ会場タル当地南馬路直隸商會聯合會ニ黃殿(我が神輿ノ如キモノ)ヲ安置シ官商各団体參集礼拝ヲ為シ解散シ第二日ハ午前十時頃ヨリ体育社団体六十人軍医学校生徒百人商品陳列所員五十人等ノ団体ヲ始メ合計約一千名ノ參列者ハ続々集合シテ十二時過ヨリ各自ニ旗提灯等ヲ持シ行列ヲ作りテ会場ヲ出テ警察庁巡按使公署前ニテ各種ノ余興ヲ為シ順路会場ニ帰着シ散會シ第三日ハ第一日ト同様ノ礼拝ヲ為シテ閉會セルガ以上三日間共支那各官衙商戸ハ国旗ヲ掲ゲ祝意ヲ表スル管ナリシモ官衙及行列通過ノ沿道ヲ除クノ外ハ殆ンド国旗ヲ掲グルモノナク又沿道ハ見物人群集セルモ一般市中ハ至テ冷淡ニ見受ケラレ概シテ前記選舉法制定祝賀會ニ比シ寂シク見受ケラレ候而シテ前記第二日目ノ如キハ沿道ハ勿論警察庁巡按使公署等ハ武裝巡警ヲシテ嚴重警戒ヲ加ヘ居リタル外無數ノ平服巡警市中ヲ警戒シ居リタル由ニ有之候

ニ不定ノ状態ヲ改メ人心ノ掃蕩ヲ一ニシ十分ノ權威ヲ以テ国内ノ秩序ヲ維持スルノ必要トヨリシテ帝制宣布ヲ一月上旬以後ニ延期シ得サル状態ニアリト認ムルコト

(二) 帝制ノ宣布ヲ見サル限り注視の態度ヲ繼續スルコト素ヨリ異存ナキモ一旦宣布セラレタル上ハ敵国ニ先ンセラレサル様適當ノ時機ニ於テ承認ヲ決行スルコト得策ナルノミナラス實際袁世凱ハ歐洲戰爭勃發後独塊ヨリモ寧ロ聯合國側ニ好意的の態度ヲ示シ居ルヲ以テ仮令一日タリトモ公然主權者ノ地位ニ就キタル上ハ彼ニ対シ独塊ニ比シ不好意ナル態度ヲ以テ酬フヘキ理由ナシト認ムルコト

次ニ雲南事件勃發ノ結果更ニ進ンテ帝制実行延期ヲ勧告スヘキヤトノ問題ニ関シテハ英露兩國公使トモ右ハ未タ十分ノ理由トナスニ足ラス今日ノ処支那政府ニ於テ討伐ノ力ナシト斷言スヘキ何等ノ根拠ナキノミナラス袁ニ支那政府ニ於テ五国代表者ニ対シ責任ヲ以テ国内ノ秩序ヲ維持スヘシト言明シタル關係上暫ク其為ス所ニ一任シ然ルヘク且帝制ノ準備今日ノ程度ニ達シタル以上各國ニ於テ寧ロ速カニ帝制ヲ承認スル事却テ勧告ノ目的タル動乱ヲ避クルノ主旨ニモ合致スヘク世上或ハ袁世凱ニ対スル国民ノ不平怨恨ヲ云

タシ一旦帝制実施スルモ久カラスシテ再度革命ヲ見ルヘシトノ説ヲナス者アルヘキモ支那ノ将来ハ何人モ予断ノ限リニアラサルヲ以テ兎モ角差当リ支那ノ秩序ヲ維持セシムルノ方法ハ現政府ヲシテ十分ニ其權威ヲ使用セシメ他国ヨリ何等其自由ヲ束縛セサルニ如カスト云ヒ尚露国公使ハ支那ハ既ニ事実上五国ノ勸告ヲ無視シテ着々帝制ヲ進行ヲ計リツツアルニ顧ミレハ此ノ上ノ勸告ハ無意味ニシテ強テ之ヲ有効ナラシメントセハ高圧的態度ヲ暗示スルノ外ナカルヘキモ斯クテハ当初ヨリ唱へ來レル友誼的且非公式ノ主旨ニ副ハサルコトナルヘシト附言セリ仏国公使ハ稍其ノ見解ヲ異ニシ雲南事件ヲ以テ論理上延期勸告ノ理由ト為シ得ルモノト認メ居ルモ其ノ効果ニ付テハ疑ヲ抱キ居ルノミナラス支那ニ於テ勸告ノ有無ニ拘ハラス一旦帝制ヲ宣布シタル上ハ事件ノ發展如何ヲ問ハス到底承認ヲ躊躇シ得サル旨語レリ將又英國公使ハ明白ニハ言明セサルモ袁世凱ノ現在ノ地位ニ於テハ何処迄モ帝制計画ヲ押切りテ遂行スルカ又ハ全然政治界ヲ去ルカ二者其ノ一ヲ択フノ外進退ノ途ナカルヘシ故ニ彼ニシテ万一帝制ヲ實現シ得サルトキハ自己ノ体面上必ス現地位ヲ去ルニ至ルヘク彼ノ辭職ハ聽テ無政府状

態ヲ持來タシ支那及各国ノ不幸是ヨリ大ナルハ無カルヘシ日本ハ支那引入問題ニ関シ支那ノ秩序紊乱ヲ慮リ遂ニ三国ノ提議ニ反対シタル位ナレハ此点一考ヲ要スヘシトノ意味合ヲ暗示セリ之ヲ要スルニ三国公使共支那政府ハ陰曆一月上旬ヲ以テ愈々帝制ヲ宣布スルモノト認メ居リ且一旦宣布ノ上ハ独塊ニ後レサル様承認ヲ為ス事必要ナリト信シタルモノト觀察セラル右ハ彼等限リノ所見ナルヘキカトハ思料スルモ御参考迄内報ス尚帝制問題ニ於テハ雲南事件ノ勃発ト關聯シ帝制承認問題ニ付目下慎重御詮議中ト存セラルル処本使含迄ニ大体ノ御方針可成早目ニ御電示アラコトヲ切望ス

(奉天經由 一月八日後八・二五発)

## 五 一月十二日

在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

### 中国帝制ノ承認問題ニ関シ英國外相ハ露国大

使トノ会谈模様内報ノ件

## 第八号

一月十一日「グレー」氏ノ需ニ依リ往訪シタルニ同大臣曰ク昨十日露国大使本國政府ノ訓令ニ基キ支那帝制問題ニ付

覚書提出自分ニ來談アリ覚書ノ趣旨ハ露国政府ノ承知スル所ニテハ支那側ハ二月初ヲ以テ愈帝制宣布ヲ行フヘク右宣布ト同時ニ独塊並米國ハ勿論他ノ中立各国ハ直ニ帝制承認ヲ行フヘシト云フ斯クテハ(一)聯合國側公使館ハ甚タ面白カラサル立場ニ陥ルニ至ルヘキノミナラス(二)聯合國側ニ於テ何時迄モ承認躊躇ヲ為スコトハ或ハ革命党側ニ対スル encouragementノ意味ニモ誤解セララル虞アリ就テハ露国政府ハ支那側ニ於テ愈帝制宣布ノ上ハ直ニ之ニ承認ヲ与ヘタキ考ナルカ英國外務大臣ノ考如何トノコトニ付本大臣ハ露国大使ニ対シ英國政府ニ於テハ本問題ニ付テハ先日本政府ト協議ノ後ナラテハ何等意見ヲ定ムルヲ得サル地位ニアルモ露国政府ノ見地トシテ開示セラレタル前顯二点ハ尤ノ意見ナリト自分ハ思考ス但シ右ハ現下ノ動搖カ此上擴大セラレサル限リニ於テノコトナリト答ヘ置キタリ尚伊国大使ヨリモ独塊ニ後レテ帝制承認ヲ為スハ我方ノ不利ナリトテ同様ノ來談アリ之亦露国大使ニ対スルト同意味ノ答ヲ為シ置ケルガ雲南方面ノ動亂ニ関シテハ其後格別ノ消息モナキヲ以テ見レハ露国政府申越ノ点ハ我方トシテモ同感ノ次第モアルニ付早速「グリーン」大使ニ電訓シ石井男ノ意見

ヲ求メシムルコトト為シタリトノコトニ付本使ハ昨今ノ動亂ニ付テモ恰モ石井男ヨリ最近ノ消息内電アリタリト貴電第一二号ノ内容ヲ程能ク摘説ノ上斯クノ如ク動搖モ追々他ニ波及ノ模様モナキニアラス素ヨリ將來ノ事ハ予言シ得サルモ二月上旬ト云ヘハ尚一ヶ月ハ有之コト故夫レ迄ニハ又形勢如何ニ変化スルヤモ知ルヘカラス旁石井男トシテ本件貴大臣ノ御希望ニ付テハ相当考慮ノ時日ヲ得ンコトヲ欲スヘク即答ハ事實困難ナルヘキカト存セラルルト述ヘタルニ「グレー」氏ハ如何ニモ貴説ノ通ナリ就テハ当方モ敢テ速急ノ回答ヲ望ム次第ニアラサルモ石井男ニ於テ十分ニ本件ニ考慮ヲ加ヘラルル様希望スト云ハレタリ

在米仏伊大使ヘ転電済

## 六 一月十三日

石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

### 中国ノ帝制宣布及承認問題ニ関スル露英兩國

政府ノ意向ニ付通報ノ件

## 第一八号

貴電第八号ニ関シ一月六日在本邦露国大使幣原次官ニ対シ雲南事件ノ鎮定迄觀望ノ態度ヲ執リ支那政府先頃ノ申入ニ

對シテモ暫ク回答セサルコトニハ露国政府モ同感ナルカ支那ハ二月上旬ニモ成ラハ四國ノ回答ヲ待タス帝政ヲ宣布スルヤモ知レス之ニ對スル処置ヲ予メ四國間ニ協議シ置クコト必要ナルヘク独塊及中立國ニ承認ヲ先セラレ四國ノミ之ヲ拒ムハ得策ナリヤ否ヤ講究シ置カサルヘカラスト述ヘタルコトアリシカ一月十二日在本邦英國大使來訪露国政府ニ達シタル報道ニ依レハ日本国政府ハ帝政宣布ハ必スシモ承認ヲ伴フ要ナク聯合國側ハ保留的態度ヲ執ルヲ可トストノ意見ナル趣ナリト冒頭シ以下大要英國外務大臣内話同様ノ露国覺書要領ヲ添エ英國政府ニ於テハ右日本国政府意見ナルモノノ同意スルコトヲ得サル旨記載セル覺書ヲ提出セルニ付大臣ハ本件ニ付テハ政府ノ議ヲ定メ追テ何分ノ儀回答スヘキカ独塊ノ承認ヲ顧慮シ之ヲ標準トシテ全局ノ政策ヲ決スルノ必要ハ之レナキニ非サヤト答ヘ置キタルカ後私信ヲ以テ英國外務大臣ヨリ本件ニ付貴官ト会见シタル旨竝最近動搖擴大ノ模様ニ鑑ミ帝國政府ノ決定ヲ迫ラス

what Sir Edward Grey wishes is to keep in touch with Japan who enjoys special interests and influence in China and so to be in agreement with the Imperial

搜ラントスルノ目的ニ出テタルモノト認メラルル処何レノ途衰ハ五國側ノ態度如何ニ依リテハ予定通り陰曆一月上旬中帝政ヲ宣布セントスルノ決意アルモノト信セラルルニ付此際一日モ速ニ帝國政府ノ態度ヲ判然表明スルノ必要アリト思料ス

八 一月十五日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

周特派大使訪日ニ付日本政府ノ措置振ニ関シ

稟請ノ件

第四三号

周大使出発期日可成速ニ確定通知方過日頻リニ支那側ニ督促シ居ルモ今以テ通知シ來ラサル処一月十三日隨員施履本館員來訪周大使ハ革命黨ノ氣勢日ニ高マリ現ニ上海ノ革命黨員ノ如キ日本ニ向ヒテ売国使節云々ト電報シタル趣ヲ内聞シ且ツ日本ニ於ケル新聞論調モ一般ニ穩カナラサル等ノ事實ニ鑑ミ万一日本ニ於ケル革命黨一派ヨリ危害ヲ受クルコトナキヤヲ頗ル憂慮シ居リ北京奉天間ハ特ニ臨時列車ヲ發スル様交通部ニ交渉中ナル旨ヲ内諾シ暗ニ日本政府ニ於テモ奉天ヨリ臨時列車ヲ差立テラレタキ意味合ヲ洩ラシタ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 八九

Government when the moment comes when a decision must be arrived at トノ旨來電アリタル趣通知シ越シタリ御參考迄  
右仏伊米ヘ転電アリタシ

七 一月十四日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ帝制宣布決意ヲ「モリソン」ガ英國

公使ニ伝ヘタル旨同公使内談ノ件

第四〇号(極秘)

一月十四日英國公使來訪 Morrison 昨夜同公使ヲ訪問シ袁世凱ハ最近同人ニ向テ愈々陰曆一月七日又ハ九日ヲ以テ帝政ヲ宣布スルコトニ決シタル旨ヲ内話シタルコト並ニ同人ノ搜リ得タル処ニ依レハ宣布ト共ニ独塊米三國ハ勿論其他中立國全部必ス承認スルニ至ルヘキコト疑ナキ旨ヲ洩シタリト語り且ツ「モリソン」ガ平素余リ來訪セサルニ拘ラス昨夜突如斯ル話ヲ持込ミタルハ甚タ奇異ニ感スル旨ヲ述ヘ尚同人ノ名前丈ハ絶対ニ秘密ニ願ヒ度旨特ニ申添ヘタリ「モリソン」カ「ジョルダン」ニ對シ前記ノ如キ談話ヲ為シタルハ察スルニ袁ノ意圖ヲ報シ「ジョルダン」ノ意嚮ヲ

ル趣ナリ右ハ体面問題ヨリモ真実革命黨ヲ憂慮シテノコトト存セラルルニ付可相成ハ臨時列車ヲ差立ツル様御詮議ヲ請フ尚往電第二四号ヲ以テ申進シ置キタル我待週振大要此際一日モ速カニ支那側ニ内報シ置キタキニ付至急御決定ノ上電報ヲ請フ

九 一月十五日 石井外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛(電報)

周特派大使來朝見合ハス様中国政府ヘ申入方

訓令ノ件

附記 九月十四日小池政務局長發清野兵庫縣知事宛機密信

第一四号 至急

我皇室ノ御都合ニ依リ周特派大使ノ來朝ハ且ラク見合ハセラルル様致度ニ付此旨至急支那政府ニ申入ラルヘシ本件ニ関シ貴官御含迄別電ヲ以テ申進スベキモ貴官ハ別電ヲ俟タス本訓令ヲ執行セラルヘシ

(附記)

九月十四日小池政務局長發清野兵庫縣知事宛機密信

農商總長周自齊來朝ニ付通知ノ件

機密扱

拜啓時下益々御壯榮奉賀候陳者前支那農商總長周自齊ハ袁世凱死去以来予テ本邦ニ渡航ノ希望ヲ有シ居リタル処今般愈々来朝スルコトト相成周樸ト変名シ家族從者等十二名ト共ニ本月十三日天津出帆ノ湖南丸ニテ神戸ニ向ヒタル由ニ付右様御承知置相成度尚右ノ次第貴地税関側ヘモ轉達方可然御取計相成度此段得貴意候 敬具

追テ右一行出迎ノ為大倉組ヨリ大倉喜七郎氏神戸ニ出向シ「ミカド、ホテル」ニ投宿スル趣ニ有之候間之亦御含置相成度此段申添候也

一〇 一月十五日 石井外務大臣ヨリ  
在中國日置公使宛(電報)

周特派大使来朝見合ノ事由説示ノ件

第一五号

往電一四号ニ関シ

我帝室ニ於テ周特派使節ヲ受ケラルルコトナリタルハ同使節カ全ク聖上御即位式ニ対スル袁大總統ノ祝意ヲ伝フルノ外別ニ何等ノ意味ナキモノト見タルニヨル次第ナル処近頃支那政府ニ於テハ該使節ガ政治上ノ用件ヲ帶フルモノナ

一一 一月十六日 石井外務大臣ヨリ  
在中國日置公使宛(電報)

周特派大使ノ来日見合方申入ノ理由ヲ中国公

使ニ説明シタル旨通報ノ件

第一八号

一月十六日幣原次官ヲシテ支那公使ヲ招キ往電第一四号帝國政府ノ意向ヲ伝ヘシメタル上其事情トシテ左ノ趣旨ヲ内告セシメ置キタリ

元来我帝室ニ於テハ同大使ノ来朝ハ全ク天皇陛下御即位式ニ対スル袁大總統ノ祝意ヲ伝フルノ外別ニ何等政治上ノ意味ナキモノト認メラレ其ノ趣旨ニ依リ帝室ノ貴賓トシテ遇セララルコトニ決シタル次第ナル処周大使ヲ以テ支那帝制問題ニ関スル政治上ノ使命ヲ帶フルモノトスル風説ハ近來支那ヨリノ新聞電報ニ依リ続々伝播セラレ其ノ真偽ハ暫ク措キ今ヤ世人一般之ヲ信スルノ模様アルニ至レリ其結果支那革命黨員中ニハ同大使ノ来朝ニ際シ之ニ危害ヲ加ヘントスルモノアルヤノ報道諸方面ヨリ伝ハリ本邦ニ於テモ亦目下帝制問題ニ関シテ人心激昂ノ状アル折柄何等不穩ノ企ヲ為スモノナキヲ保シ難ク我警察官憲ニ於テハ全力ヲ尽シテ警戒ニ努ムヘキハ勿論ナルモ右

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 一一 一二 一三

ルガ如ク世上ニ吹聴シツ、アルモノト見エ北京ヨリ接到スル新聞電報ハ近來頻リニ該使節カ政治上ノ色彩ヲ有スルコトヲ伝ヘ殊ニ(一)日本ガ該使節ヲ受クルハ暗ニ帝政ヲ承認スルノ態度ヲ示スモノナリトカ(二)該使節ハ日本ニ於テ借款ヲ起サントスルノ意アリ而シテ日本ノ資本家ハ之ニ応スルノ意アリトカ(三)該使節ヲシテ或種ノ讓与ヲ提供セシメ以テ帝政ニ対スル日本ノ承認ヲ求メシムルニ於テハ日本ハ承認ヲ与フルノ意アルモノナリト云フ如キ意味ヲ暗示スル等該使節ハ其当然ノ使命以外ノ意味ヲ有スルモノナルガ如ク伝ヘラレツツアリ從テ我方ニ於テハ右ノ如ク政事上ノ意味ヲ有スルモノト世上ニ了解セラルル使節ヲ受クルコトハ本邦ニ於テ帝制反對熱頗ル昂進セル此際種々ノ誤解ヲ生スルコトトナリテハ甚タ望マシカラサルノミナラズ其結果万一同使節ニ対シ危害ヲ加ヘントスルモノヲ生スルコトナシトモ斷言シ難ク若シ此ノ如キコトアリトスレハ兩國々交上由々敷重大事トモナルヘキ義ニ付政府ニ於テモ熟考ノ末右使節ヲ受ケサルコトトナシタル義ニ付右御含アリタク又貴官ニ於テ適當ト認メラルルニ於テハ叙上ノ趣意ハ在北京英仏露三國公使ニ限リ内話セラルルモ差支ナシ

ノ現状ニ顧ミ全然危険ナキコトヲ保証スルコトハ事實上至難ナリ万一不慮ノ變災ヲ生スルカ如キコトアラハ兩國々交上容易ナラサル事態ヲ醸スヘキニ付寧ろ此際危険ノ虞アル行動ヲ避クルヲ兩國ノ為得策ナリト思考シ同大使来朝ノ延期ヲ支那政府ニ申入ルルコトニ決シタル次第ナリ

一二 一月十六日 在中國日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

周特派大使ノ来日見合方ヲ中国側ニ申入済ノ

件

第四八号

貴電第一四号御訓令ノ義ニ関シテハ不取敢一月十五日夜電話ヲ以テ曹汝霖迄申通シ置キタル上一月十六日更ニ陸徵祥ヲ訪問シ親シク御訓令ノ趣ヲ申述ヘタルニ陸ハ皇室ノ御都合宜シカラストアラバ已ムヲ得サル次第ニ付支那側ニ於テモ大局定マリタル上更メテ派遣方御協議ニ及フコトニ決スヘシト答ヘタリ

一三 一月十七日 在天津松平總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

時局ニ対スル直隸省內官民ノ動向報告ノ件

公信第一九号

(二月二十四日接受)

大正五年一月十七日

在天津

総領事 松 平 恒 雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

時局ニ関シ報告ノ件

新皇即位ノ機日漸次遷延決セサル内偶々雲南ノ兵變勃発シタルヲ以テ各省將軍巡按使等ハ速カニ皇位ニ即キ名分ヲ正シ順逆ヲ明カニスルヲ以テ濟世ノ急務トスベキ旨交々大總統ヘ電報シタルモ中央政府ニテハ大典舉行ノ時各地方變乱ノ続発センコトヲ恐レ容易ニ期日定メズ政事堂ヨリハ特ニ本月七日各地方軍民長官ニ対シ大典ヲ舉行スルモ所管城内ニ事變ノ勃発スル怖レナキヤ若シ動乱アリトセバ直チニ之ヲ鎮定シ得可キヤ否ヤ至急査報方内命中ノ処近日ニ至リ各省ヨリノ回報モ略ホ全部出揃トナリタル由ニテ右覆報ニ抛レハ全然動乱ノ發生スルコトナキヲ断言セシモノハ僅々數省ニ過ギズシテ他ハ動乱ノ發生スルコトナキヲ保証シ難キモ仮令革命党ノ蠢動スルコトアルモ現在ノ兵警ノ力ヲ以テスレハ鎮庄スルニ難カラス地方ノ治安ハ十分責任ヲ負フテ

保衛ヲ怠ラザレバ速カニ大典ヲ舉行シ人心ヲ安スル様覆命シタルコト連日ノ政府公報又ハ公電ニ見受クル所ニ有之候右本月七日政事堂ヨリノ諮詢ニ対スル本省巡按使朱家宝ノ覆命ノ大要ハ一月十日付公信第一一号ヲ以テ所報ノ通りニ有之候処其後直隸省人民代表劉坦蔣等百十九名ハ連署シテ參政院代行立法院宛国体表決ヲ経テ即位ノ礼行ハレサルハ我カ元首ニ在リテハ或ハ固ヨリ皇國ノ大典トナシ從容籌備スル処アルベキモ我人民ニ在リテハ或ハ誤ツテ雲南事件ノ累スル所ニアラザルヤノ疑慮ヲ滋クスルヲ免レス神器一日正サレバ大局一日安カラズ雲南ノ兵變豎子ノ謀逆ニ出ツト雖モ実ニ帝位ノ虚キニ由ル代表等父老ノ委託ヲ受ケ下忱ヲ代達スルノ責任ヲ負フ願クハ我カ皇上身ヲ舍テ国ヲ救フノ夙願ヲ宏フシ普天呼籲ノ熱忱ニ鑒ミ速カニ綸音ヲ頒チ早ク大位ニ登リ天下ノ望ヲ慰テ乱党覬覦ノ心ヲ絶ダンコトヲ乞フ云々ト代奏方電報致候

然ルニ当地ニ於ケル實際ノ民心ハ国体ノ君主タルト共和タルトハ其間フ所ニアラスシテ只管平和ヲ熱望スルノミニ有之随テ国体變更問題ノ發生スルニ方リテモ進シテ画策奔走スルモノナク一ニ官憲ノ武断の強制ニ余儀ナクセラレ君主

居ル態ニ見受ケラレ候御参考迄右及報告候 敬具

本信写送付先 日置公使

一四 一月十八日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国ノ帝制宣布及承認問題ニ関スル英仏露各

国公使ノ談話ニ付報告ノ件

第五四号 至急

一月十七日英國公使來訪セルニ付貴電第一五号周大使派遣見合ノ内情ヲ語リタルニ次テ同公使ヨリ帝制問題ニ関シ何等本國ノ訓令ニ接シ居ルヤトノ質問アリタルニ付本使ヨリ未タ之ナシト答ヘ同公使ハ如何ト反問シタル処帝制一旦宣布セラレタル上ハ到底承認ヲ差控フルコト能ハストノ点丈ハ從來接手セル訓令ニ依リ本國政府ノ意思極メテ明瞭ナルモ關係各國間ノ協議如何ニ進ミ居ルヤハ一切承知セス然ルニ一面支那側ニ於テハ陰曆一月上旬ヲ以テ断然帝制ヲ宣布スルノ決意アルコト現然タルモノアリ時期切迫シ居ル為頗ル進退ニ苦シミ居ル旨内話セリ

同日仏国公使ニ面会英國公使同様周大使派遣見合ノ内情ヲ語リタルニ同公使モ帝制問題ニ言及シ訓令ノ有無ヲ尋ネタ

立憲ニ賛成シタルニ止マリ即チ斯クスルコト平和ノ幸福ヲ享受スル所以ナリト理解シ居タル処陽曆年末ニ至リ雲南獨立ノ警電公布セラレ其後支那官憲ノ嚴重ナル新聞取締ノ為メ当地新聞紙何レモ動乱ニ関スル記事ヲ差控ヘ居ルモ漸次南支一般不穩ノ風説次第ニ傳播シ何トナク人心ニ一種ノ恐怖ヲ来シ先年掠奪ニ懲リ居ル商民等ハ各自警戒ヲ加ヘ是レカ為メ欧州戰乱以來緊縮一方ノ金融界ニ層一層ノ逼迫ヲ来シ銀行並ニ資本家モ回収ヲ急ギ放資ヲ手控フルニ至リタルヲ以テ陰曆年間ヲ日躋ノ間ニ控フル今日商民ノ困却一方ナラサルヲ以テ直隸巡按使ヨリ中央政府ニ具申シ中国銀行交通銀行ニ天津市面ノ維持ヲ命達スルノ運ニ至リ右内命ヲ受ケタル前記二銀行ト天津商務總會トハ一両日来屢々会合シテ一切ノ手續ヲ打チ合セ不取敢確實ナル動産不動産並ニ有力ナル官紳ノ保証アルモノニ対シテハ可及的便宜ヲ与フルコト、ナリタルヲ以テ市面モ稍々緩和セラレタル觀アルモ實際ノ決濟時期タル旧曆二十四五日頃ニ至リテ尚ホ今日ノ状態ヲ持續スルコトヲ得ルヤ否ヤ一ニ係リテ南支那動乱ノ消長如何ニ在ル事トテ今日ニテハ何人トモ將來ヲ想像シ難ク各自警戒一方ニ有之從ツテ商務モ一方ナラズ阻滯セラレ

ルニ付本使ヨリモ同様反問シタル処同公使ハ曩ニ本国政府ニ向ヒテ今日ハ第三次勧告ヲ試ムヘキ時機ナリトノ意見ヲ具シ請訓シ置キタルモ未タ回訓ニ接セス併シ是迄接手セル電訓中ニハ支那ノ為日本ト意志ノ疏通ヲ欠クカ如キコトハ断シテ為サル方針ナリトノ意味アリタルニ付日本ヨリ第三次勧告ヲ提議セハ仏国政府ハ必ス之ニ同意スヘシト信ス且其ノ他ノ諸国モ結局之ニ同意スルノ外ナカルヘシト思料ス

尚自分個人トシテハ独塊ニ後レスシテ承認スヘシトノ説ニハ必スシモ同意スル次第ニアラサルモ支那ヲシテ帝制ヲ宣布セシメナガラ之カ承認ヲ拒ミ關係国ノミ異常ノ地位ニ立ツコトハ如何ニモ面白カラサルニ付寧ロ帝制宣布其物ヲ阻止シテ各国共ニ同様ノ地位ニ立ツノ方策ヲ執ルコト得策ナルヘシト信ス何レニセヨ時機甚タ切迫シ居ルニ付日本政府ニ於テ速ニ明確ナル意思ヲ表示セラレンコトヲ切望ス云々ト語レリ尚同日露国公使モ来訪セルニ付周大使ノ件ヲ内話セルニ同公使ハ帝制問題ニ関シテハ何等言及セス將又各方面ノ情報及四圍ノ状況ニ顧ミルニ支那政府ニ於テハ愈々陰曆一月上旬ニ帝政ヲ宣布スルノ決心ナルカ如ク且前以テ申

ムヘキ辞柄ナク又對外關係ニ於テモ客年十二月十五日關係五国政府ヨリ受ケタル申入ノ要領暫ク形勢ヲ注視スヘシト云フニ在リテ其ノ前ニ受ケタル延期ノ勧告トハ自ラ其ノ性質ヲ異ニス又其ノ後実行ノ期日ニ関シ陸公使ヨリ石井外相ノ意嚮ヲ問ヒタル処外相ハ右ニ對スル回答ヲ留保スル旨ヲ答ヘラレ爾來何等申聞ケラルル所之レナキニ付支那政府ニ於テハ最早ヤ実行ニ著手スルモ差支ナカルヘクト考エ居ルカ果シテ如何ノモノニヤト述ヘ次テ愈々申令發布ノ上ハ右ニ基キ直ニ当地各国公使ヘ同文ノ通牒ヲ發スルコトトナルヘシト云ヒ申令發布ノ日取等ハ未確定ナリトスルモ事態ハ余程切迫シ居ルヤニ見受ケラレタルニ付高尾ハ本件ハ從來ノ行掛リヨリスルモ我方ニ無斷ニテ決行スルカ如キコトアリテハ意外ノ紛糾ヲ醸スニ至ルヘキ旨ヲ警告シ置キタル趣ナリ

一六 一月十九日 閣議決定

中国帝政問題ニ関シ我政策決定ノ件

大正五年一月十九日於貴族院控室決定

支那政府ハ曩ニ帝政計画延期ニ関スル帝國政府ノ勧告ニ對

令ヲ發シ即位期日ヲ公布スルノ計画アルモノト認メラル

一五 一月十八日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝制宣布ハ此上延期不可能ノ状態ニ在ル旨曹

如霖高尾ニ内話ノ件

第五六号

支那政府ニ於テ即位期日公布ノ申令ヲ近ク發表セラルルニ至ルヘシトノ義ニ付テハ往電第三六号曹汝霖内話ノ次第モアリタル処昨今ニ至リ又復該申令ハ愈々兩三日中ニ其ノ發布ヲ見ルニ至ルヘシトノ説伝ハリ居ルニ付一月十七日別用ヲ以テ高尾ヲ曹汝霖ノ許ニ遣ハシタル際事實ノ有無ヲ問ハシメタル処曹ハ該申令ヲ今直ニ發布スヘキヤ否ヤニ付テハ目下慎重熟議中ニテ未タ何等ノ決定ヲ見スト雖政府当局ニ於テハ四圍ノ状況ニ鑑ミ此上実行ヲ延期スルコトハ到底不可能ノ状態ニ在リ即チ各省將軍巡按使等ヨリハ地方ノ治安ハ自分等ニ於テ素ヨリ其ノ責ニ任スヘキモ帝制ノ実行ヲ斯ク迄延期セラルルニ於テハ人心動揺ノ結果如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ計リ難キニ付此際速ニ断行アリタキ旨ノ意見ヲ頻リニ寄せ来リ對内關係ニ於テハ此ノ上実行ヲ延期セシ

シ国内ノ形勢毫モ憂慮スベキモノナキ旨言明シタルニ拘ラス今回雲南ニ端ヲ發シタル動乱ハ其形勢決シテ輕視スヘカラサルモノアリ就テハ万一支那政府ニ於テ此情勢ヲ無視シ強ヒテ帝政ヲ実行スルニ至ルトモ帝國政府ニ於テハ一面南方ニ於ケル動乱ノ發展ヲ注視シツツ帝政承認ヲ差控ヘ一面支那ニ向ツテハ列国協同トシテ更ニ勧告ヲ重ヌルニハ及バザルモ現ニ發生セル動乱ヲ無視シテ帝政ヲ実行スルノ無謀ナル所以ヲ明白ニ表示スルコトトスベシ

右ニ付テハ關係四国ニ對シ成ルヘク我方ト同一ノ態度ニ出ツル様交渉ヲ遂クルコトト致度

(欄外註記)

「一月十九日閣議ノ際高田文部大臣差支欠席ノ処同月二十一日同大臣ノ追認アリタリ」

一七 一月二十日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

周特派大使ノ渡日ニ関スル談話報告ノ件

附屬書 一月十五日周特派大使ノ船津書記官ニ對スル談話要領

機密第一六号

(大正五年一月二十六日接受)

大正五年一月二十日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

特派大使周自齊談話報告ノ件

周特派大使ノ渡日ニ関シテハ種々ナル風評伝ハリタルニ付  
出發前爲念其真意ヲ確メタクト存シ別懇ノ間柄ナル船津書  
記官ニ旨ヲ含メ置キタルニ本月十五日夕周大使ハ暇乞旁同  
書記官ヲ來訪シタルニ付其トナク探リヲ入レタルニ大要別  
紙ノ通懇談シタル趣ニ有之候

右御參考迄及報告候也

(附屬書)

周大使談話要領

今回予ノ使命ニ付日本ノ新聞紙ハ種々ノ揣摩臆測ノ説ヲ爲  
シ甚シキハ帝政承認ヲ哀願シ之ニ対シ交換的ニ何等カノ利  
権ヲ提供スヘキ使命ヲ帶ベリナドノ説ヲ爲シ居レリ忌憚ナ  
ク評スレバ是全然小人ノ心ヲ以テ君子ノ心ヲ忖度スルモノ  
ナリト云フノ外ナシ

最初ハ一々此等新聞記事ニ多大ノ注意ヲ払ヒ居リシモ右ハ  
決シテ貴国政府及有識者ノ意見ニ非ザルベシト思惟シ爾來

スル希望ニシテ単ニ經濟的發展ニ在リトスレバ日支ノ提携  
ハ決シテ困難ナルモノニ非スト信ス予ハ現ニ農商總長ノ任  
ニ在ルヲ以テ今回貴国到着ノ上正式使命ヲ首尾能ク果シタ  
ル後時日ノ許ス限リ農商總長ノ資格ヲ以テ貴国ノ有力ナル  
實業家ト会见シ有益ナル意見ヲ聴取セムコトヲ切望シ居レ  
リ尚大總統ヨリ其際適當ノ機会アラハ大總統ガ誠心誠意日  
支国交ノ親善ト經濟の提携ニ意アルコトヲ説明シ同時ニ日  
本有力者ノ支那ニ対スル腹藏ナキ意見即チ其真意果シテ那  
辺ニ在ルヤヲ確メ來ルヘキ旨ノ内訓ヲモ受ケ居レリ但シ右  
ハ之ヲ語ルヘキ機会ナケレハ強テ發表セサル積ナリ

日本ニ於テハ袁總統ニ対シ一種ノ強烈ナル惡感ヲ懷キ過去  
ニ於ケル袁總統ノ日本ニ対スル態度等ヲ云々シ袁總統ハ到  
底日本ト親善ナル能ハサルモノ、如ク推断スルモノ尠カラ  
サル由ナルガコハ大ナル謬見ナリ袁總統ガ朝鮮駐在當時及  
北京ニ於テ外交ノ衝ニ当リシ際ノ如キ其態度往々日本ニ不  
利ナル場合モアリシナラン、然シ人各其立場ヲ異ニスル以  
上其意見ヲ異ニスルハ已ムヲ得サル次第ナリ恰モ日本ノ当  
局者ガ自國ノ利益ヲ保護スル爲ニハ他國ノ利益ヲ顧ミルニ  
遑アラサルト同一理ナリ団匪事變後日露戰爭當時ニ至ル袁

余リ氣ニ留メサルコトトセリ

今回ノ使節ハ御承知ノ通り最初貴国大皇帝ノ即位御大典ヲ  
奉祝スル爲メ其當時派遣スル筈ナリシモ貴國ノ御都合其他  
ノ關係等ニ因リ御大典終了後派遣スルコトトナリ今日之ヲ  
實行スル次第ニテ即チ公式照会ノ通り我元首ヨリ貴国大皇  
帝ニ対シ格外ノ親睦ノ意ヲ表スル爲徹國最高ノ勲章ヲ捧呈  
シ兼テ御大典ニ対スル祝意ヲ表スル爲ニ外ナラス此以外何  
等政治的意味アルニ非ルハ言フ迄モナキコトナリ

我大總統ハ平素日支ノ親交提携ヲ熱望シ居ルニ拘ハラス其  
實際ニ於ケル日支間ノ關係ハ今日迄ノ処常ニ其希望ト背馳  
シ近來ニ至リ日支間感情ノ睽離ハ益其度ヲ高メ実ニ憂慮ニ  
堪ヘサルノ形勢ヲ醸シツ、アルニ付此形勢ヲ排除スルコト  
刻下ノ急務ナリ支那ハ日本ガ事毎ニ压迫強制的ナルヲ怨ミ  
日本ハ支那ガ遠交近攻ノ小策ヲ弄シ反覆常ナキヲ憤リ互ニ  
相責メツツアルガ今更既往ノ事實ヲ挙ケテ彼是詮議スルモ  
無益ノ事ナリ要スルニ其過ハ双方ニ在リトシテ今後如何ニ  
スレハ日支兩國ハ果シテ親善提携ノ実ヲ挙げ得ヘキヤヲ研  
究スルコト肝要ナルベシ日本ニシテ若シ領土の侵略ノ野心  
アリトスレハ因ヨリ何等考究ノ必要ナキモ日本ノ支那ニ対

總統ノ対日態度ヲ見レハ其排日的ナリシヤ否ヤ一目瞭然タ  
ルモノアラン、今仮リニ袁總統ニシテ日本人ノ想像スル如  
ク渾身排日的思想ヲ以テ満タサレ居ルモノトスルモ袁總統  
ハ自己ノ感情ニ制セラレ國家ノ利害ヲ度外視スル程ノ馬鹿  
者ニ非ス故ニ苟モ日本ト提携スルコトガ支那ノ利益ナルコ  
ト明白ナル以上自己ノ感情ノ爲ニ國家ノ大計ヲ誤ル如キコ  
ト断シテ之レナキヲ信ス況ンヤ日本ノ對支態度ニシテ今少  
シク親善ノ真意ヲ示サレムカ日支經濟上ノ提携ノ如キ蓋シ  
容易ナルベシ然シ日本ノ態度ニシテ不絶支那ヲ压迫刺激ス  
ルノミナラハ支那ハ遂ニ窮余自己百年ノ利害ヲ考量スルノ  
遑ナク一時ノ急苦ヲ逃レンガ爲メ如何ナル事ヲ仕出來スヤ  
モ計リ難シ人間一タビ死ヲ決スレハ如何ナル事ヲナスモ辞  
セサルナリ國家モ同様ニテ一旦亡國ト決心シタル以上如何  
ナル犠牲ヲ払フモ辞セサルニ至ルベシ想フニ支那ノ滅亡ハ  
決シテ日本ノ利益ニ非ザルベシ予ハ此行日本朝野ノ有力ナ  
ル政治家及實業家ニ接觸シ其支那ニ対スル真意ノ在ル所ヲ  
窺知スルコトヲ得バ非常ニ欣幸トスル所ナリ云々

一八 一月二十一日

石井外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛(電報)

中国ノ二月上旬帝政実施ハ日本政府ニ於テ承認スルヲ得ザル所以ヲ中国公使ニ宣明シタル旨通報及訓令ノ件

第二八号

一月二十一日在本邦支那公使ノ来省ヲ求メ左ノ通り本大臣ヨリ開陳シ置キタリ

「本月五日在本邦支那公使ヨリ二月初旬ニ於テ帝政ヲ実行シタキ処之ニ対シ帝國政府ニ於テ如何ナル意嚮ヲ有スルヤ承知シタキ旨申出テアリタルニ対シ本大臣ハ暫ク其答ヲ留保スル旨述ヘ置キタルガ本月十八日日置公使ヨリ電稟シ来レル所ニヨレハ支那政府ニ於テハ本問題ニ関シ帝國政府ノ明瞭ナル所存ヲ承知シタキ趣ナルニ付令改メテ本大臣ヨリ申述フヘシ而シテ今述フル所ハ本大臣ノ私見ニアラスシテ帝國政府ノ所見ナルニ付右ニ承知アリタシ抑モ帝國ガ他ノ關係諸国ト共ニ支那政府ニ対シ帝制実施延期ノ勸告ヲ為シタルニ対シ同政府ハ支那ノ国情ヲ最モ明ニスルモノハ支那政府ニシテ外国政府ハ之ヲ詳ニスル事難カルヘシ支那政府ノ見ル所ヲ以テスレハ国内憂慮スヘキ事断シテ之ナク同政府ハ責任ヲ以テ国内ノ平和ヲ維持スヘキコトヲ明言セリ然

中国帝政問題ニ対スル我方針及之ニ同調方希望ヲ任国政府ニ内告方訓令ノ件

第三〇号 (英宛)

第三六号 (露宛)

支那帝政問題ニ関シ本大臣私見トシテ独塊両国ノ承認ヲ願慮シ之ヲ標準トシテ全局ノ政策ヲ決定スルノ必要ナカルヘキ旨在本邦英國大使ニ内話ノ次第ハ(英ヘハ)往電第一八号後末ニテ御承知ノ通ナル処帝國政府ノ廟議モ愈々決定シタルニ付本大臣ハ一月二十一日在本邦英露両国大使(仏国大使ハ風邪ノ為メ面会ヲ得ス)ノ来省ヲ求メ左ノ趣旨ヲ申述ベ置キタリ

「支那政府ハ曩ニ五国政府ノ勸告ニ対シ国内ノ形勢毫モ憂慮スヘキモノナク責任ヲ以テ平和ヲ維持スヘキ旨保障シタルニ拘ハラス今回雲南ニ端ヲ発シタル動乱ハ其情勢輕視スヘカラサルモノアリ此ノ如キ時ニ方リ若シ支那政府ニシテ五国ノ勸告ト国内ノ動乱トヲ無視シ強キテ帝政ヲ実施スルカ如キコトアラハ帝國政府ニ於テ之ヲ承認シ得サルハ本件從來ノ成行及帝國政府ノ立場ニ顧ミ当然ノ義ナリ然ルニ帝國政府ノ有スル報道ニ徴スルニ此際關係国政府ニシテ依然

ルニ客年末ニ至リ雲南ニ動乱ヲ発シ同省ノ独立ノ宣言ヲ見ルニ至リ今日ニ至ル迄支那政府ハ未タ之ヲ鎮定スルコト能ハサルモノ、如シ事態此ノ如キ時ニ方リ若シ支那政府ニシテ列国勸告ノ趣意ヲ無視シ国内動乱ノ実情ヲ顧慮セス帝政ヲ実施スルカ如キコトアルニ於テハ帝國政府ハ断シテ之ヲ承認スルコト能ハス今日ニ在テハ在本邦支那公使ハ本大臣ト交渉シ在北京帝國公使ハ外交總長ト交渉スルヲ得ルモ万一帝國政府ニシテ支那ノ帝政ヲ承認セサル場合ニ立至ルトセハ兩國ニ於ケル外交機關ハ兩國政府当局者ト正式ノ交渉応酬ヲ為ス事能ハサルニ至ルヘク其結果恐ルヘキ誤解ノ發生セサルヲ保シ難ク此ノ如キハ兩國ノ最モ避ク可キ所ナリ支那政府ニ於テ慎重考慮スル事然ルヘシ」

右ニ対シ在本邦支那公使ハ然ラハ何日頃迄延期セバ可ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ延期ノ時期ヲ言明スル事ハ為シ能ハサルモ此際支那政府ニ於テ国内動乱ヲ鎮定スル事力先決問題ナルヘシト述ヘ置キタリ以上御含ノ上貴官ハ北京政府当局者ニ対シ念ノ為叙上ノ趣意ヲ述ヘ置カレタシ

一九 一月二十一日 石井外務大臣ヨリ  
在英國井上、在露国本野各大使宛(電報)

結束ヲ鞏固ニシ其今日迄執リ来リタル方針ヲ維持スルニ於テハ支那政府ハ当分帝政実行ヲ延期スヘシト信スヘキ理由アルニヨリ責任国政府ニ於テモ本問題ニ対スル從來ノ態度ヲ持續セラレ帝國政府ト同一ノ方針ニ出デラレンコトヲ希望ス帝國政府ニ於テハ支那政府ニ対シ現ニ發生セル動乱ト五国勸告ノ趣旨トヲ無視シ帝政ヲ実行スルノ無謀ナル所以ヲ明白ニ申述フル考ナリ」

以上ノ次第ハ念ノ為貴官ヨリモ責任国政府ニ内告シ置カルヘシ

(英ヘ) 末段「以上ノ次第ハ」以下ヲ「以上ノ次第ハ貴官ヨリ仏国政府ニ内告シ先方ノ意嚮ヲ電報セラルヘシ」ト改メ訓令トシテ在仏代理大使ニ転電シ参考トシテ在伊米大使ニ転電セラルヘシ

二〇 一月二十一日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国政府ヨリ二月上旬帝政実施ノ決定取消ニ付正式通知越ノ件

第七四号 大至急

一月二十一日午前曹次長高尾ノ来訪ヲ求メ外交總長ヨリ本

使ヘノ伝言トシテ支那政府ニテハ陽曆二月上旬ヲ以テ帝制ヲ実行スルコトニ決定シ居リタルモ大總統ヨリ雲南事件ノ勃発及討伐軍カ未タ雲南ニ到達セサルノ事情等ニ顧ミ右決定ヲ取消スヘキ旨命令アリタルニ付政府ニ於テ之ヲ取消スコトニ確定シタル旨公然通知シ右至急帝國政府ニ伝達アリタキ旨申述ヘタリ關係各國公使ニモ夫々同様ノ通知ヲ為シタリ

二 一月二十一日 在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

英国外相ハ仏国首相トノ会談力歐洲問題ノ外  
中国帝政問題ニ及ビタル旨ヲ述ベ日本ノ中国  
帝政不承認ノ理由ヲ承知シ度キ旨語リタル件

第一七号

一月二十日「グレー」氏本使ノ来訪ヲ求メ先ツ仏国首相一行ノ来英ニ言及シ英仏当局会見ノ結果外交上軍事上ノ諸問題ニ関シ双方ノ間全然意見ノ一致ヲ見タリ会谈ニ上リタルハ先ツ「サロニカ」問題ナルカ希臘政府ハ今ヤ同地ニ於ケル聯合軍ノ軍事上必要ノ措置ニ異議ヲ挟マサルヘキ旨ノ保障ヲ与ヘタルヲ以テ英仏兩國ハ同地ヲ fortify スルコト其

他ノ措置ヲ執ルニ一決セリ次ニ仏国ニ於テハ石炭不十分ノ為補充方ニ付相談アリタルガ英國ニ於テモ船舶ノ不足ニ苦ミ居ル際ナレトモ此際出来得ル限り仏国側ノ希望ニ副フヘク努力方応諾セリ尚此ノ外仏国首相ヨリ進シテ持出シタル問題アリ則チ支那帝政承認ノ件ナリト述ヘ更ニ語ヲ進メテ曰ク「ブリアン」氏ハ仏国側ノ消息ニ拠レハ支那ハ二月上旬ヲ以テ愈々帝制宣布ヲ行フトノ事ニテ其場合ニハ他國ハ何レモ直チニ之ニ承認ヲ与フル模様ナルカ聯合國側ノミ其承認ヲ拒絕スル事ハ聯合國側ノ不利ト思考スルニ付渺クトモ他國ト同時ニ承認ノ事ニ自分(「グレー」氏)ノ同意ヲ得タシトノ事ニ付自分ハ同氏ノ所説尤トハ存スルモ我方ハ現ニ本件ニ付日本ト相談中ニアリ英國政府ノ立場トシテハ日本トノ話纏マル迄ハ本件ノ処決ヲ保留シタキ次第ナリト述ヘ就テハ此際ノ処置トシテ在東京聯合國各大使ヲシテ交渉セシメテハ如何ト述ヘタルニ仏国首相モ之ニ賛成シ早速在東京英仏大使ヘ其旨訓令スル事トナリ自分ヨリハ既ニ「グリーン」ヘ發電セリ尚右ニ付テハ在北京聯合國公使ヲシテ現場ノ形勢及其ノ意見ヲ在東京大使ノ参考迄電報セシムルコトニ之レ又「ブリアン」氏ト協議済ニテ既ニ「ジョ

右伊仏米大使ヘ転電済

二 一月二十二日 在仏国田付臨時代理大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

仏国ハ独逸兩國ガ聯合側ニ先チテ帝政承認ノ  
拳ニ出ツベキヲ虞レ居ル件

第六号

(二月二十三日接受)

一月二十二日漸ク「ド、マーゼリー」氏ニ面会スルコトヲ得テ貴電第七号ノ趣ヲ書面ニ認メ之ヲ交付スルト同時ニ口頭ヲ以テ謝意伝達方ヲ依頼シ置ケリ此機会ニ於テ在英大使転電閣下宛往電第一七号中主トシテ支那ニ関シ談話ノ次第之レアリタル処同氏ハ曰ク独逸兩國ノミカ聯合側ニ先チテ支那帝政ヲ承認スルニ至ランカ袁世凱ニ対スル独逸側ノ勢力ハ頓ニ強勢トナリ袁世凱モ独逸ノ行為ニ顧ミ今後聯合側ヨリ支那ニ於テ何等排独逸処置ヲ請求スルモ袁世凱ニ於テ之ヲ甘諾スルコトヲ憚ルニ至ルヘク之レ最モ仏国側ノ虞ルル処ナリ去レハ此点ヲ充分ニ閣下ニ対シ解説スヘキ様本日在日本仏国大使ニ対シ電訓スル筈ナリ尤本件ニ関シテモ亦独人放逐ノ件ニ付テモ日本政府ト前以テ充分熟議ヲ遂ケサルヘカラストノ英國ノ意見ハ仏国政府モ全ク同見ナリ將又

ルダン」公使ヘモ其ノ旨電訓シタリトノコトニ付本使ハ支那ノコトニ付テハ恰モ本使含迄トシテ石井男ヨリ内訓ノ次第アリトテ貴電第二六号ノ件程好ク内話ノ上右ニ依リテ見レハ帝制ニ対スル日本輿論ノ反感ハ随分有力ノモノノ如ク又今朝路透電報ニ見エタル北京宮城内ニ於ケル爆彈発見云々ノ報ニ見ルモ兎ニ角支那ノ事態ハ不安ノ観ヲ免レサル此際承認問題ヲ決スル如キハ早計ノ嫌ナキヤ從テ石井男ニ於テモ速急ノ処決ヲナスハ困難ナルヘキカト思考スル旨私見トシテ述ヘタル所「グレー」氏ハ動亂發生ノ場合ニハ夫迄ナレトモ左モナキ限り支那ノ帝政宣布ニ際シ聯合國側ニ於テ他國ト共ニ之ニ承認ヲ与フルコトハ依テ以テ袁世凱ノ地位ヲ強固ニシ一面袁ニ対スル反対分子ニ対シテハ何等画策ノ徒勞ナルコトヲ知ラシムルニ足ルヘク即チ鎮圧的ノ効果アルヘシト思考スル旨ヲ述ヘ尚万一石井男ニ於テ前述承認ヲ不可トセラルルニ於テハ詳細ニ其理由ヲ回示セラルル様致シタク其儀ハ本問題ニ付テハ既ニ昨日モ議會ニ於テ質問アリ英國政府ニ於テ十分議會ヲ満足セシムルニ足ルヘキ理由ノ説明ヲ必要トスル立場ニアルヲ以テナリト語ラレタリ  
仏国首相一行ハ二十日朝出發帰国ス

独逸人放逐問題モ又今回倫敦会见ニ於テ談話ニ上リタルモ後日ノ談話ニ讓ルコトナリタリ  
英露伊ヘ転電セリ

二三 一月二十二日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国ノ帝制承認ニ関シ英國其他連合国ト同調  
方稟申ノ件

第二〇号

往電第一七号支那帝政承認問題ニ関シ「グレー」氏ノ談話ニ対スル本使ノ応対振ハ該電ノ三ニテ御承知ノ如クナル処由来本問題ニ関スル伊仏露国ノ意嚮並ニ彼等ノ側ヨリ当国政府ニ一切内議シ来リタル次第ハ従前ノ拙電ニテ御承知ノ通りニ有之「グレー」氏ハ我邦トノ關係ヲ重シ今日迄ハ右三国側ニ対シ努メテ保留的態度ヲ守リ来リタルモ英國政府トシテハ其意嚮全ク三国側ト同一ナルハ是又昨二十日同大臣ノ談話ニ明カナル処ニシテ殊ニ一般ノ輿論モ独逸其他ノ諸国ヲシテ帝政承認ノ先驅ヲナサシムルコトハ支那ニ於ケル英國ノ地位ヲ害スルモノナリト云フニ帰着シ居レリ雲南方面ノ動搖ガ其間著シク拡大シテ一般ノ神經ヲ聳動スルニ

第七九号

貴電第七四号ニ関シ一月十八日曹汝霖来談ノ結果支那政府ニ於テハ屢次報告シ置キタル通り陰曆一月上旬帝政実行ノ計画ヲ有シ居ルモ去リトテ我國ノ意嚮ヲ無視シテ之ヲ断行セントスル程ノ決心モナク只管我真意ヲ突キ止メンコトニ腐心シ居ルモノノ如クニ認メラルル旨不取敢往電第六六号ヲ以テ電報シ置キタル処今回支那側ニ於テ急遽自ラ処決スルニ至リタルハ帝國政府其後ノ態度如何ニモ不可解ニシテ何トナク底氣味惡ク感シ居リタル矢先我國ニ於ケル民論日一日ト險惡ノ度ヲ増シ加之大隈首相ニ爆彈投下周大使ノ出発差止メ上海ニ於ケル軍艦修理十二月青木中將ノ渡支等各種ノ事件続発シタル為予テ我野心ヲ疑ヒ居レル支那官民及一般外国官民ニ対シ遽ニ一種ノ感想ヲ与ヘタルモノノ如ク中ニハ此機会ニ乘シ我國カ必ス何等カノ高圧的行動ニ出ツヘシト想像シ苟モ口実ヲ与ヘサランコトニ焦慮シタルモノアルヘク之ト同時ニ他面仏国公使ノ雲南事件ヲ以テ第三警告ノ理由トナシ得ヘシトノ意見及米国公使ノ危險ヲ冒シテ無理ニ帝制ヲ実行スルヨリモ寧ロ依然共和ヲ維持スルコト得策ナルヘシトノ意見(別電第八〇号)モ自然支那側及外

至ラサル限り帝政宣布ノ場合少クモ独逸側ト同時ニ承認スルコトハ当然ノ策ト認メ居ルモノ、如ク旁以テ英國政府ノ立場トシテハ前頭内外ノ事情ニ鑑ミ万一帝國政府ニ於テ尚承認猶予ニ決セラルル場合ニ於テハ已ムナク他ノ聯合國ト歩調ヲ一ニスル為帝制宣布ト同時ニ承認ヲ与フルノ余義ナキニ至ルモ計リ難ク斯クテハ同盟国トシテ英國トノ關係竝ニ他ノ聯合与国ニ対スル我立場ニ於テモ甚タ面白カラス或ハ外間ヲシテ我ニ於テ独逸ノ離間策ニ陥ルモノト誤解ヲ来タシ殊ニ帝國独リ支那側惡感ノ衝ニ当ルガ如キ結果ヲ生スルニ至ルノ憂アルヘク固ヨリ我政府ニ於テ此際自カラ顧慮ヲ要セラルル事情モ之レアルヘキコトトハ思考スルモ二月上旬迄ハ尚多少ノ日子モアリ雲南方面ノ(脱)上差シタル拡大モ見エサル限り帝國政府ニ於テ前述大局ヲ打算ニ照シ遅クモ帝制宣布前ニ英國其他聯合國側ト歩調ヲ一ニセラルル方然ルヘシト思考セラル御参考迄卑見稟申ス

二四 一月二十二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国政府ガ急転直下帝政実施計画ノ取消ヲ決  
スルニ至リタル事情ニ関シ報告ノ件

国側ニ反映シ或種ノ作用ヲ及ホシタルニ相違ナク其他一般国内ノ状勢ニ徴スルニ雲南事件ノ鎮定容易ナラサルト共ニ暗流次第ニ各地ニ漲蔓シ人心不安ニ驅ラレ財政モ窮乏ヲ告ケツツアル等ノ事情彼此綜合シテ袁世凱及支那当路者ノ心理ニ強力ナル圧迫ヲ加ヘタル結果ナルヘク而シテ支那側ニ於テ斯ク迄急転直下のニ決意ヲ為スニ至リタル動機ハ万一愈々帝國政府ニ於テ单独又ハ協同ノ力ヲ以テ強硬ナル提言ヲ為シ懇談ノ余地ヲ与ヘサルカ如キコトトモナラハ支那トシテハ結局之ニ応セサルヘカサル破目ニ陥リ其ノ体面ヲ傷クルト共ニ時機等ニ付テモ束縛ヲ受ケ甚タ不利益ナル結果ヲ来スヘキヲ以テ寧ロ機先ヲ制シテ自動的処置ニ出テ将来ノ為余地ヲ存スルニ如カストノ考ニ出テタルモノト認メラル尚二十日我宮中ニ於テ支那時局ニ関シ元老大臣會議開催セラレタリトノ報道モ或ハ今回ノ決意ヲ促進セシメタルモノナランカト觀察セラル

二五 一月二十二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

米国公使ハ英國公使ニ対シ此際帝政強行ノ必  
要ナカルベキ旨語リタル件

第八〇号

最近確カナル筋ヨリ米国公使ハ英國公使ニ向ヒテ雲南事件鎮定マデ帝制ヲ承認セサルコト至当ナリトノ意見ヲ米國政府ニ電稟シタル旨内話セル趣漏レ聞キタルニ付一月二十一日支那政府ヨリ帝制実行見合セノ通知ニ接スル前英國公使ヲ訪問シ夫レトナク質問セルニ同公使ハ過日米國公使來訪ノ際米國ハ元來法律的ノ国柄ナルヲ以テ(支那ガ帝制宣布ヲ敢行スルニ於テ)ハ之ヲ承認スルニ躊躇セサルヘキモ雲南事件勃発シ国内ノ模様落着カサル今日支那トシテハ危險ヲ冒シテマデ無理ニ帝制ヲ実行スルノ必要ナカルヘク寧ロ依然共和制ヲ持續スルコト得策ナルヘシト語リタルコトアルモ同公使一己ノ意見ナルヤ判明セサリキト内話セリ

二六 一月二十二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

坂西大佐ガ袁世凱ニ対シ日本ハ中国帝制ニ強硬反対ナルヲ暗示シタル件

号外 極秘

坂西大佐ハ田中參謀次長ノ私電ニ依リ一月十八日恰モ曹汝霖本使來訪ト同刻ニ袁世凱ニ内謁シテ我國ノ強硬ナル態度

一月二十四日朝「グレー」氏 weekend ムリ帰來ニ付早速訪問ノ上貴電第三四号ノ英訳ヲ手交御訓示ノ趣旨篤ト陳説次イデ貴電第三四号ノ次第ヲ談話シタルニ同大臣ハ帝制宣布延期ノ件ハ恰モ昨日「ジョルダン」ヨリモ同様電報アリ之ニテ承認問題モ差向キ立消トナリタル次第ニテ自分モ大ニ安堵ノ感アリ但本問題ヲ奇貨トシテ支那側款心ヲ買ハントシタル独逸ハ不快ヲ感シ居ル事ナルヘシト述ヘ尚本件支那政府ノ通牒ニ対シテハ石井男ニ於テ何等カ応答ヲ与フルノ考ナカルヘキヤ自分ノ考ニテハ右通牒ハ我等聯合國側ニ於テ満足ヲ以テ受領セリ位ノ意味ヲ此際支那側ニ通牒シ置ク事可然ヤニ存ス此点ニ付石井男ノ意見ヲ尋ネラレタシトノ事ニ付何分ノ御回電ヲ請フ  
在仏伊大使ヘ転電セリ

二九 一月二十五日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝政實施延期ト伊國ノ態度ニ關スル英國外相ノ意見報告ノ件

第二二号

往電第二二号ニ関シ貴電第三一号ノ次第ニ付程能ク「グレ一 袁世凱ノ帝制計畫ニ関スル件 二九 三〇

ヲ暗示シ尚袁ノ指示ニ依リ十九日正午曹汝霖ヲ訪問シ同様申入レタル事實アリ右ハ支那側今回ノ決意ニ多少ノ刺戟ヲ与ヘタルモノナランカト察セラル右顛末ハ坂西ヨリ本使ニ極内密ニ洩ラシタルモ閣下ニ於テ已ニ御承知ナルヘキカト存スルニ付之ヲ略ス

二七 一月二十四日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝政實施不承認ノ理由ヲ中国政府ニ説明方訓令執行済ノ件

第八三号

(一月二十五日接受)

貴電第三五号ニ關シテハ兎ニ角貴電第二八号接到ノ際同電末段御訓令ノ通り直ニ取計フヘキ筈ナリシ処会见ノ都合ニテ延期致シ一月二十四日曹汝霖ヲ訪問ノ上委細申述ヘ置キタリ

二八 一月二十五日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国ノ帝制宣布延期通牒ニ対スル応答振ニ付請訓ノ件

第二二号

「」氏ノ意見ヲ求メタルニ同氏ハ帝制延期ニ依リ問題ノ主題ガ自然消滅シタル今日貴電第三一号ノ趣旨ハ更メテ伊國ニ申入ル、ノ必要ハナカルヘシト存ス但シ石井男ノ考ヘ次第ニ任セラレ又伊國ノ態度ニ付テハ自分ハ何等疑ヲ入ルヘキ理由ヲ有セス伊國ハ飽迄聯合与國ト提携ノ精神ニテ別ニ二心ナキモノト認メ居レリ世間兎角ノ評ハ要スルニ伊國ガ独逸ニ対シ未タ宣戰シ居ラサル為ニ出ヅルモノナルヘキガ此ノ点ニ付テハ嘗テ伊國議會ニ於ケル「ソニン」外務大臣ノ演説ニテ理由明瞭ナリト信スト語ラレタリ

三〇 一月二十五日 在英國井上大使宛(電報)

中国ノ帝政宣布延期通牒ニ対スル応答振ニ付回訓ノ件

第三六号

貴電第二二号ニ關シ「グレー」氏ノ所言一応尤モトハ存セラル、モ關係各國ガ去ル十二月十五日支那政府ニ申入レタル趣旨ハ同政府之ヲ曲解シテ内政ニ利用シ列國政府ノ意嚮ヲ極メテ緩和ニシテ支那政府ノ回答ニ同意シタルモノナルカノ如クニ言ヒ振ラシタル先例モアルニ付若シ今回ノ支那

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 三一

政府ノ通告ニ対シ満足ノ意ヲ表明スルニ於テハ同政府ニ於テ再ヒ自家ニ都合好キ解釈ヲ附シ内政ニ利用スルコトナキヲ保セス就テハ今後ニ於ケル袁政府ノ態度ト時局ノ發展トニツキ注視ヲ怠ラサルヲ要スト思考スルヲ以テ今回支那政府ノ通告ニ対シテハ何等回答スル処ナク其儘ニ致置クコト然ルヘシト思ハル、ニ付其旨「グレー」氏ニ御伝アリタシ以上参考トシテ在米在仏在伊大使ニ転電アリタシ

三一 一月二十六日 在仏国田付臨時代理大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国ノ帝制延期及将来ノ承認問題並雲南事件

ニ関スル仏国外相代理談話報告ノ件

第七号

(一月二十九日接受)

在英国日本大使宛貴電第三〇号ノ趣旨ヲ仏文ニ訳シ外務大臣代理 de Margerie 氏ニ面会ノ上一月二十五日之レヲ交付シ其ノ意見ヲ叩キタルニ同氏曰ク袁氏既ニ帝制延期ヲ宣言セル今日本件ニ関シテハ先々好都合ナリト云フ外何等附言スヘキコトナシト雖仏国政府ノ本件ニ関スル tendance ハ過日モ述ヘタル如キ理由ノ下ニ(往電第六号) 敵国ノ為ニ吾人ニ先チテ帝制ヲ承認セラレンコトヲ虞ルルヲ以テ可

二四

成速カニ事情ノ許ス限り帝制ヲ承認セムトスルニアリ此点ハ倫敦会見ノ際英国外相並ニ「ニコルソン」卿トモ打合せ済ニテ一朝其ノ時機ニ達スレハ右ノ趣旨ニテ各其ノ大使ニ訓令シ以テ石井男ト十分協議ヲ遂ケ相当解決ノ道ヲ求メシムル管ナリシカ右ハ素ヨリ与国ノミニ腹藏ナク仏国ノ立場ヲ開示シタル迄ニテ支那ニ対シテハ何処迄モ關係列国ノ結束ヲ堅固ニ保ツノ態度ニ出ツヘキハ勿論ノコトナリトス若シ夫レ雲南騷擾カ果シテ支那ニ帝制延期ヲ強要スルニ足ル程重大ナルヤ否ニ付テハ十分研究ヲ要スヘシト雖仏国政府カ印度支那太守ヨリ得タル丈ノ情報ニ依レハ帝國政府カ注視セララルカ如キ程ノ形勢ニハアラサルヤニ察セラル尤同地方ノ安寧ニ関シ最モ痛切ノ利害ヲ感スルハ仏国ナルヲ以テ此点ニ付テハ更ニ日本政府ノ情報ニモ負フ処アルヘシト思フ兎モ角帝政延期ハ暫クノ間吾人ニ小康ヲ与フル訳ナルカ吾人ノ望ム処ハ右延期ハ何時迄繼續スルヤヲ知ラントスルニアリト之ヲ要スルニ仏国政府ハ雲南事件ヲシカク注視セス帝政発布ノ場合ニハ寧ロ直ニ之ヲ承認セントスルモノナルカ如ク而シテ英國政府モ同見ナルカ如シ但シ右承認ニ付テハ帝國政府ト熟議スルハ勿論ノコトナルカ其意向ハ承

認ニ傾キ居ルモノト見ルベシトセントシ尚右ノ序ヲ以テ在英大使宛貴電第三五号ノ件口頭ヲ以テ申述ベタル処政務通信局長ハ深ク本邦政府ノ好意ヲ謝シ為念トシテ要領ヲ尊記シ直ニ之ヲ外務大臣ニ報告スヘク本情報ハ politiques gé-nérales ノ甚タ intéressant ノモノナリト云ケリ  
在英米露伊ヘ転電シタリ

(露都經由一月二十七日後一、一三 第四二号)

三二 二月一日 在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国帝制延期通告ニ対スル応答振竝帝制承認  
問題再燃ノ場合石井外相及在東京同盟国代表  
者間協議方ノ英国提議ニ関スル件

第三二号

貴電第三六号御来示ノ趣一月二十二日「グレー」氏差支アルニ付「ラングレー」ニ談話同大臣ヘ伝達方依頼シ置キタルニ一月三十一日附覚書ヲ以テ同大臣ヨリ此際支那側ニ対シ何等応答ヲ為サス依然事態注視ノ態度ヲ持續スヘシトノ貴大臣ノ御意見ニ全然同意ヲ表スルト共ニ

Grey takes this opportunity to suggest proposal,

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 三二 三三

which he made on January 20th that the representatives to allied Powers in Tokio should discuss the question of recognition with Baron Ishii, should hold good whenever Chinese Government may again announce that the situation appears to warrant their proceeding with monarchy. On learning that the Japanese Government agree to this suggestion, Grey will propose to so inform Governments of allied Powers.  
ト申込来レリ御考量ノ結果何分ノ御電訓アリタシ  
伊仏米郵報

三三 二月二日 石井外務大臣ヨリ  
在英国井上大使宛(電報)

帝制承認問題再燃ノ場合日本政府及在本邦同  
盟国代表者間協議方ニ関スル英国提議ニ同意  
ノ件

附 記

二月二日在本邦英國大使ヨリ石井外務大臣ニ手  
交ノ覚書  
右英國提議

第四九号

貴電第三二二号ニ関シ二月二日在本邦英國大使來訪本國政府ノ訓電ニ基ケル趣ヲ以テ貴電記載ノ如ク申述ベタルニ付本

二五

官ハ之ニ対シ中国帝政承認問題ニ関シテハ帝國政府ハ關係國ヲ差置キ单独ノ措置ニ出ヅルモノニアラザルニ付東京ニ於テ關係各國代表者ト商議スル事ニ対シ異議ナキ旨答ヘ置キタリ御含迄

以上參考トシテ在伊在仏在米大使ニ郵報アリタシ  
(附記)

大正五年二月二日在本邦英國大使ヨリ石井外務大臣ニ手交ノ覚書

Sir Edward Grey proposed to Marquis Inouye on Jan. 20 that the question of the recognition of the Monarchy in China should be discussed between the Imperial Govt., and the Representatives of his Allied Powers in Japan. He has now told His Excellency that this proposal holds good whenever the Monarchy Question may be revived by the Chinese Govt., and if the Imperial Govt. concur in this proposal Sir Edward will make a communication accordingly to the Allied Powers.

Feb. 2. 1916

三四 二月五日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国帝制承認問題ニ付日本政府及關係国代表

聯合國軍戦死者ノ為鎮魂祭アリ其際皇帝陛下ニハ本使並聯合各國大使ニ謁ヲ賜ハリ特ニ本使ニ対シテハ大要左ノ意味ノ御懇話アリタリ

今回露国太公殿下ガ日本ニ於テ官民一同ヨリ非常ナル歡迎ヲ受ケラレタルコトハ朕モ亦大ニ憚ヒ居ル所ニシテ之カ為日露兩國ノ關係一層親善ヲ加フルニ至ランコトヲ希望スト述ヘラレタル後支那帝制問題ニ話頭ヲ転セラレ袁總統カ國家ノ為有利ナリトテ共和政府ヲ樹立シ爾來未タ四五年ヲ出デザル今日帝制ノ実現ヲ図ラントシタルカ如キハ朕ノ了解ニ苦ム所ナリ之カ為國內ニ反袁ノ氣勢ヲ高メ騒乱ヲ惹起セシメタルハ無理カラサルコトナリ併シ帝制愈宣布セラレ独塊側之ヲ承認スルコト、モナランカ英國トシテハ其ノ承認ガ彼等ニ後クル、ガ如キコトハ甚タ忍ビ難キ所ナリ依テ本使ハ最近ノ報告ニ依レハ幸ヒ支那政府ハ帝制実現ヲ取消シタル次第ナルヲ以テ承認問題モ差当リ起ルカ如キコトアラサルヘシト思考スル旨御答ヘ申上ケタリ

(露都經由、二月六日、五、一八、第七七号)

三六 二月五日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 三六

者間協議ノ繼續方仏国ヨリノ申込ニ対シ英國ハ其必要ナキ旨答ヘタル件

第四四号

二月四日会見ノ際貴電第四九号御来示ノ次第内話セルニ「グレー」氏ハ右ハ已ニ在日本英國大使ヨリノ電報ニテ告知シ居レリ然ルニ仏國政府ニテハ支那政府ハ何時再ヒ其考ヲ変シ帝制宣布ノ期ヲ定メ承認ヲ求メ来ルヤモ難計ニ付此場合ニ応スル為東京ニ於テ日本政府ト關係各國代表者間ノ協議ハ矢張繼續セシムルコトトシタシト自分ヘ申込ノ次第アリタルモ自分ノ見ル処ニテハ此際右協議繼續ノ必要ナシト認メ其旨仏國政府ヘ答ヘ置キタリト語ラレタリ在仏伊大使ヘ郵報セリ

三五 二月五日 在英國井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

英國皇帝ガ大戰戦死者ノ鎮魂祭ニ際シ本使ニ對シ為サレタル懇話中ニ於テ中国帝制承認問題ニ言及セラレタル件

第四五号 (二月七日接受)

二月五日当地 Albert Hall ニ於テ兩陛下御臨幸ノ上英國並

袁大總統トノ会見要領報告ノ件

(大正五年二月八日接受)

電報 二月五日 午後七時五五分北京発  
六日 午前〇時五八分東京着

參謀次長宛 坂西大佐

今日總統ト会見去ル三十一日ノ訓令末文ノ意見ヲ伝ヘタリ彼曰ク日支親善ハ互ニ信義ヲ重ンジ誠意ヲ以テ相交リテ始メテ実行シ得ラルルコトハ能ク承知シ居レリ予ハ最モ此点ニ注意シ此主義ヲ以テ事ヲ行ヒ苟モ一旦約束シタルコトニ付実行ヲ躊躇シタルコトナキヲ確信ス唯貴説ノ如ク疑深キハ単ニ当地人ノミナラス貴國人トテモ此嫌アルヤニ思ハル之レ兩國親善ノ目的ヲ達スル為メノ一大障碍タルコトハ予ノ夙ニ感シ居ルコトナリ吾々ハ極力之ヲ除去セサルヘカラス、青木中將ニ対シテ疑ハ恐ラク從來斯ル高級武官ノ駐在セシコトナキヲ以テ驚キタルモノ多キニ原因シ西洋人ニモ之ヲ疑フテ彼此云フモノアルヤニ聞ク、予ハ青木ヲ知ルノミナラス其内容ハ既ニ貴官ヨリ聞キタル故何モ疑フ所ナシ、支那官憲ニシテ不都合ナルモノアラハ其事實至急知リタシ速ニ懲戒スヘシ云々

尚雲南事変ニ関シ貴國側ニテ知り得タルコトアラバ通報ア

リタシト依頼セリ

三七 二月十日

在モスコフ平田總領事代理ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日露同盟、中国帝制問題等ニ関スル露国新聞

社説報告ノ件

第六号

日露同盟問題ニ関シ Russkoe Slovo 二月十日ノ社説ニ於テ本同盟ノ締結ニ依リ露国ハ近東ニ於ケル事態ヲ又日本ハ極東ニ於ケル事態ヲ何レモ根本的ニ解決スルヲ得ヘシトスル同紙從來ノ主張ヲ反復シタル後大要次ノ如ク論セリ  
日本ハ支那問題ニ尤モ痛切ナル利害ヲ感スルモノニシテ騒乱目下ノ状態ニ鑑ミ結局積極的干涉ノ途ニ出ツルノ外ナカルベク差当リ革命軍ノ正式承認ヲナスニ至ルヘシ且ツ帝政實行ニ対スル日本ノ熱心ナル勸告ハ単ニ袁世凱ヲシテ一時其實行ヲ延期セシムルニ止マリシカ如ク而シテ斯ノ如キ事態ハ日本ノ斷シテ黙シ能ハサル所ナルヘシ況ンヤ支那ニ於ケル多数ノ日本人ハ現ニ生命財産ノ危険ヲ感シツ、アルニ於テヲヤ吾人ハ此際露国ノ外交ハ極力日本ノ立場ヲ援護スヘキヲ予期スルモノニシテ露国ハ既ニ政治上支那ヲ度外視

莊都肅政史ノ時局ニ関スル談話報告ノ件

肅政史連名ニテ新年号取消、大典籌備処撤廢、参政院解散ノ三件ヲ國務卿ヲ經テ大總統ニ提言シタリトノ風評過日來頻ニ流布セラレタルニ付右真相突止ノ為テ懇意ノ間柄ナル船津書記官ヲシテ都肅政史莊瀝寬ニ面会ヲ求メシメタルニ莊ハ外間ノ思惑ヲ憚ル所アリトテ其來訪ヲ斷リ二月六日黃昏私ニ自ラ同官ノ私邸ヲ訪問シ前記風評ノ事實ナルコトヲ告クルト共ニ時局ニ関シ種々内話スル所有之候仍テ御参考迄右会談記別紙之通及御送付候間御査閲相成度候也

(附屬書)

莊都肅政史談話要領

今回蔡鐸ノ乱ヲ起スヤ深ク考フル所アリタルモノノ如シ彼ノ北京ニ在ルヤ陸海軍統率弁事処弁事員、將軍府員及参政院参政等ノ要職ヲ兼ネ袁總統モ大ニ蔡ヲ重用セントスル意アリシヲ以テ若シ蔡ニシテ引続キ袁ニ忠実ナリシナラハ彼ハ今頃ハ參謀總長ノ要職ヲ授ケラレタルナラン是ハ予カ或ル確カナル筋ヨリ聞キシ所ナリ然レトモ想フニ蔡ハ極メテ慧敏ナルヲ以テ袁氏ノ遂ニ事ヲ共ニスル能ハサル人ナルヲ知リ彼ハ帝政問題發生前ヨリ既ニ袁ニ對シテ二心ヲ懷キ居

一 袁世凱ノ帝制計畫ニ関スル件 三八

セルモノ其関スル所ハ只通商關係ノ安固アルノミ畢竟北京ニ於ケル日露ノ提携ハ兩國ノ親善關係ヲ一層鞏固ナラシメ極東ニ於ケル政治的地平線ヲ明快ナラシムルモノナリ  
最後ニ同紙ハ極東露領ニ於ケル日本人漁業權制限及蔬菜果實輸入課税問題カ日本議會ノ質問ニ上リタルヲ遺憾トシ現時國難ヲ決スル重大ナル時機ニ當リ兩國通商關係ノ發達ニ障礙ヲ醸スカ如キハ努メテ之ヲ避クベク且ツ實際日本食料品ノ輸入ヲ拒ムノ所謂ナキニ鑑ミ外交当局者カ本件ニ充分ノ考量ヲ加ヘ日本ノ要望ニ對シ速ニ満足ナル解決ヲ与ヘンコトヲ希望セリ

三八 二月十二日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

時局ニ関スル莊都肅政史ノ談話報告ノ件

附屬書 莊都肅政史談話要領

機密第四二号

(二月十八日接受)

大正五年二月十二日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

リシモノノ如ク袁亦之ヲ感知シタルモノノ如シ是レ蔡ノ邸宅カ二回迄搜索ヲ受ケタル所以ナリ當時軍政執法処ハ蔡ノ邸宅ヲ他ノ嫌疑者ノ家宅ト見誤リタルナリト云ヒシモ右ハ全ク言訛ニ過キス苟モ軍政執法処タルモノカ蔡ノ如キ知名官吏ノ邸宅ヲ知ラサルノ理由アラシヤ然シ蔡モ左ルモノ大統領力既ニ彼ヲ疑ヒ居ルコトヲ知ルヨリ帝政問題ノ起ルヤ彼ハ率先シテ之ニ贊成ノ態度ヲ示シ且ツ他ノ軍人ヲモ勸誘シテ之ニ贊成セシメタリ是ハ彼カ一身ノ安全ヲ計ラントノ策ニ外ナラサリシナリ、果セル哉彼ハ家宅搜索ヲ受クルヤ時機愈切迫セリトナシ辞表ヲ呈出スルト同時ニ殆ント脱兎ノ如ク北京ヲ去レリ、袁ハ彼ノ辞表ヲ見ルヤ直ニ人ヲ遣ハシテ之ヲ慰留セントセシモ既ニ在ラス更ニ人ヲシテ天津迄追ハシメタルモ蔡ハ既ニ上海ニ赴キタル後ナリシト云フ予ノ如キモ都肅政史ヲ拜命セシヨリ幾多政治問題ニ関シ獻策或ハ諫争セシコトアリシモ其都度袁總統ハ大ニ之ヲ嘉納スルノ態度ヲ示スカ或ハ体ヨク弁解ヲナシ未タ曾テ之ヲ實行セシコトナシ帝政問題發生スルニ及ンテモ幾度カ諫争セシモ是亦何ノ効果ナカリシ、爾來辞表ヲ呈出セシコトアリシモ是亦聽届ケラレサリシ故ニ今度ハ最後ノ義務ヲ尽サン為

二九

(1) 洪憲年号取消 (2) 大典籌備処撤廃 (3) 徒ニ雷同附和シテ何等最高諮詢機関タルノ義務ヲ尽サス殆ント国政ヲ度外視スルト同様ナル参政院ノ如キハ無用ノ長物ナリト考ヘ其解散ヲ呈請シタル次第ナルカ果シテ之ヲ聽容実行スルノ勇氣アルヤ否ヤ疑問ナリ予ハ袁氏力之ヲ実行スルト否トニ拘ハラズ此地ニ於ケル用事片付次第青島ノ旧廬ニ帰臥セン決心ニテ既ニ辞表ヲモ呈出シ置ケリ愈引揚ノ際ハ青島ノ貴国軍憲ニ対シ可然御紹介ヲ乞フ (莊氏ハ談シテ茲ニ至リ感慨ニ勝ヘサルモノノ如ク長大息ノ後更ニ語ヲ繼テ曰ク) 予ハ幾度カ我國ノ現状ニ対シ愛憎ツカシ、匙ヲ投ケントシタルコトアリキ然シ一片耿々ノ情禁シ難ク都督巡按使ノ如キ地位ヲ贏チ得ルコト容易ニシテ且ツ物質的利益アルニ拘ハラス予ハ之ヲ捨テ、顧ミス物好キニモ自カラ進ンテ現職ニ就キシハ此地位ヲ利用シテ自己平生ノ理想ヲ鼓吹シ謗ノ議論ヲ以テ我國ノ積弊ヲ打破シ以テ今一度我國ノ頽勢ヲ挽回セント欲シ而シテ何日カ其素志ノ幾分ヲ達スヘク期待シ居リシカ為ナリ、又袁氏ハ元来予ノ心服スル人ニ非ルモ之ヲ孫黃ノ徒ニ比スレハ勝ルコト数等、故ニ我國ヲ救ハントスルニハ袁氏在来ノ勢力ヲ利用スル方得策且ツ捷徑ナラント信シ

利害ヨリ打算スレハ我國ハ欧米ノ蹂躪ヲ受クルヨリ貴國ノ干涉指導ニヨリテ我國ノ改善ヲ図ル方得策ナルヘシ、又貴國一部ノ政客ハ常ニ此希望 (理想?) ヲ有シ居ルヲ以テ其目的ヲ達セサル限り日支間ノ紛擾ハ終ニ窮極スル期ナカルヘシ故ニ東亜永遠ノ平和ヲ確保セントスルニハ漸次其理想ヲ實現セシムル方兩國ノ幸福ナラン歟、然シ此理想ヲ實現セントスルニハ今後日本人一般ニ支那人ニ対スル態度ヲ大ニ改メサルヘカラス、從來滿洲山東ニ於ケル如ク威圧強制ノミノ政策ハ決シテ民心ヲ服セシムル所以ニ非ス今少シク一視同仁の王者ノ政ヲ施サザルヘカラス政府二三当局者ノ感情ヲ害スルハ差支ナシトスルモ多数人民ノ心ヲ失フハ得策ニ非ス日本政府ハ宜シク各方面ニ於テ支那民心ヲ收攬スルノ策ヲ怠ルヘカラス支那ノ民心ヲシテ日本ニ対シ乖離セシムルコト今日ノ如ク甚シキハ如上ノ理想ヲ實現セシムル上ニ非常ノ妨害アリ、而シテ右ハ決シテ支那為政者ノミノ罪ニ非ス、日本当局者ノ措置其當ヲ得サル亦大ニ与カリテ力アリ、此点ニ関シ予ハ日本政治家ノ猛省アランコトヲ切望スルモノナリ云々

(目下各部総長ノ内、袁氏ノ最モ信賴スルモノ誰ナルヤ梁

不愉快ナカラ過去三年間此地ノ政界ニ生活セシ所以ナリ然シナカラ今ハ殆ント望ナシ滔々タル我政界ノ有力者何レモ自己ノ利害以外胸中何物モナシ帝政問題ノ發起者タル楊度孫毓筠ノ如キ輩ハ論スルニ足ラス帝政問題ノ中堅ト目サルル梁士詒朱啓鈴周自齊張鎮芳ノ如キ何レモ自己ノ利益ヲノミ顧ミルニ過キス、参政院ヲシテ遂ニ帝政問題解決ノ一道具ト化セシメタルハ全ク梁士詒張鎮芳ノ運動ニ依ル、嗚呼此輩ヲシテ今少シク國家ヲ思フノ情アラシメバ今日ノ如キ難局ニ陥ルコトナカリシナラン思フテ茲ニ至レハ痛大息ノ至ニ勝ヘス云々 (時局ノ將來如何トノ問ニ対シ答ヘテ曰ク) 北軍ノ勢力優勢ニテ幸ニ雲南軍ヲ討滅スルコトヲ得ハ仕合セナランモ是トテ今後少クモ三、四ヶ月ヲ要スヘク若シ不幸ニシテ雲南軍カ四川ニ割拠スルコトアランカ此動乱ハ永引キ其間ニ如何ナル變化ヲ来スヤ測リ難シ昨今ノ趨勢ニヨリ察スルトキハ予ハ残念ナカラ大ニ悲觀シ居レリ対内ノ關係已ニ然リ之ヲ加フルニ貴國ノ輿論ニシテ愈袁ヲ援助セサルコトナレハ南方側ハ益其氣勢ヲ強メ對外關係ヨリ時局ヲシテ益々難境ニ陥ラシムルニ至リ結局貴國ノ干涉ヲ受クルニ至ルナラン、然シ是ハ感情ヲ去リテ東亜大局百年ノ

士詒ノ如キ其人ニ非ルカトノ問ニ対シ答ヘテ曰ク) 陸國務卿ノ如キ外國ノ事情ニ通スルモ内政ニ至リテハ全然盲目同様只タ唯々諾々袁ノ命令ヲ奉スルノミ袁ハ事毎ニ自カラ用ヒ人ヲ容ルルノ量ナシ、故ニ各部総長何レモ傀儡ニ過キス袁氏ノ信賴スルモノハ一人モナカルヘシ、而シテ袁氏ニ心服スルモノモ亦一人モナカルヘシ何レモ皆自己ノ利害ニヨリ向背スルモノナリ、否ラサレハ帝政問題ノ如キ成立スルコト能ハサルナリ、世間往々梁士詒ヲ以テ袁カ唯一ノ股肱ナル如ク想像スルモノアルモ右ハ大ナル間違ナリ從來梁士詒ハ殆ント全力ヲ尽シテ袁氏ノ為ニ働キ居ルモ彼ハ決シテ袁ニ信服シ居ルニ非ス全ク袁ヲ利用シ居ルニ過キス、故ニ梁ハ袁ノ最モ信用スル如クニシテ其實最モ信用セサル人ナリ、梁亦何時約變シテ反噬スルコトアルヤ計リ難シ梁既ニ然リ況ンヤ其他ヲヤ云々尚ホ、莊ハ別ニ臨ミ申ス迄モナキコトナカラ今日ノ談ハ多年來ノ親友タル貴下 (日本公使館員タル貴下ニ非ス) ニ対シテ予ノ腹心ヲ吐露シタルモノナレハ他言ハ絶對ニ御断リ申スト再三繰返シタル由ナリ

三九 二月二十一日

在中国日駐公使ヨリ  
石井外務大臣宛 (電報)

袁世凱ニ於テ現下ノ時局ヲ收拾シ得ベキカニ

付意見開陳ノ件

第一四五号

貴電第六四号ニ関シ袁世凱カ果シテ能ク現下ノ時局ヲ收拾シ得ヘキヤニ付世上漸ク疑念ヲ抱クニ至リタルハ事實ニシテ彼ノ英人一派ノ如キ袁ヲ以テ支那ノ秩序ヲ維持シ得ル唯一ノ人物ト信シ来レル向モ近來彼ノ權威稍々失墜シツ、アルヲ認メ多少悲觀的感想ヲ持スルニ至レルコトハ「ジョルダン」「モリソン」等ノ口吻ニ徴シ疑ナキ所ナリ本使ニ於テモ此事態ノ推移ニ関シテハ夙ニ細心ノ注意ヲ以テ慎重ニ攻究ヲ遂ケ来レルモ何分變転極マリナキ支那ノ国情ニ鑑ミ斯ル重大ナル事柄ニ対シ輕々シク断定ヲ下シ難キ義ト存シ今日迄何等綜合的觀察ヲ貴閣ニ達セサリシ次第ナルカ今回特ニ御下問ニ接シタルヲ以テ一応卑見ヲ開陳セシニ雲南事件勃發後袁世凱ニ対スル支那国内ノ反感漸ク昂進シタルハ公平ナル立場ヨリ觀察シテ正ニ疑ナク殊ニ突如予定ノ計画ヲ變更シテ即位ヲ見合セタル一事ハ袁反對者及平素彼ニ嫌焉タルモノノ氣焰ヲ大ニ昂メ其結果從來袁ノ威風ヲ恐レ心ナラズモ帝政賛成ヲ裝ヒタル輩モ追々反対ノ声ヲ洩ラスニ

ノ權威既ニ地ニ墮チ人心離叛シ最早收拾ノ見込ミナキ状態ニ在リヤト云フニ未タ必ズシモ然リト断言スルヲ得ス何トナレハ袁ノ「アセット」トシテ算フヘキモノ即チ其実力ヲ構成スル所ノ軍隊財力其他百般ノ事物ヲ叛軍ノ夫レト比較スルトキハ殆ト比較ニモナラサル状態ナレハナリ去レハ今ヤ討伐軍ノ大部隊既ニ四川ニ入り込ミ尚ホ湖南広西方面ヨリモ進軍シツ、アルヲ以テ叛軍ニシテ擊破セラルルコトトモナラバ他ニ意外ノ事変起ラサル限リ必ス形勢ヲ見直シ一般人心ハ勿論地方將軍等ノ態度ニモ必ス影響ヲ及ホスニ至ルヘキヲ以テ此処暫クノ間勘クトモ討伐軍ノ成績ニ付相当ノ見据付ク迄ハ決シテ急激形勢ヲ予断シ得サル義ト存セラ

四〇 二月二十三日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝政延期ノ袁ノ決意ヲ宣明シタル大總統申令

發布ノ件

第一五〇号 至急

二月二十三日附大總統申令ヲ以テ近頃文武官吏国民代表各種団体並個人ノ名義ヲ以テ速ニ帝位ニ即カレンコトヲ願フ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 四〇 四一

至リ彼ノ莊都肅政使ノ露骨ナル行動ノ如キ手近カナル一例ト存ス

而シテ他面雲南軍討伐ノ一事モ交通ノ不便地勢ノ不利等アリトハ云ヘ袁世凱ノ声言セルカ如ク急速ニハ拂ラサルト同時ニ革命派ノ運動各地ニ續出スル情勢ナルヲ以テ袁ノ信頼スル地方將軍巡按使中ニモ此形勢ヲ觀望シテ漸ク首鼠兩端ヲ持スルモノナキニシモアラスト疑ハルル節ナキニアラス竜濟光陸榮廷ノ如キ果シテ袁ノ信スルカ如ク飽迄忠実ナルヘキヤ予想シ難キ有様ナリ更ニ財政問題ニ想到スルニ新規ノ募債ハ内債外債共ニ差向キ何等見込立タス塩稅モ叛乱拡大ニ從テ減少スヘク地方ヨリノ送金モ自然減退スヘキヲ以テ大軍ノ移動ヲ行ヒツツアル今日若シ軍隊ノ給与ニ支障ヲ来スコトトモナラハ意外ノ窮境ニ陥ルヘク要スルニ今ヤ大勢甚タ袁政府ニ不利益ナルモノアルニ至レルハ争フヘカラサル事實ト認メラル中央政府当局ハ袁世凱ヲ初トシ概シテ樂觀ヲ装ヒツツアルモ其実内部ニハ悲觀ニ傾キ居ルモノモ少カラス差向キ帝政実行ノ如キハ一般ニ殆ト問題トナシ居ラサル模様ナリ

現下ノ時局ハ大体先ツ前述ノ如シト認メラルルモ然ラハ袁旨ノ書面電報日トシテ之レナキハナシ之レ國ヲ愛スルモノ、長ク平和ニ安ンセントノ計ヒニ出テタルモノナリト雖政府当局ニ於テハ宜シク形勢ヲ見定メ時機ニ適ハシムルノ責アリ今ヤ雲南貴州乱ヲ構ヘテ居民ヲ驚カシ湖南四川ノ辺疆モ亦乱徒ノ為ニ脅カサレ民ノ困苦聞クニ忍ヒス加フルニ奸人ノ謠言ヲ放ツモノモ亦尠カラス余ノ國ヲ救ヒ民ヲ救フノ初志ヲ以テ利ヲ争ヒ權ヲ争フノ口実タラシメ遽ニ帝位ニ即クカ如キ何ヲ以テ自ラ安キヲ得ンヤ余ノ意既ニ決セリ必ス須ラク之ヲ延期スヘシ凡ソ我愛國ノ官吏庶人ハ当ニ此ノ意ヲ諒トシ今後ハ速ニ帝位ニ即カレタキ旨ノ請願書及電報等ハ一切余ニ差出スコトヲ許サズ茲ニ之ヲ論達ストノ旨發表セラレタリ

四一 二月二十四日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

帝制延期ニ関スル申令公布ニ至ル成行報告ノ

件

公第四六号

(三月一日接受)

大正五年二月廿四日

在支那

## 特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

即位延期ニ関スル申令公布ノ件

昨年十二月廿三日雲南側カ帝政反対最後決裂ノ電報ヲ發シ廿六日独立ヲ宣言セル以來十二月廿八日ノ参政院ハ帝制外交ニ関スル質問ヲ為シ雲南討伐ノ建議ヲ為シ翌廿九日袁總統ハ洋々二千三百五十四字ノ申令ヲ發シ唐繼堯任可澄蔡錕ノ官職ヲ褫奪シ討伐スヘキヲ令シタルモ而カモ右申令ハ一種懷柔の寓意ヲ有スルモノト解セラル、ノミカ一面各省將軍巡按使ヨリハ雲南側ニ対シ勸告忠告乃至威嚇の電報ヲ頻々トシテ發シタルニモ拘ハラス何等緩和ノ功ヲ奏セス共和擁護ヲ声言セル雲南軍ハ着々トシテ四川貴州境上ニ向ヒ進發スルアリ已ムナク一月五日二通ノ申令ヲ發シ唐蔡等ノ罪ヲ鳴ラシ曹錕ヲシテ各師ヲ統率シテ征討セシムルニ至レリ先是一月二十五日以來ノ上海中華日報ハ「袁政府製造民意密電ノ大披露」ト題シ帝制問題發生以來其首腦者タル段芝貴梁士詒朱啓鈴周自齊張鎮芳等乃至ハ國民代表會議籌備処ヨリ各將軍巡按使等ニ宛テタル極秘電ヲ掲載シテ所謂民意製造ノ内情ヲ訐發スルアリ(中華新報ハ貴陽ヨリ寄來セル

ルモノ、外個人名義若クハ本局名義ノ電報等ハ一切捏造或ハ偽造ナリト稱シテ中華新報掲載電報ヲ打消サント謀レルモ反帝政ノ氣運鬱勃トシテ瀾漫シ剩ヘ雲南軍ハ進シテ叙州ヲ占領スルノコトアリ殊ニ我國ノ輿論ノ激昂ト我政府ノ友誼的勸告乃至監視ハ袁政府ノ尤モ顧慮スル処内外ノ形勢漸ク不可ナルニ至ルヤ一月二十一日支那政府ハ即位延期ヲ關係列國ニ通告スルニ至レリ而カモ右延期通告ハ對外的關係ニシテ對内的ニハ飽迄虚聲ヲ張ルノ必要アリ大典籌備処ハ各省將軍巡按使等ニ対シ即位典禮ノ施行延期ハ事實上法理上帝國ト皇帝ノ完全ニ成立シタル今日國家ノ根本問題ニ何等相觸ル、処ナシトノ密電ヲ發シタル趣ハ早く上海電報ニヨリ中外ニ伝播セラル、処ナリシカ帝制派ノ機關トシテ最近北京ニ發刊セラレシ北京時報ハ二月廿二日ノ紙上右通告電報ヲ掲載セリ

國民代表大會ハ一致君主立憲ヲ主張シ各國民代表者及總代表ハ一致シテ今上ヲ推戴ス是帝位又已ニ定マルナリ蓋シ國體既ニ君主ニ決定スレハ我國ノ奉スル処ノ元首ハ皇帝ニシテ大總統ニアラス今上既ニ推戴ヲ兪允スレハ則チ總攬スル所ハ帝國ノ統治權ニシテ大總統ノ地位ニ非ス法

モノトシテ掲載セルモ此種ノ電報ハ少クトモ南京或ハ杭州方面ヨリ暴露セラレタルモノト推測セラル、節アリ現ニ雲南側ニテハ此種ノ秘密電報一切ヲ編纂シ本年一月一日ヲ以テ「民意徵實錄」ト題シ雲南政報局ヨリ發行シ二月五日ヲ以テ本館ニモ郵送シ來レリ多分列國公使領事外各方面ヘモ郵送セラレタルモノト思ハル、ハ現ニ右中華日報ハ二月廿一日ノ紙上ニ於テ初メテ此民意徵實錄掲載ノ北京帝制派首腦者ヨリ唐將軍任巡按使ニ宛タル秘密書函ヲ掲載シ居レハナリ右民意徵實錄ハ本省ニモ郵送セラレタルコト思ハル)テ所謂民意ナルモノ、虚実否ナ袁帝制派カ中外ヲ欺瞞シタル迹掩ハントシテ掩フ能ハサルニ至リシヨリ籌備國民代表大會事務局ハ一月十日頗ル長文ノ通告ヲ發シ先ツ歷代興亡禪讓ノ歴史ヲ叙シテ袁總統ノ英才大略愛民救國ノ德ヲ頌シ國民代表大會ノ國體決定皇帝推戴手續ノ正当ニシテ些ノ不都合ナカリシコトヲ弁明シ爾來毎日ノ政府公報ニ掲載シテ一般ニ周知セシメント期セル外二月十四日ニ至リ更ラニ同事務局ヨリ再ヒ通告ヲ發シ國民代表大會ノ國體決定乃至皇帝推戴ハ一切法制ノ定ムル処ニヨリ正当ニ施行セラレ其順序進行ニ関スル電信公文等ハ政府公報ヲ以テ公表セラレタ

理ニ就テ論セハ去年十二月十一日代行立法院ノ票數彙呈ニヨリ我君主國體已ニ完全ニ成立シ十四日十六日ノ策令ニテ憲法ヲ催定シ我ノ立憲政治ハ已ニ開始進行ス洪憲元年後ノ國家ハ蓋シ猶ホ是民國以前數千年來君主相承ルノ國家ニシテ國家已ニ未タ一日モ解組セス故ニ統治權ノ組織及作用ハ國體決定ノ日ヨリ今日ニ至ル一切常ノ如ク糸毛ノ欠乏ナシ此外応サニ籌備スヘキハ表面慶賀ノ儀文ニ過キスシテ各國ノ戴冠ト相似タリ早く舉行セハ固ト人心ヲ饜飫スルニ足ルモ之ヲ遅フスルモ各國ニ其成例アリ之ヲ法理ニ按スルモ國體已ニ決シ皇位人ヲ得國是大ニ定マル典禮舉行ノ遅速ハ政治上重要ノ關係ナシ(中略)我國ハ民國ヨリ法律ノ軌道ニヨリ帝國ヲ造成シ今上ハ民國ノ元首ヨリ帝國ノ元首トナル之ヲ歷代開國創業ニ較レハ尤モ正大ナリ事實上法理上ノ帝國皇帝ハ早完全ニ成立シ典禮ノ遅速ハ國本ニ関スルナシ望ムラクハ法ヲ設ケテ此義ヲ申明シ上下曉然疑慮ヲ釈去ラシメヨ云々トアリ先是雲南事態ノ勃發スルヤ政府ハ各省方面國民代表大會國體決定ノ模様乃至袁皇帝推戴ニ関スル當時ノ電報ヲ政府公報ニテ發表シ一面雲南事變ヲ理由トシ速ニ即位ヲ請

フトノ各將軍巡按使団体電報モ陸統政府公報及機關各紙ニヨリ掲載セラレシカ雲南ノ事体ハ日ニ重大ニ赴キ貴州モ亦タ一月二十七日ヲ以テ明カニ独立ヲ宣言シ其他各方面ノ形勢漸次不可ナルニ至リ殊ニ我國方面ノ輿論ハ帝制ヲ廃止シ袁總統ノ退職ヲ迫ルヘシ杯ト唱フルモノアリテ袁帝制派ノ最モ危惧スル処於茲乎遂イニ在北京ノ國民代表者乃チ國家ニ勲勞アル者ノ代表滿蒙漢八旗代表全國商務總會及在外居住民代表碩學通儒ノ代表臣溥倫以下百三十四名ノ連署ニテ二月二十二日最後ノ即位ヲ催奏セリ曰ハク

臣溥倫等叛党梗頑ニ全國憤激シ日ヲ尅シ登極シ以テ辺患ヲ綏シテ人心ヲ靜メシコトノ為メニ謹奏ス竊維ルニ軒皇ノ握符シテ武ヲ用ユル首トシテ涿鹿ニ在リ虞舜陟位シテ逆命尚ホ苗民アリ憂商ヨリ以テ宋明ニ至ル凡ソ開國ノ始ニ当リテハ往々ニシテ間ニ乘シ窃發シ甘シテ化外ニ居ル者アリ前清定鼎以後三藩擾亂シ馴至十余年ニシテ未タ已マス然モ其時受命ノ主早ク皇極ヲ建テ以テ歷數ノ歸スルアルヲ示ササルナシ蓋シ日月出テテ燭火自ラ消ヘ雷霆震フテ陰霾自ラ散ス此レ古今不易ノ理也我皇上重ネテ乾坤ヲ整ヘ区夏ヲ再造シ正大光明ノ概憂勤惕厲ノ衷固ト中外

ハナシ愛國者カ亟カニ久安長治ノ謀ヲ為スナルモ当局者ハ応サニ時勢ヲ審度スルノ責ヲ負フヘシ現ニ雲南貴州乱ヲ唱ヘ閭閻ヲ驚擾シ湖南西方四川ノ南方一帯ハ寇至ルニ因ツテ蕩析離居スルモノ耳聞クニ忍ヒス吾民ノ寢饋ニ安ンジカタキヲ痛念シ加フルニ奸人カ造言奇トシテ有ラサルナキヲ以テス予カ救民救國ノ初心ヲ以テシテ軫シテ爭利爭權ノ口ヲ藉ルニ資シ遽カニ大位ヲ正サハ何ヲ以テ自ラ安ンセン予カ意已ニ決ス須ラク延期弁理スヘシ凡ソ我愛國ノ官吏士庶ハ当サニ能ク相諒セン此後早ク大位ヲ正サンコトヲ請フノ各電報書面ハ皆ナ呈遞スルコトヲ許サス茲ニ通論ス

右ハ対外的關係ニ於テ一月三十一日關係列國ニ通告シタル外対内的關係ニ於テ即位ノ延期ヲ宣明シタルモノニ有之候不取敢茲ニ本申令發表迄ノ成行及報告候也

## 四二 二月二十五日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝制延期申令發布ノ内情、内国公債及米國借款等ノ真相ニ付梁士詒内話ノ件

第一五七号

ノ同欽スル処ニシテ亦実ニ蒼生ノ託命スル所天佑ニシテ中国ノ帝制復昌シニ全國ノ人民呼籲再三声嘶力竭クノ余始メテ上天聽ヲ廻スヲ得方ニ冀フ外四海ニ薄ク我カ太平ヲ同フセンコトヲ意ハサリキ逆党唐繼堯任可澄等ハ反復常ナク上ヲ犯シ乱ヲ作シ兵ヲ阻シテ衆ヲ無ニシ忍ニ安ンジテ親ヲ無ニス該逆等喪心病狂本ト人類ニ齒スルニ足ラス大軍一タヒ到レハ立ロニ銷亡セン論者云フ雲南ノ肇亂ハ皆ナ宝位久シク需ニ因リ遂イニ以テ其窺伺ノ意ヲ啓クナリト仍チ辺鄙日ニ震驚ヲ見テ聖懷猶ホ謙冲ヲ示ス之ヲ我皇上救國救民ノ初衷ニ揆ルニ諒スルニ必ス忍ンテ此ニ出サラン懇請ス迅カニ大宝ニ登リ輿情ニ俯順シ盤石ヲ奠メ苞桑ヲ繫イテ水火ヲ出テ、衽席ニ登ル思服セサルナク惟タ断乃チ成ル臣等ハ近ク中央ニ在リ大局ヲ默觀スルニ正位居体ハ実ニ此時ニ在リ披瀝上陳迫切待命ノ至リニ勝ヘス

而シテ袁總統ハ右ノ奏請ニ対シ二月二十三日附ヲ以テ左ノ申令ヲ發セリ

近口各文武官吏國民代表及各種団体個人名義ニテ速ニ大位ヲ正サンコトヲ請フノ書面電報絡繹日トシテ之レナキ

二月二十五日高尾ニ旨ヲ含メ梁士詒往訪ノ上帝制延期申令發布ノ内情内国公債及米國借款ノ真相并往電第一五二号英文北京日報所載事項ノ真偽等ヲ探ラシメタルニ梁ハ大要左ノ通り内話シタル趣ナリ

(一)帝制ハ刻下ノ事態ト曩ニ關係諸國ヘ声明セル行懸リ等ニ鑑ミ政府ニ於テ取急キ実行スルノ意志ナキハ勿論ナルヲ以テ寧ロ此際右ノ次第ヲ一般ニ宣布シ國民ノ疑惑ヲ解クノ必要ヲ感シタルカ故ニ前述ノ申令ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ要スルニ今トナリテハ帝制ヲ実行スルヤ否ヤハ問題ニアラス自分等ノ見ル所ニテハ仮令雲南事件終局ヲ告ケタル後ト雖或ハ此儘立消トナルヤモ知レス但シ表面之ヲ取消スノ手段ヲ執ラントスル時ハ為ニ種々ナル手續ヲ要シ又一方ニ於テハ大總統ノ面目ヲ傷フ虞アルヲ以テ当分右様ノ詮議ヲ為ス事ハ非ラサルヘシト考フ

(二)内国公債募集ノコトハ事実ナリ右ハ洪憲元年内国公債ト稱シ総額二千万元利息年六分償還期限三ヶ年ニシテ煙酒公売收入ヲ引当トナシ用途ハ曩ニ參政院ヲ通過セル洪憲元年ノ予算ノ一部ニ充ツル筈ニシテ軍費ニハ使用セス又本件ノ計画ハ不日參政院ニ提出シ其ノ決定ヲ待チ本年六月頃実行

ノ運ニ至ルヘキ都合ナリ

(三)米國ヨリ一千万元ノ借款ヲ起スヘシトノ説ハ全然虚報ナリ右ニ付テハ数日前某外國人ヨリ質問ヲ受ケタルヲ以テ早速財政部当局ニ尋ネタルニ絶対ニ左様ナ計画ハ為シ居ラストノ答ヲ得タルカ故ニ茲ニ事實無根ナル旨ヲ断言シ得ル次第ナリ

(四)今回一週一回國務卿主宰ノ下ニ内閣會議ヲ開クコトナリタルハ事實ナリ右ハ是迄毎週土曜日ニ大統領直裁ノ下ニ開キツ、アル國務會議以外ニ自由討論ノ機會ヲ設ケタル迄ニシテ専ラ政務ノ敏活ヲ計ラントスル趣意ニ外ナラス

(五)各部総長ニ外國顧問ヲ加ヘ會議ヲ催ス計画アルコトモ亦事實ナリ右ハ専ラ政事ノ研究ヲ主トシ其名モ政事研究会會議ト称スル筈ナリ

(六)國民會議ヲ國會ニ改メントスルコトハ參政院ノ話題トナリ居レルモ未タ何レモ決定シ居ラス

(七)近ク憲法ヲ制定スヘシトノ議アルコトモ事實ナルカ未タ具体的ニ定マリ居ラス

(八)現在ノ時局ニ関シ大統領ニ於テハ日夜頗ル憂慮シ居ルモ世間ニ伝フルカ如ク其前途ヲ悲觀シ居ラズ又自分等ニ於テ

ハ多々アルモ其ノ近因トモ見ルヘキハ帝制問題ニ関シ國民代表大會事務局ガ民意製造ノ為種々ナル密電ヲ地方官ニ發シタルコト最近雲南方面ヨリ發覺シ此ノ事遂ニ大統領ノ耳ニ入り大ニ憤怒スル所トナリ爾來大統領ハ急ニ責任内閣制ヲ採用スルノ意ヲ起シ且帝制延期ノ申令ヲ發スルニ至リタル次第ナリ尤政事堂ニ於テハ前記密電ニ関スル所ナカリシヲ以テ素ヨリ何等責任ナシ

尚遠因トモ見ルヘキモノハ我國有力ナル政事家中愈々國体變更ノ場合ニハ必ス責任内閣制ヲ実行スヘキコトヲ主張スルモノ尠カラス殊ニ蔡鍔ノ如キ其ノ一人ナルガ彼ハ是迄大統領ヨリ非常ニ重用セラレ居リタルニ拘ハラス遂ニ今回ノ如キ拳ニ出テタルハ一ハ袁總統カ平素余リ自ラ用フル癖アリ責任内閣制ヲ設ケサル限りハ到底自己ノ本領ヲ發揮スルノ機會ナカルヘシト思惟シ袁總統ト事ヲ共ニスルコトヲ思切リタルト一ハ此儘共和制ヲ存続セハ將來自ラ大統領トナリ得ヘシトノ大野心アリシニ因ルモノナリ若シ袁總統ニシテ最初ヨリ責任内閣制ヲ実行スヘキコトヲ明確ニ宣言シ且蔡ヲシテ十分ニ其ノ真意ヲ了解セシメタランニハ或ハ今回ノ如キ動乱ヲ見ルニ至ラサリシナラント附言シ次テ雲南ノ

モ同様ノ感想ヲ懷キ居ルガ四川方面ノ戦局ハ余リ抄々敷カラサル模様ナリ但シ童濟光ヤ陸榮廷ノ態度ハ疑問ナリトノ説ハ信セラレス現ニ同人等所屬ノ軍隊ハ続々雲貴方面ヘ進ミツ、アリ湖南方面ノ情況ハ公報ノ関スル限り極メテ順調ノ様子ナルモ例ニ依リ革命党ノ大多數ハ専ラ同方面ニ集注シ居ル模様ナレバ決シテ油斷ハナリ難シ

(九)日支兩國ノ關係ハ現在ニ於テ殊ノ外乖離シ居ルカ如キモ經濟關係ニ於テハ飽迄提携ノ実ヲ拳ケサルヘカラス右ニ付目下自分ニ於テ考案中ノ方法有之ニ付約三週間ノ後ニ於テ具体的ノ成案ヲ見ルニ至ルヘシ(終)

四三 二月二十五日 在中国日置公使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

帝制延期申令發布ノ内情等ニ関スル楊士琦内

話報告ノ件

第一五八号

往電第一五七号同様ノ目的ヲ以テ二月二十五日別ニ船津ヲシテ楊士琦ヲ往訪セシメタルニ楊ハ同電(二)内國公債ノ件乃至(七)憲法制定ノ件ニ関シ梁士詒ト殆ト同一ノ内話ヲ為シタル上今回斯ノ如ク政事上ノ改革ヲ計画スルニ至リタル原因

動乱ハ之ヲ鎮圧スルコト左迄難事ニ非スト思考スルモ未タ十分ナル決戦ヲ見サル今日ノコトナレバ大約何日頃之ヲ鎮圧シ得ルヤ予測シ難シ今後少ナクモ二三個月或ハ半年位ヲ要スル覺悟ナリ何レニシテモ四川湖南及兩広地方ガ雲南軍ニ附和スル如キコトハ万之レナカルベシト信ス世間往々馮國璋ノ態度ヲ疑フモノアルモ馮ト袁トノ關係ハ極メテ深く決シテ戈ヲ倒マニシテ反抗スル如キコトナカルベシ尤モ國体問題ニ関シ馮ガ反対ノ意見ヲ有シ居ルハ事實ナリ其外黎元洪ヲ初メトシテ徐世昌ノ如キ有力者中反対ノ意見ヲ有スルモノ尠ラサルモ只單ニ反対ノ意見ヲ有スルニ止マリ何等積極的の反對行動ニ出ツルモノハ斷シテ之レナカルベシ何トナレハ此ノ危急存亡ノ際此上内輪同士兵乱ヲ醸スカ如キコトアラバ國家人民俱ニ非常ナル禍ヲ被ムルノミナラス極メテ危險ナルコトヲ何レモ自覺シ居レハナリ云々ト述べタル趣ナリ(終リ)

四四 二月二十七日 石井外務大臣ヨリ 在英井上、在露本野各大使宛(電報)

帝制延期、雲南情况等時局ニ関シ通報ノ件

第七九号(英宛)

第二二〇号（露宛）

帝政延期雲南事件其他時局ニ関シ二月二十五日梁士詒及楊士琦カ在支公使館員ニ語レル所ヲ綜合スルニ左ノ如シ貴官御参考マテニ電報ス

一、帝制ハ刻下ノ事態ト曩ニ關係諸国ヘ声明セル行懸リ等ニ鑑ミ政府ニ於テ取急キ実行スルノ意思ナキハ勿論ナルヲ以テ寧ロ此際右ノ次第ヲ一般ニ宣布シ国民ノ疑惑ヲ解クノ必要ヲ感シタルカ故ニ二月廿三日ノ申令ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ要スルニ今トナリテハ帝政ヲ実行スルヤ否ヤハ問題ニアラス仮令雲南事件終局ヲ告ケタル後ト雖モ或ハ此儘立消トナルヤモ知レス但シ表面之ヲ取消スノ手段ヲ執ラントスル時ハ為ニ種々ナル手続ヲ要シ又一方ニ於テハ袁ノ面目ヲ傷フ虞アルヲ以テ当分右様ノ詮議ヲ為スコトハ非サルヘシ

二、雲南動乱ニ関シテハ袁ニ於テモ日夜頗ル憂慮シ居ルモ世間ニ伝フルカ如ク其前途ヲ悲觀シ居ラス尤モ未タ十分ナル決戦ヲ見サル今日ナレハ鎮圧時期ハ予測シ難ク今後少ナクトモ二三個月或ハ半年位ヲ要スル覚悟ナルモ四川湖南及兩広地方カ雲南ニ附加スルカ如キコトハ万之レナ

南方面ヨリ發覺シ爾來大總統ハ急ニ責任内閣制ヲ採用スルノ意ヲ起シタルト又遠因トモ見ルヘキハ支那有力ナル政事家中愈々国体變更ノ場合ニハ必ス責任内閣制ヲ実行スヘキコトヲ主張スルモノ尠カラサルトニ依ル次第ナリ（英ヘハ）右仏伊米ヘ転電アリ度シ

四五 二月二十七日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛（電報）

政事堂ノ国会開設準備ニ関スル裏面消息ニ付

李盛鐸内話ノ件

第一六一号

往電第一六〇号ニ関シ裏面ノ消息ナリトテ二十六日李盛鐸カ船津ニ語ル所ニ依レハ雲南ノ動乱ハ今日迄ノ所未タ北軍ニ取り形勢不利ナリト云フ程ニアラサルモ去リトテ之ヲ討滅スルコトモ中々容易ノ業ニアラサルハ中外ノ均シク認ムル所ナルト他面揚子江一帯ニ於ケル反袁ノ氣勢昨今稍昂進セントスル傾アルノミナラス過般來国体變更袁皇帝推戴等ニ関シ中央ヨリ地方官ニ与ヘタル秘密訓令雲南ヨリ素破抜カレ民意製造ニ関スル総テノ絡繰<sup>カラ</sup>リ暴露シタルニ依リ中央ニテハ大ニ狼狽シ種々採消策ヲ講シタルモ袁氏ノ一般人民

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 四五 四六

カルヘシ竜濟光陸榮廷ノ態度疑問ナリトノ説ハ信セラレス現ニ同人等所屬ノ軍隊ハ続々雲貴方面ヘ進ミツ、アリ又世間往々馮国璋ノ態度ヲ疑フモノアルモ馮ト袁トノ關係ハ極メテ深ク決シテ袁ニ反抗スルカ如キコトナカルヘシ馮国璋黎元洪徐世昌等ノ有力者中国体問題ニ関シ反対意見ヲ有スルモノハ尠ナカラサルモ何等積極的の反対行動ニ出ツルコト断シテ之レナカルヘシ

三、支那政府ニ於テハ今回一週一回國務卿主宰ノ下ニ内閣會議ヲ開クコトニ決シタルガ右ハ是迄大總統直裁ノ下ニ開キツ、アル國務會議以外ニ自由討論ノ機會ヲ設ケタルマテニシテ専ラ政務ノ敏活ヲ計ラントスルノ趣意ニ外ナラス又各部総長ニ外國顧問ヲ加ヘ會議ヲ催ス計画アリ右ハ専ラ政事ノ研究ヲ主トシ其名モ政事研究會議ト称スル筈ナリ尚国民會議ヲ国会ニ改メントスルノ議ハ參政院ノ話題トナリ居リ又近ク憲法ヲ制定スヘシトノ議モアルモ共ニ未タ具體的決定ニ至ラス而シテ今回斯ノ如ク政事上ノ改革ヲ計画スルニ至リタル原因ハ多々アルモ其ノ近因トモ見ルヘキハ帝制問題ニ関シ国民代表大会事務局カ民意製造ノ為種々ナル密電ヲ地方官ニ發シタルコト最近雲

ニ対スル信用之カ為頓ニ失墜シタルハ争フヘカラサル事実ナリ此ニ於テ袁總統ハ局面展開民心緩和ノ一方法トシテ昨今頻リニ責任内閣制ノ実施ヲ吹聴シ或ハ殖産興業教育振興等ニ関スル申令ヲ發布シ終ニ今回迅速ニ民意代表ノ立法院ヲ招集スル準備トシテ国民會議々員當選人ヲ直ニ立法院議員當選人トスルノ可否ヲ參政院ニ諮詢スルコトナリタル次第ナルカ有識者ニハ右ハ恰モ清末信条十九ヶ条ノ發布ト同様何レモ一時ヲ糊塗スルノ政略ニ過キスト觀察スルモノ多シ当局者ノ一部ハ此際斯ノ如キ姑息の緩和手段ヲ弄スルハ却テ中央ノ威信ヲ損スルモノニテ大局ニ何等ノ利益ナキヲ以テ寧ロ一意専心動乱鎮定ニ全力ヲ注ギ十分中央ノ威力及実力ヲ示シタル後徐ニ立憲政治ノ実施ニ著手スル方得策ナリトノ強硬論ヲ主張スルモノアリシモ（政事堂參議曾舜進ノ如キ極力此説ヲ主張シタル旨船津ニ内話セリト云フ）袁ハ之ヲ採用セサリシ趣ナリ右何等御參考迄

四六 二月二十九日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

所謂民意製造ニ関スル密電ノ件

公第五二号

（三月七日接受）

大正五年二月二十九日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

所謂民意製造ニ関スル密電ナルモノハ雲南動乱勃発ト相前後シテ一月二十五日以後ノ上海中華新報紙上ヲ以テ掲破セラレ右ハ貴陽来稿ト称スルモ南京乃至浙江ノ帝制反対側ヨリ暴露セラレタルモノト思ハル、筋アリ其後雲南側ニテハ右關係ノ秘電及文書類ヲ一括シテ印刷シ民意徵実録ト題シ各方ニ郵送配布シタレハ右ハ多分本省ヘモ配送セラレタルコトト存セラレ候得共為念一二訳報致候右ハ其後袁政府側ニ於テ籌備国会事務局ヲシテ長文ノ通告ヲ発セシメ一切捏造ナリトテ打消シタルモ虚実已ニ天下ニ暴露シテ其如何ニ巧ミニ仕組マレタルヤヲ想見スルニ足ルヘク候

(一)八月三十日附段芝貴、梁士詒、朱啓鈴、周自齊、張鎮芳、唐在礼、雷震春、江朝宗、吳炳湘、袁乃寬、名義ヲ以テ各省將軍巡按使ニ宛テタル親訳密電

国体改用君主ノ義ハ各省已ニ全体一致シ現ニ第一次ノ弁法ヲ擬定シ各省公民ノ名義ニテ参政院代行立法院ニ請願書ヲ

秘密電報文書焼棄ヲ求メタル密電

(前略)

国民代表大会組織法公布施行以來国是ニ熱心ナル者ハ機關ノ意思ヲ求メ衆民ノ意思ニ背カサラントスルヨリ法律執行ノ中ニ事実ノ運用ヲ參シ公私ノ函電或ハ法律範圍ノ外ニ出ツルモノナキニ非ルヘシ固ヨリ愛國ノ熱誠ニ出ツルモ後日ハ皆無用ノ陳述タルヘシ且ツ此種ノ文電ハ如何ニ秘密ニスルモ若シ外国等ノ偵悉スル所トナリ批評ヲ受ケ或ハ更ニ史乘ニ流伝スルコト、モナラハ遂イニハ開國ノ欠点ヲ遺スコト、ナリ甚タ遺憾ナルニヨリ此種ノ文電ハ一律ニ查明シ貴監督ヨリ焼燬セラレタル上其ノ件数ヲ本局ニ通報セラレタシ諸公ハ開國ノ元勳必ス此意思ヲ同フスヘク万々迅速慎重ニ弁理セラレヨ

(四)十一月七日附朱啓鈴以下前出(段芝貴ナシ)ノ名義ヲ以テ各省將軍巡按使ニ宛テ日本列國ノ勸告ニ対スル心得及進行方ニ関スル密電

某國ハ近口支那人心ノ一ナラス恐ラクハ変乱アラントテ英露ニ強拉シテ随同勸告セルモ其実各國ハ皆ナ支那ノ乱ニ至ラサルヲ知ルモ勉メテ附和セサルヲ得サルモノアリ我國ノ

呈シ人民カ君主ニ趨向スルノ意ヲ表示シ更ラニ立法院ニテ進行ノ方法ヲ議定スヘク大抵毎省ヨリ一請願書ヲ呈出スヘク皆ナ当方ニテ代弁スヘク其原稿ハ追テ電聞スヘシ諸公同意ノ旨貴省紳商ノ名ヲ列記シ立法院開會ノ時各省ヨリ陸續呈通ノコト、スヘク要スルニ国体改革問題ハ將來必ス民意機關ヲ以テ解決スヘク我等政界軍界方面重要人ハ当ニ靜ニ時機ノ成熟ヲ待ツ之レカ応援ヲ為スヘシ一切ノ弁法ヲ隨時奉聞スヘシ

(二)九月二十九日附同上名義各省宛密電

参政院ハ各省公民ノ三回ノ請願及ヒ各軍政界ノ請願電報ニ接シ現ニ另ニ公民大会組織ヲ提議シ即チ各省會地点ニ開會シテ以テ表決シ速ニ大計ヲ定メントス惟タ組織ノ方法ハ参政院ヨリ議決スルモ其組織ノ精神ハ各監督長官ノ操縦利用ニ在リ此項ノ公民ハ毎県ヨリ一人ヲ推挙スヘク在省各機關中ヨリ挑選セハ此意旨ヲ誤ラサルヘキニ付早ク注意ノ上妥員ヲ遴委シ置キ臨時ノ困難ヲ免ル、コト、致度シ同人等ハ各省派來代表ヨリ一人ヲ帰省セシメ弁法ヲ面陳セシムル筈ナリ

(三)十二月二十一日弁理国民會議事務局ヨリ各省ニ宛テ此種

内政ニ対シ人ノ勸告ヲ聴キ停緩ストセハ是レ其干涉ヲ認ムルコトナルニ付此事ハ万々緩升ノ理ナク各省ノ票數全体推戴ヲ待ツ政府ハ自ラ当ニ委蛇遜讓ノ体度ヲ取り邦交ヲ重視スルノ意ヲ表示スヘキニ付国民ノ方面ハ宜シク進アリテ退クナキノ決心ヲ表示シ外人カ我万衆一心ニシテ我カ帝制ニ改建スルモ変乱ノ慮ルヘキナキヲ信セシメハ則チ日本ノ勸告ハ自ラ無効消滅ニ帰セン文武官吏ハ人民ノ表率ナレハ此際全国既ニ決定推戴シタレハ官吏ハ之カ実行ノ任ニ当リ毫毛阻滯スル勿レ云々

(四)朱啓鈴以下前同一名義ヲ以テ十月六日附雲南將軍唐繼堯巡按使任可澄ニ宛テタル信書

黃慶(唐ノ号) 仁兄大人国民代表大会法案ハ本月四日ノ参政院ニ第十二条ニ「監督カ必要ヲ認メタル時ハ県知事ニ委任シテ之ヲ行フヲ得」トノ一節ヲ加ヘタルハ一ハ省ニ到リ投票スル遅延ヲ免レ一ハ監督操縦ノ作用ヲ謀リタルモノナリ

(中略) 茲ニ同人等ハ投票後應弁ノ事件ヲ開陳シテ鑒察ニ供ス最モ注意ヲ要スルハ国民大会ノ推戴電中ニハ必ス「今ノ大總統袁世凱ヲ恭戴シテ中華帝國皇帝ト為ス」トノ文句ヲ挿入シ且ツ必ス各省国民代表ノ名義ヲ以テスヘキコトナ

リ云々

(一) 投票当日応弁スヘキ各件

(甲) 国民代表大会報告票數ノ電報

予メ報告電文ヲ擬シ国体投票決定後立ロニ票數ヲ書入レ  
即日国民代表大会名義ヲ以テ元首及代行立法院ニ發電ス  
ヘシ

(乙) 国民代表大会ノ推戴電報

予メ推戴書ヲ擬シ其内ニハ「謹シテ全体国民ノ公意ヲ以  
テ今大總統袁世凱ヲ以テ中華帝國皇帝ト為シ奉レ天立レ極  
之ヲ万世ニ伝フ」等ノ語ヲ記シ投票了リ次第各代表記名  
シ即日国民代表大会名義ヲ以テ元首及代行立法院ニ打電  
スヘシ

(丙) 国民代表大会ハ代行立法院ニ委任シテ總代表トスル

コト

予メ電文ヲ擬シ其内ニ「国民代表大会ハ代行立法院ニ委  
託シテ国民總代表ト為スコトヲ議定セリ」トノ語ヲ記入  
シ推戴書記名後各代表閱覽ノ上即日国民代表大会名義ヲ  
以テ代行立法院ニ打電スヘシ

(二) 投票後応弁ノ各件

シ或ハ水利事業ヲ督令シ或ハ師範教育ヲ奨励シテ北京ニ模  
範師範學校ヲ設ケ各省學生ノ收容ヲ期シ或ハ道路ノ修築ヲ  
督励シテ国道県道ノ區別ヲ提唱シ緩急挙升ヲ期シ或ハ警察  
制度ノ改良ヲ企圖提唱シ北京ニ模範高等警官學校ヲ設立ス  
ヘシト云ヒ其他国民會議々員ヲ以テ立法院ヲ組織成立セシ  
メ五月一日ヲ召集期限ト宣布シ民意ヲ尊重シ政治ノ改善ヲ  
企圖スルノ意ヲ示スカ如キハ右ハ一ニ其實行実績如何ニ顧  
ミヘキハ勿論ナルモ兎ニ角袁氏カ人心緩和ニ苦心スル迹見  
ルヘキニ有之候

右及報告候也

四七 三月七日 閣議決定

袁世凱ノ權威失墜其他中国ノ時局ニ鑑ミ日本  
ノ執ルベキ方針ハ中国ノ優越勢力確立ニ在ル

コト及之ガ実現ノ政策決定ノ件

大正五年三月七日總理官邸ニ於テ閣議決定

支那目下ノ時局ニ対シ帝國ノ執ルヘキ政策

一 支那ノ現状ヲ觀ルニ袁氏權威ノ失墜、民心ノ離反及国  
内ノ不安ハ漸ク顯著トナリ同国ノ前途実ニ測ルベカラザ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 四七

(甲) 商界ノ推戴電報(乙) 軍界ノ推戴電報(丙) 政界ノ推戴電報  
各予メ推戴書ヲ擬シ其内ニハ「現在全国ノ民意ニヨリ国  
体ヲ決定シ我カ大總統ヲ推戴シテ皇帝ト為ス某等伏シテ  
願フ我大總統輿情ニ俯順シテ早ク大位ニ登ランコトヲ」  
等ノ語ヲ記シ各界人記名シ投票終了後三日内ニ各元首及  
代行立法院ニ代電スヘシ

商界ノ推戴書ハ宜シク先ツ商界重要人ニ商議記名セシメ  
更ラニ衆多ノ商人等ヲ邀ヘ商妥記名セシムルコト、シ記  
名者ハ愈多ケレハ愈好シ

(三) 登極ノ時応弁ノ各件

(甲) 国民代表大会ノ慶賀書(乙) 商会ノ慶賀書(丙) 軍界ノ慶賀  
書(丁) 政界ノ慶賀書

各予メ慶賀文ヲ擬シ各記名シ宣詔登極ノ日皇帝及代行立  
法院ニ打電スヘキコト

右ハ単ニ其一班ニ過キササルモ今ヤ此種ノ密電文書ハ天下ニ  
暴露シテ所謂民意製造虚偽ナルコトハ一片事務局通告ノ打  
消スヘキニ非サルハ勿論反帝制否ナ排袁ノ氣運ハ鬱勃トシ  
テ抑圧シカタキノ趨勢ニ赴キ袁總統ハ即位延期ヲ内外ニ宣  
布スルノ傍最近各種ノ申令ヲ濫発シテ或ハ収税官吏ヲ戒飭

ルモノアルニ至レリ此ノ際帝國ノ執ルヘキ方針ハ優越ナ  
ル勢力ヲ支那ニ確立シ同国民ヲシテ帝國ノ勢力ヲ自覺セ  
シメ以テ日支親善ノ基礎ヲ作ルニ在リ

二 袁氏カ支那ノ權位ニ在ルハ帝國カ叙上ノ目的ヲ達スル  
ノ障礙タルヲ免レザルヘシ從テ右帝國ノ方針遂行ノ為ニ  
ハ袁氏カ支那ノ權力圈内ヨリ脱退スルニ至ルヲ便トス何  
人カ袁氏ニ代ルトモ之ヲ袁氏ニ比スルトキハ帝國ニ取リ  
テ遙ニ有利ナルヘキコト疑ヲ容レサル所ナリ

三 袁氏カ支那ノ權力圈内ヨリ脱退スルコトヲ期セムカ為  
ニハ成ルヘク支那自身ヲシテ其ノ情勢ヲ作成セシムルヲ  
得策トス蓋シ支那ノ将来ハ同国民心ノ帰向スル所ニ從テ  
決定セラレザルベカラス帝國其ノ趨勢ヲ察シ之ニ乗シテ  
事ヲ処理スルヲ要スヘク帝國自ラ支那ノ将来ヲ決定セム  
トスルハ勞多クシテ効少カルヘシ

四 若シ夫レ然ラズシテ袁氏ヲ排除セムカ為帝國政府カ正  
面ヨリ袁氏ニ肉薄シテ帝制中止又ハ退位ヲ要求スルカ如  
キハ却テ現ニ進退ニ窮シツアル袁氏ノ為ニ活路ヲ開ク  
所以ニシテ帝國政府ハ自然袁氏失脚後ノ善後処分ニ当ラ  
ザルベカラザル責任ヲ負フコトナルヘク是レ帝國政府

自ラ袁氏ヲ窮地ヨリ救ヒ代テ其ノ窮地ニ陥ルモノナリ將又帝國ハ成ルヘク与國トノ協調ヲ破ラサル範圍内ニ於テ所期ノ政策ヲ遂行スルヲ得策トスル処欧米列國ハ本件考案ノ如キ明白且直接ナル支那内政ノ干涉ニ對シテハ到底之ニ賛同セザルモノト断定セザルベカラズ

五 叙上ノ理由ニ依リ目下ノ時局ニ對スル具体的手段ハ適當ナル機會ヲ俟テ南軍ヲ交戦団体ト承認スルコトニ在リ支那政府ハ已ニ外國人ノ南支一部ニ於ケル旅行ニ對シ護照ノ發給ヲ拒ミ保護ノ責任ヲ負ハザルベキコトヲ声明シタルニ反シ南軍ハ其ノ占領地域内ニ於ケル保護ノ責任ヲ自認スルモノナルヲ以テ今後南軍ノ活動ニ尙相当ノ發展ヲ見ルニ於テハ帝國力之ヲ交戦団体ト承認スルハ國際慣例ニ照シ正當ノ措置ト謂フヘシ

六 帝國ニ於ケル民間有志者ニシテ袁氏排斥ヲ目的トスル支那人ノ活動ニ同情ヲ寄セ金品ヲ融通セムトスルモノアリ政府ハ公然之ヲ奨励スルノ責任ヲ執ラザルト同時ニ之ヲ默認スルハ叙上ノ政策ニ適合スルモノナリ

七 對支方針以上各項ノ通決定シタル上ハ外務省專ラ之ガ實行ヲ調理シ嚴ニ行動ノ不統一ヲ防クコトヲ要ス

閣議席上尾崎法相ヨリ卷紙ニ數項ノ希望ヲ列記シテ提示セラル其中注目スヘキハ(一)支那問題ニ関シ列國協調ノ為メニ束縛セラレサルコト(二)袁氏我勸告ヲ顧ミサルヨリ起リシ事態ニツキ責任ヲ問ヒ質言ヲ取り付クヘキコトヲ謂フカ如キモノアリシカ此ニ對シ予ハ帝國政府力無暗ニ列國ニ盲從スルモノニ非ザルコトヲ明ニスルタメ第四項ニ「成ルベク」ノ一句ヲ存セルヲ指摘スルト同時ニ努メテ列國ト歩調ヲ共ニスル從來ノ方針ニ變化ナシト説明シ次ニ袁氏ノ責任ヲ問フハ自ラ其時機アルヘク今日閣議ノ範圍ハ此ノ所袁氏ニ直接攻撃ノ矢ヲ放タス間接方法トシテ南軍承認ヲ決行スルコトアルヘキヲ議定スルニ止メントスルモノナルコトヲ説明セリ

註 石井外務大臣

四八 三月十二日

在中國日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

袁世凱帝制實施ノ準備トシテ封爵制度創設ノ件

公第六三三号

(三月廿日接受)

大正五年三月十二日

在支那

特命全權公使 日 置

益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

頒爵条例公布ノ件

封爵制度ヲ設クルノ一事ハ帝制施行ノ準備ノ一端ナリトテ

早ク一部人士ノ非議スル処ナリシカ袁總統皇帝就任受諾ニ際シ黎元洪ヲ武義親王ニ封シタルヲ初メトシ爾來続々各種ノ爵位世職ヲ濫授シアリシカ官制乃至條例トシテハ何等ノ公布ナカリシ処三月十二日政府公報ヲ以テ頒爵條例十二ヶ条ヲ公布シ公布ノ日ヨリ施行スヘキ旨ヲ發表セリ右ニヨレハ世爵ハ親王、郡王以下一二三等ニ分チタル公侯伯子男世職ハ一二三等ノ輕軍都尉外騎都尉雲騎尉恩騎尉トシ世爵世職ハ世襲ヲ特授セラレタル外順次降襲スルコトトシ又親王二萬元以下恩騎尉ノ二百元ニ至ル歳俸ヲ給ス又タ親王郡王ニハ官衛ヲ置カシムヘク冠服式等ハ別ニ之ヲ定ムル筈ニ有之候委細ハ別紙ニテ御詳悉相成度不取敢右及報告候也

(別紙)

洪憲元年三月十一日

國務卿陸徵祥

政事堂奉

申令茲制定頒爵條例公布之此令

政事  
堂印

洪憲元年三月十一日

國務卿陸徵祥

教令第十五号

頒爵条例

第一条 世爵世職於立有大功績於国家者特封或特授之

第二条 世爵分等如左

親王

郡王

一等公

二等公

三等公

一等侯

二等侯

三等侯

一等伯

二等伯

三等伯

一等子

二等子

三等子

一等男

二等男

三等男

第三条 世職分等如左

一等輕車都尉

二等輕車都尉

三等輕車都尉

騎都尉

雲都尉

恩都尉

第四条 滿蒙回藏原有世爵世職及俸給一切皆如其旧

第五条 世爵世職得奉 特令給予世襲罔替

第六条 世爵世職未給予世襲罔替者皆依次降襲

降襲至某項爵職時亦得奉 特令給予世襲罔替

凡陣亡人員通降至恩騎尉或特給恩騎尉均得世襲罔替

第七条 世襲世職皆以始封爵始授職者之子孫承襲先嫡後庶

先長後幼庶襲之嫡長子會得褫奪公權処分及有篤疾者得

以其次之子孫承襲其無親子孫者得以繼嗣之子孫承襲襲

爵者得罪其子孫不得承襲另挾原立爵授職者之子孫帶親  
恭候 簡定

第八条 世爵世職給歲俸如左

親王

二万円

郡王

一万円

一等公

五千元

二等公

四千六百元

三等公

四千二百元

一等侯

三千八百元

二等侯

三千五百元

三等侯

三千二百元

一等伯

二千九百元

二等伯

二千六百元

三等伯

二千三百元

一等子

二千元

二等子

一千八百元

三等子

一千六百元

一等男

一千四百元

二等男

一千二百元

三等男

一千元

一等輕車都尉

八百円

二等輕車都尉

六百元

三等輕車都尉

五百円

騎都尉

四百円

雲騎尉

三百円

恩騎尉

二百円

第九条 凡封世爵者得奉 特令給予嘉名

第十条 凡世爵世職之冠服各以其爵与職之等為差其冠服式

另定之

第十一条 親王郡王官衛另定之其一等公以下不置官衛

第十二条 本条例自公布日施行

四九 三月十二日

在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

南軍ヲ交戦団体トシテ承認ノ時機等及英国ト

ノ打合方ニ付請訓ノ件

第八七号 極秘

在露大使宛第一三六号御内示ノ趣拝承然ルニ支那ノ時局ハ  
目下ノ所当国ニテハ殆ント何等注意ヲ惹キ居ラサルノ有様

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 四九

ニ之レ有リ新聞紙上ニ於テモ二三北京方面ヨリノ断片的電

報ノ掲載ヲ見タルノミニテ到底重大ノ形勢トハ一般ノ人心

ニ映シ居ルノ模様ナキガ右ハ畢竟革命軍ノ活動モ差向キ雲

貴両省及四川ノ一部ヲ出デズ現今ノ事実トシテハ未タ边境

一部ノ動乱ニ過ギザルノ姿ニシテ早晚官軍ノ手ニ依リ鎮定

ニ帰スルカ若クハ又支那人固有ノ特性タル妥協ニヨリ平和

ノ結末ヲ見ルヘシトノ一般ノ見込ニ職由スル次第第二有之從

テ事ノ英国属領ニ接近スル地方ノ動乱ニ属スルニモ拘ハラ

ス概シテ一般ニ冷淡安心ノ態度ヲ執リ居ル所以ニシテ官軍

既ニ叙州ヲ恢復シ其ノ別動隊又雲南ニ進入セリトノ数日前

ノ北京電報ハ一層此ノ安心的先見ヲ強メ居ルノ觀アリ事情

右ノ如クナルヲ以テ帝國政府ノ南軍ニ対シ交戦団体承認ニ

シテ若シ近キ将来ニ於テ事実トナルカ如キコトアラフニハ

英国側ニ取リテハ正シク青天ノ霹靂トシテ頗フル一般ノ驚

愕ヲ惹キ起スヘキコト蓋シ予想ニ難カラス此ノ事情ハ貴電

第五項ノ方針実行上予メ篤ト御考慮ニ入レ置カルコト切

要ト思考ス

就テハ右南軍承認ハ凡ソ如何ナル時機ニ於テ御実行可相成  
御見込ナリヤ詳言スレハ現在ノ動乱地域以外此上何レノ地

方カ南軍ノ権力下ニ陥リタル時帝國政府ニ於テ之レニ交戦  
団体承認ヲ与ヘラルヘキ御内意ナリヤ本使心得迄ニ御内示  
相仰キ度將又本件承認実行ハ無論英國政府ト打合セノ上ニ  
テセラルルコトトナルベキガ前述ノ事情ニ鑑ミ其場合ニハ  
本件措置ノ必要止ムヘカラサル所以ノ事由ヲ篤ト英國側ニ  
徹底セシムルノ要アルト同時ニ適當ノ時機ニ於テ予メ多少  
ノ素地ヲ作り置クコト又得策ナルヘキニ付其辺ニ関シテモ  
本使心得迄ニ相當ノ御内訓相願置度シ

五〇 三月十三日 石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

南軍ノ交戦団体承認ノ時機等未決定ナル旨回  
訓ノ件

第八九号

貴電第八七号ニ関シ英國側ニ達セル戦報ハ主トシテ北軍側  
ヨリ出デタルモノト信セラルル処戦況ニ関スル報道ハ区々  
ニシテ当方ニ於テモ判断ニ苦ム次第ニ有之叙州瀘州ノ如キ  
モ果シテ何レノ軍ニ占領サレ居ルヤ明ナラサル程ナルモ要  
スルニ雲南軍ノ状態ハ未タ決シテ交戦団体トシテ承認セラ  
ルヘキ迄ニ發展シ居ラサルハ争フヘカラス從テ交戦団体承

コト当然ニテ広西ノ如キモ直ニ独立ヲ取消スヘキ筋合ナル  
モ實際ハ却々左様ニハ参ラサルヘク從テ中央トシテハ徐ロ  
ニ方策ヲ立テ臨機応変ノ措置ニ出ツル外ナカルヘシト答ヘ  
尚今回帝制取消ヲ断行スルニ至リタル動機ハ或仲介者(人  
名ヲ明カサ、ルモ南方ヲ代表スル者ニアラスト述ヘタリ)  
ノ建言ニ基クモ右ハ北方ヨリ依頼シタルモノニアラス從テ  
調停ノ意ニ出デタル次第ニアラサルハ勿論ナリト附言シ最  
後ニ南方ノ形勢及之ニ対スル中央ノ方針ニ付大要左ノ通語  
リタル趣ナリ

(一)広西ノ独立ハ一本ノ電信ト一枚ノ告示ニ依リ行ハレタル  
次第ナレハ左迄憂フルニ足ラス且同地方ノ人民ハ何レモ乱  
ヲ避ケンコトヲ熱望シツ、アリ広東ハ大丈夫ナリ同省ニ対  
シテハ十分ニ軍備ヲ整ヘ辺疆ノ防備ト省内ノ安寧維持ニ努  
ムヘシト命令シアルヲ以テ兵力ニ訴ヘ広西ノ討伐ヲ企ツル  
カ如キコトナカルヘシ

(二)四川方面ノ北軍ニハ暫ク現在ノ陣地ヲ防守シ追テ何分ノ  
命令アル迄攻勢ヲ取ルヘカラスト訓令シアルモ湖南方面ノ  
北軍ニ対シテハ貴州軍ノ侵入ヲ防ク必要上引続キ攻勢ヲ取  
ルヘシト命令シアリ

認ノ時機ノ如キモ帝國政府ニ於テ未タ何等決定シタルコト  
無之愈決定実行ノ際ハ英國政府ニ対シ打合ヲ為スベク尚戦  
況ノ推移如何ニヨリ隨時当方ノ見込ヲ貴官含迄ニ申進スル  
筈ナリ

五一 三月二十二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝制取消ノ内情ニ関シ内探ノ件

第二一一号 至急

三月二十二日高尾別用ヲ以テ梁士詒往訪ノ際往電第二一〇  
号帝制取消ノ内情ヲ探ラシメタルニ梁ハ大總統ガ時局ノ現  
状ニ顧ミ帝制ヲ取消シ曩ニ代行立法院ヨリ提出シタル皇帝  
推戴書ハ之ヲ参政院ニ返戻スルコトニ決定シタルハ事實ニ  
テ右ハ申令ヲ以テ公布スル筈ナリ尚帝制取消ノ結果之ト関  
聯シテ幾多法制上ノ手續ヲ要シ年号ノ如キモ取消スコト、  
ナルヤモ知レス又徐世昌ハ今回再ヒ國務卿ニ任命セラル、  
コトニ決シ本日發令ヲ見ルヘシト内話シタルニ依リ高尾ヨ  
リ帝制取消ノ結果時局平靜ニ帰スヘキ見込アリヤト尋ネタ  
ルニ之ニ対シ梁ハ理論上ヨリ云ヘハ蔡錕等ノ旗揚ハ帝制ヲ  
取消スヘシト云フニ在ルヲ以テ右取消ノ結果干戈ヲ収ムル

同日別ニ船津ヲシテ周自齊ニ就キ同様内情ヲ探ラシメタル  
ニ周モ帝制取消、推戴書返戻、徐世昌國務卿任命決定ノ事  
実ナルコトヲ確言シ尚是迄病氣請暇中ナリシ段祺瑞モ病氣  
全快ヲ届出デ統率弁事処首席參事員兼將軍府監理事務ノ職  
務ヲ見ルニ至ルヘシト語リ尋テ帝制取消ノ義ハ実ハ曩ニ廟  
議決定シ居リ叙州納溪<sup>ナリ</sup>克復ヲ機トシ發表スル筈ナリシモ一  
部軍人中雲南軍ヲ全然雲南省ニ追込ミタル後決行スヘシト  
ノ反對説ヲ提出シタル者アリ荏苒日ヲ送り居ル内終ニ広西  
ノ独立トナリ時機ヲ失シ面白カラサル始末トナリタルモ此  
上遷延スルコト不得策ト思料シ彼是評議ノ末愈々決行スル  
コトトナリ本日新任國務卿ノ名ヲ以テ申令ヲ發布スヘシト  
内話シ(周ハ申令ノ内容ノ大体ヲ洩ラシタルモ發表次第別  
ニ電報スヘシ)

右申令ハ当初政事堂右丞錢能訓袁世凱ノ意ヲ受ケテ起草シ  
梁士詒ノ手ニテ修正ヲ加ヘ張教育總長更ニ多少ノ添刪ヲ行  
ヒ最後ニ機要局長王式通修正ノ上確定シタルモノナルガ梁  
士詒ノ修正ニハ「モリソシ」ノ意見ヲモ加味シ居ル筈ナリ  
ト附言シタル趣ナリ將又其際周自齊ハ安徽將軍倪嗣冲ハ中  
央ニテ帝制取消ノ議アルヲ聞キ込ミ急遽一昨二十日入京坂

中央当局ノ附甲斐ナキヲ憤慨シ此際飽ク迄武力ヲ以テ乱党ヲ平ケ然ル後帝制ヲ実行セサルヘカラス退嬰讓歩的態度ヲ示スハ不得策ナリト豪語シ非常ノ意氣込ナリシモ二十一日袁世凱ニ謁見シ其ノ不心得ヲ諭サレ悄然退出近ク帰任スル筈ナルガ軍人中ニハ倪ノ如キ意見ヲ有スル者尠カラス從テ帝制取消ノ為今後如何ナル波瀾ヲ起スヤモ計リ難ク甚タ懸念ニ堪ヘスト語リタリト云フ(終リ)

五二 三月二十二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

徐世昌ヲ國務卿陸徵祥ヲ外交總長ニ任命ノ件

第二一三號

三月二十一日附策令ヲ以テ陸徵祥ヲ外交總長專任トナシ徐世昌ヲ國務卿ニ特任スル旨公布セラレタリ

五三 三月二十二日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

帝制取消ニ関シ袁大總統ト会见ノ件

(大正五年三月二十四日接受)

極秘 電報 三月二十二日 午後九時三十分北京着  
午前一時二十五分東京着

參謀總長宛 坂西大佐

五四 三月二十三日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

三月二十二日付帝制取消ノ申令公布セラレタ

ル件

第二一四號

三月廿二日付申令(新任國務卿徐世昌副署)ヲ以テ帝制取消ノ件大要左ノ通公布セラレタリ

民国創設セラレテヨリ事變ノ發生日トシテ無之ハナク為ニ憂國ノ士ハ多ク帝政ヲ復歸セシメ以テ紛争ヲ杜絶センコトヲ主張セリ斯ル言議革命以來予ノ常ニ耳ニセル処ナリシモ予ハ敵ニ之ヲ排斥セリ然ルニ昨年ニ至リ時勢ノ要求止ミ難ク中国ノ国体ハ君主立憲ヲ実行スルニアラズンバ到底存立ヲ図ルニ難シトナシ遂ニ多数人士ニ依リテ帝政復歸ノ議ヲ主張セラレ爾來書面ニ電報ニ紛々請願ニ接シタル処予元來ノ地位タルヤ正ニ国体ヲ維持スルノ責ヲ有スルヲ以テ一再ナラス此意ヲ宣言シタリト雖モ人之ヲ諒トセス次テ代行立法院ハ國民代表大會ニ於テ解決セル国体即チ各省國民代表ノ一致賛成セル君主立憲ノ義ヲ議決シ同時ニ予ヲ君主ニ推戴セリ抑モ中国ノ主權ハ國民全体ニ在リテ既ニ國民代表大

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 五四

極秘電一八

本日帝制取消ノ旨公布セラルル由ナリト聞キ袁ト会见ス彼曰ク假令小數ナリト雖モ國民ノ一部ニ反対アリテ而モ之カ為メ人民ニ災ヲ被ラシムルコトアリテハ不可ナルヲ以テ先ツ帝制ノ実行ヲ見合せ且一方ニ於テハ可成動乱ヲシテ擴大セシメサルノミナラズ逐次之ヲ平定シ速ニ立法院ヲ開キテ更ニ国体ノ再審議ヲ行ハシムル積ナリシモ巴西既ニ獨立シ廣東モ將ニ影響ヲ受ケントシツツアリテ人民ヲ苦メルコト益々多カラントスル情況トナレルヲ以テ今ヤ立法院ノ開會等ヲ待ツノ暇ナク帝制ヲ取消スコトトシ本日之ヲ公布セシメタリ之ニテ帝政反对者ノ事ヲ起ス名義カ無クナリタル訳ナリ此後彼等ハ如何ナル行動ニ出可キヤ不明ナルモ更ニ騒乱ヲ醸スニ至ラハ新ニ之ニ処スルノ法ヲ施サザル可ラズトテ其他ヲ語ラザリキ要スルニ帝制取消ト共ニ徐世昌ヲ初メトシ段祺瑞、黎元洪等ヲシテ再ヒ出山セシムルコトニ力メ先ツ此ノ時局ニ対スル一時的解決ヲ求メントスルモノニシテ更ニ彼カ自ラ退讓ヲ果シテスルヤ否ヤハ今尚彼ノ心中ニ於テモ決スル処ナキモノノ如シ

会全体ノ決議ヲ経タル以上ハ予ニ於テ毫モ討論ノ余地ナシト雖遽カニ帝位ニ即キテ中華ニ戻ルカ如キハ道德信義ノ上ニ於テ自カラ解スルニ由ナキカ故ニ誠衷ヲ披瀝シテ之レヲ辞退シ以テ素志ヲ表明シタリ然ルニ該院ニ於テハ元首ノ地位ハ民意ニ從フモノナリトノ議ヲ堅ク主張シ避クルニ由ナカリシカ故ニ已ムナク準備ニ名ヲ藉リ以テ衆望ヲ禦ギ未ダ実行ニ及ハサリシ折柄図ラス雲貴ノ變ニ遇ヒタルヲ以テ茲ニ之ヲ延期スルニ決シ勸進ノ文電ハ其ノ提出ヲ許サ、ル旨ノ申令ヲ公布シ同時ニ立法院ノ招集開會ノ時期ヲ繰リ上ケ意見ヲ徵求スルコトトナレル次第ナリ予革命ノ当時衆ニ推サレテ任ニ膺タリ危機ヲ支ヘテ時局ノ維持ニ努メ國ヲ救フヲ知リテ其他ヲ知ラス中国數千年來ノ歴史ニ載スル所帝王子孫ノ禍ハ歴々徴スヘク予独リ何ゾ皇位ニ恋々タルヘキヤ然ルニ國民代表ハ其ノ辞退ノ誠意ヲ諒トセス而カモ一部ノ人士ハ以テ權利ノ失喪ナリト疑ヘリ蓋シ予ハ実ニ人ニ徳ナラス而カモ又更ラニ我生靈ヲ苦シメ我將士ヲ勞シ以テ人心ノ恐慌ヲ致シ商業ヲ疲弊セシムルカ如キ誠ニ遺憾ニ耐ヘサル所ナリ依テ代行立法院ノ上陳セル皇帝推戴ノ件ハ予ニ於テ依然時宜ニ叶ハスト認ムルカ故ニ昨年十二月十一日帝位

ニ即クヲ承認セル一事ハ直ニ之ヲ取消シ政事堂ニ命シテ各省ヨリノ推戴書ハ全部參政院ノ代行立法院へ返戻セシメ同院ヨリ夫レ夫レ転送シテ焼却セシメ同時ニ帝政準備事務ハ即刻之ヲ停止シ以テ寡人已レヲ罪スルノ誠ヲ致スヘシ蓋シ帝制ヲ主張スルモノ素ヨリ国家ノ基礎ヲ鞏固ナラシメシコトヲ期スルニ在リト雖併モ國ヲ愛スル道ニアラスンハ軫シテ國ヲ害ヒ其ノ帝制ニ反対スルモノモ亦政見ニ依ルトハ云ヘ断シテ強制度ニ過キ国家ヲ危クスヘキニアラス必ス須ク各自良心ニ訴ヘ害ヲ除キ同心協力共ニ時局ノ艱難ヲ救ヒ我神州ノ民ヲシテ同志討ノ禍ヲ免レシムベシ之ヲ要スルニ万般ノ罪ハ予一人ニ在リ今茲ニ帝位ヲ承認スルノ件ハ已ニ取消タルカ故ニ此上若シ地方ヲ攪乱スルモノアラハ禍福共ニ自ラ招クモノト云フヘク本大統領ハ全国統治ノ責ヲ有スルカ故ニ坐視スルコト能ハサルナリ爾後文武百官ハ努テ積弊ヲ除キ理治ニ勉メ各自職責ヲ竭シテ主權ヲ損スルコトナク予モ亦名実ヲ尊ヒ賞罰ヲ明ニスルヲ以テ政治ノ大綱トスヘシ茲ニ令ス(全文ハ郵送ス尚帝制取消ノ要領ノミ在支各領事香港總領事及堀領事へ電報セリ)

五五 三月二十四日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

洪憲ノ年号廃止ニ関スル申令公布ノ件

第二二〇号

中華民國五年三月二十三日附申令ヲ以テ曩ニ大典籌備処ノ奏請ニ依リ年号ヲ改メタルモ帝位ヲ承認スルノ一事ハ既ニ之ヲ取消シ大典籌備モ亦之ヲ停止セシメタルニ因リ洪憲ノ年号ハ直ニ之ヲ廃止シ旧ノ如ク本年ヲ中華民國五年トナスヘキ旨公布セラレタリ

在支各領事及香港並堀領事ニ電報セリ

五六 三月二十四日

在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国ノ時局重大ヲ加ヘツツアル折柄右ニ對スル日本ノ考ヲ承知シ度キ旨英国外相談話ノ件

第一〇〇号

前電談話後「グレー」氏ハ支那ノ時局ニ関シ数日前「ジヨルダン」公使ヨリ電報接到セルガ事態寧ロ重大ヲ加ヘツ、アルガ如シト語ラレタルニ付本使ハ最近ノ發展ニ付テハ未タ政府ヨリ何等情報ニ接シ居ラサルモ数日来ノ当地新聞ニ

報セラル、カ如ク広西省モ独立ヲ宣言シ湖南廣東スラ同様ノ模様アリトセハ或ハ今後南方全体ノ蜂起トナリ南北間ノ内乱トナルカ如キ危機ヲ醸成センモ知ルヘカラスト憂惧スル旨ヲ述ヘタルニ「グレー」氏ハ如何ニモ或ハ右様ノ虞モアルヘシ就テハ此ノ形勢ニ對シ日本政府ノ考如何(What's intention of Japan) 承知スルヲ得ハ自分ノ仕合トスル所ナリト云ハレタルニ付本使ハ政府ノ所見ハ本使モ心得迄其ノ内伺出置カント考ヘ居ル所ナル旨程能ク答ヘ置キタリ

五七

三月二十五日  
在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

帝制取消ノ反響ニ関スル新聞論調報告ノ件

第三八号

帝政取消ノ申令ニ對スル反響トシテハ反袁派諸新聞ハ一樣ニ之レヲ袁ノ奸手段ト目シ妥協ノ不可能ヲ唱ヘ袁及其一派ヲ驅逐セサルベカラサルヲ切論シ御用紙タル亜細亞日報神州日報等ハ多ク本問題ニ触ル、ヲ避ケ外字新聞中「デーリー、ニュース」「チャイナ、プレス」ハ之ヲ機會ニ双方妥協和平ノ解決ヲ希望シ居レリ一般人民ノ感情トシテハ取消ニヨリ袁ニ對スル畏敬ノ念ヲ減シタルモノト認ムヘク袁一

己トシテハ寧ロ不利益ノ地位ニ退進セルモノトスヘキカ如シ右ニ對シ唐紹儀ノ内話ニ依レハ昨二十三日当地ニ集リ居ル旧国会議員二百余名ハ袁ヲ大統領ト目セス黎元洪ヲ以テ仮總統ト認ムル決議ヲナシ北京各国公使館ニ電報スルニ決シ今朝發送セル答ナリトシ袁ハ益々威望ヲ失シ妥協ノ如キハ元ヨリ望ミ得ヘカラス恐ラク今後三月ノ生命アルノミト断定シ南方ニ首領ヲ置クハ却テ人民ヲシテ野心アルヲ疑ハシムヘク岑春煊ノ如キモ何等將來ニ野心ナキヲ宣言セハ或ハ可ナランモ敵ノ多キコト袁ニ讓ラサル同人ハ當座ト雖モ首領タルニ適セサルヘク差当リ首領ナクトモ尚能ク成効シ得ヘク不日奉天ニモ何事カ起ルヘキ見込アリ要ハ北京ヲシテ反對熱ノ旺盛ナルヲ感セシムルニ於テハ性來卑怯ナル袁ハ自然ニ退位スヘク其ノ節一時黎元洪ヲ推セハ可ナリト樂觀シ偏ニ我政府ノ公正ニシテ慎重ナル態度ヲ賞揚シ將來永ク人民ノ感謝スル所ナルヘシトナシ居レリ尚同人ハ最近袁ヨリ馮ニ電報シ何時ニテモ退讓スヘキ旨及後任トシテ岑春煊ヲ推スヘシトシテ其ノ意見ヲ求メ馮ハ神經ニ悩マサレ居レリトノ說アリトシ之レ必竟他ヲ惑サントスル手段ニ外ナラサルヘク何レニシテモ馮ハ最後迄起タザルヘク六万ノ北

兵ヲ牽制セル彼ノ起タザルコトハ予モ亦得策ト認ムル所ナリトセリ將又姚文藻ノ伝フル南京側ノ消息ニ依レハ袁ハ人ヲ南京ニ派シ馮ヨリ各省軍人總代表者トシテ袁世凱ヲ大總統トシテ留任方ヲ北京ニ電請セシメントシタルモ馮ハ之レヲ拒ミタルニ派遣員ヨリハ既ニ右偽電ヲ發セリ又中央政府ヨリ既ニ馮ニ宛日本ハ支那ニ重大利権ヲ獲取シ支那ヲ侵略セント欲セシモ其ノ目的ヲ達セサルヨリ袁世凱ニ退位ヲ迫リ帝政取消ノ已ムナキニ至レリ日本ハ岑春煊ノ大總統推薦ヲ擁護セリ又帝政取消ハ英國側トモ相談シタル上ノコトニシテ英米側トモ日本牽制策ヲ講シ居レル旨電報シ来レリト御參考迄ニ

在支公使ニ電報セリ

五八 三月二十七日

石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

中国時局ニ対スル日本政府ノ所見英國外相ニ

伝達方回訓ノ件

第一一一号

貴電第一〇〇号ニ関シ支那時局ニ対スル帝國政府ノ所見左ノ通り極メテ内密ノ含迄トシテ「グレー」氏ニ伝ヘラレタ

第二三〇号

代行立法院ハ本月二十五日開会申令ニ従ヒ各省区ノ推戴書ヲ各該省ニ還付焼棄スルコトヲ議決即日執行セリ又去年十二月十一日民国ノ各法令中国体ト牴触スル各條款ノ外依然効力ヲ有スルコトヲ議決シ申令ヲ以テ公布シタルモ今回推戴書還付焼棄ノ結果効力ヲ失ヒタル各法令ハ依然其ノ効力ヲ恢復シ一律適用スヘキコトモ同日ノ大会ニ於テ多數議決ヲ經タル趣同院ノ来文ニ接シタルニ付政事堂ヲシテ法制局ヘ知照セシムル旨三月二十七日申令ヲ以テ發表セリ

六〇 三月三十日

石井外務大臣ヨリ  
在上海有吉總領事宛(電報)

袁没落ノ場合ニ対処スル準備計画ニ関スル情

報ニ付取調方訓令ノ件

第二七号

袁世凱ノ没落ヲ予期シ其際ニ処スル準備トシテ近來貴地ニ於テ旧国会議員其他集合シ一種ノ国民會議様ノモノ開催方計画シツ、アリトノ情報アリ右ハ果シテ事実ナリヤ御取調ノ上詳細回電アリタシ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 六〇 六一 六二

シ

支那現下ノ形勢ハ「グレー」氏所言ノ通り極メテ重大ニシテ此ノ事態ハ恐ラク何人ヲ以テスルモ差当リ收拾ノ途ナシト考フ袁世凱ハ帝政取消ヲ宣明シタリト雖之ニヨリ人心緩和ニ多大ノ効果アルヘキヤ疑問ナリ或ハ結局袁世凱大總統ノ地位ヲモ擲タサルヘカラサルニ至ルコトナキヲ保セス仮リニ此ノ如キ場合アリトセハ何人ガ時局收拾ノ任ニ當リ得ヘキヤハ速断シ難キモ四億ノ支那人中袁ノ他ニ人ナシトハ思惟スル能ハサルノミナラス現下ノ形勢ニ於テハ支那人心ノ全ク袁ヲ離レタルカ故ニ支那民心ノ此傾向ニ逆ヒテ袁ニ援助ヲ与ヘ又ハ反袁派ノ氣勢ヲ殺ガムコトヲ努ムルカ如キハ却テ時局收拾ヲ速ムル所以ニ非ズト思考セラル帝國政府ニ於テハ時局ノ推移ヲ注視シツ、アルガ今後ノ發展如何ニ依リ必要ノ場合ニ英國政府ヘ内協議ニ及ブヘシ

以上貴電第一〇〇号ト共ニ各大使ニ転電アリタシ

五九 三月二十七日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

代行立法院ニ於テ皇帝推戴書ノ還付焼棄ヲ議

決ノ件

六一 四月一日

在天津松平總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁總統隱退ノ噂ニ依リ人心動搖ノ傾向アル件

第二三三号

袁總統隱退ノ噂新聞紙等ニ現ハレテヨリ当地方人心次第ニ動搖ノ傾向アリ彼等ハ右ノ噂ニシテ事実トナルニ於テハ当地方治安維持ノ局ニ当ル警察厅长ノ威信地ニ落チ巡警ノ統御困難トナリ或ハ第一次革命ノ際ニ於ケルカ如ク巡警等ノ掠奪突發センコトヲ虞レ居リ昨今市中ニハ之ニ関スル謠言行ハル尤今日迄ノ所ニテハ未タ表面上危險ノ現ハレタルモノナク商業上ニモ未タ差シタル影響ナク今朝以來北京方面ヨリ当地ニ移住シ来ル支那人頓ニ増加ノ模様ナリ

在支公使ヘ電報シタリ

六二 四月一日

在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

旧国会議員等ノ国民議會開催計画ニ付回報ノ

件

第四四号

貴電第二七号ニ関シ往電第三八号唐紹儀談話中ニモアル如

ク旧国会議員ノ当地ニ在ルモノノ一部内々集会シ居レルハ  
事實ニシテ現ニ北京各公使館宛數十名ノ連署ヲ以テ袁ノ大  
總統タルヲ認メサル決議文ヲ發送シ及各省ニモ同様ノ通達  
ヲ為セルカ如キ其ノ一例ナルモ右ノ内有力ナル谷鍾秀等ノ  
内話ニ依レハ公然国会トシテ集会スルハ上海乃至南京占領  
ノ後ナルヘク広東ニテモ革命ノ手ニ帰セハ同地方ニ集会セ  
ントノ説ヲ為スモノアルモ土地僻陋ニ付寧ロ当地方ヲ可ナ  
リトスルモノ多シト云ヒ目下ノ処ハ単ニ同志ノ集会ニ止マ  
リ其ノ当地ニ在ルモノ百余名ニ達シ居レルモ前記決議文作  
製ノ際ノ如キ署名ヲ取ルノ手数等(脱)五六十名ノ名ヲ記  
シタルニ止マル様ノ次第ナリトシ居リ当地附近革命ノ手ニ  
帰スル様ノ場合ニハ何レ彼等ガ公然集会スル時機アルヘク  
有力者中ニハ相当考慮中ト認メラル、モ差当リノ処急ニハ  
運ハサルヘク何レニシテモ時局ノ發展ニ伴フモノト認メラ  
ル

六三 四月一日 在英国井上大使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国時局ニ関スル日本政府ノ所見伝達ノ為英  
国外相ト会見ノ件

人ノ安全保護ヲ責任ヲ以テ担任スヘキ旨公然声明シ事實其  
通り実行シツ、アル模様ニ付革命軍ノ勢力地域内ニ於ケル  
外人ノ生命財産ノ安固ハ特ニ憂フヘキ点ナキカ如ク我海軍  
ニテモ事態ノ成行ハ無論注意シタルヘキモ此場合之カ為特  
ニ軍艦派遣等ノ詮議ハ聞及ヒ居ラスト答ヘタルニ「グレー」  
氏ハ語ヲ転シ実ハ支那ノ形勢追々險惡ノ徴ヲ呈スルト同時  
ニ当国一般ノ神經モ近來刺激ヲ加ヘ居レルガ最近二個ノ相  
矛盾セル風説行ハレ居リ自分ノ耳ニモ達セリ(一)ハ日本  
ハ新ニ支那ニ対シ要求ヲ提出シ英國ハ之ヲ妨害中ナリトノ  
噂ニシテ(二)ハ支那ニ於ケル日本ノ利益ノ卓越ヲ基礎ト  
シテ日英両政府間ニ現ニ商議進行中ナリトノ説ニテ現ニ某  
議員ノ如キ特ニ自分ヲ來訪質問セルニ付断然打消シ置キタ  
ルガ当地駐在外交官ヨリモ同様ノ質問ヲ受ケタリ右様ノ次  
第二ニ支那ノ時局ニ付テハ英國議會モ質問起ルヘキニ付其  
際ニハ英國政府ハ英國人ノ生命財産ニ危害ナキ限リ支那ノ  
内治ニハ何等干渉セサル考ヘナリト答弁スル積リナルカ若  
シ之ニ關聯シテ他ノ質問出テタル時ニハ万一ノ場合居留民  
ノ生命財産保護ノ措置方ニ付テハ日本政府ト交渉中ナリト  
附加ヘ言明シ差支ナカルヘキヤト云ハレタルニ付本使ハ其

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 六四 六五

第一一九号

「グレー」氏巴里ヨリ帰來ニ付三月三十一日往訪先ツ前会  
見ノ際支那ノ時局ニ関シ日本政府ノ所見承知シタキ旨御話  
ノ次第アリ右ハ昨今日増ニ重大ノ形勢ニ鑑ミ本使自身モ心  
得迄承知シ置キタキ処ニ付御希望ヲモ具シ請訓ニ及ヒ置キ  
タル処二十七日政府ヨリ回答接到其内容ハ極内密ノ御含迄  
ニ貴大臣ヘ御伝シ置ク様トノコトナリト述ヘ貴電第一一  
号英訳ヲ読聞カセタルニ「グレー」氏ハ右帝國政府ノ隔意  
ナキ内牒ハ同大臣ノ深ク多トスル処ナル旨ヲ述ヘタル後実  
ハ其後「ジョルダン」公使ヨリモ事態追々重大ノ趨向ナル  
旨重テ電報アリ同時ニ今日迄ノ処英國人ノ生命財産ニハ何  
等危害ヲ及ボシ居ラサルモ万一ニ備フル為此際揚子江ニ於  
ケル英國砲艦武装復旧ニ着手シ差支ナキヤト請訓シ來レル  
ニ付事軍艦ニ関スルニ付不取敢海軍ヘ移牒シ置キタル次第  
ナルカ此際果シテ右様ノ必要アルヘキヤ貴大使ノ所見如何  
ト尋ネラレタルニ付我邦ニテモ幸ニ何等邦人ノ財産生命ニ  
危害ヲ受ケタル事實ナキノミナラス本使ガ接手ノ情報ニ依  
レハ北京政府ハ動乱地域内外國人ノ安全ヲ保障スル能ハス  
ト声明セル由ナルモ革命軍ハ当初ヨリ其勢力内ニ於ケル外

意味ナラハ別ニ差支ナカルヘシト答ヘ置キタリ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

六四 四月一日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

參議院ハ国体變更案及國民總代表ノ資格消滅  
ニ関スル建議案ヲ可決シタル件

第二四五号

四月一日參政院ハ嘗テ代行政立法院ノ決議シタル国体變更ノ  
件及國民總代表ノ資格ハ今回帝政取消ノ結果当然消滅スヘ  
シトノ建議案ヲ討議可決セリ尚參政院秘書長林長民ノ船津  
ニ語ル所ニ依レハ過日帝政取消ニ関スル政府ノ移牒討議決  
定ノ結果右ノ如キ決議ハ不必要ナル如キモ袁總統ノ帝位辭  
退ト代行立法院ノ決議取消トハ別問題ナレハ兩々相待チテ  
帝政取消ノ件ヲ一層明確ニセシ訳ナリトノコトナリ

六五 四月六日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

中国共和復活ニ関スル各種ノ申令公布ノ件

公第七九号

(大正五年四月十四日接受)

大正五年四月六日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

袁總統ハ三月二十三日ノ政府公報ヲ以テ罪己帝制ヲ取消スノ申令ヲ發シ全国各方面ノ推戴書ヲ參政院ニ返付スルト同時ニ二十三日ヨリ代行立法院臨時会ヲ召集シ更ラニ翌二十四日ノ公報ヲ以テ洪憲年号ノ取消ヲ宣布シ一面代行立法院タル參政院ハ三月二十五日閣議ノ末帝制ノ取消ヲ議決スルト同時ニ各省区ノ推戴書ハ之ヲ各該省区ニ返付消毀セシメ帝制施行ノ為メ効力ヲ失ヒタル法令ノ効力回復ヲ議決セリ袁總統ハ右ノ決議ノ回答ニ接シ二十七日附ヲ以テ右參政院決議ノ趣ヲ宣布スルト同時ニ政事堂ヨリ法制局ニ命シ夫々查照セシムル旨ヲ以テセリ

先是雲貴事アリテ後袁總統ハ民心緩和ノ一方便トシテ立法院ノ線上ケ召集ヲ企画シ乃チ參政院ニ諮詢ノ上既ニ昨年末覆選舉ヲ終ヘタル各省区ノ国民會議々員ト將ニ施行サルヘキ中央特別選舉會選出ノ国民會議員ヲ以テ立法院ヲ成立セシメ五月一日ヲ以テ召集スヘキ旨ヲ宣布シ且ツ別ニ立法院議員單選々挙日期令ヲ公布シ四月十日及ヒ十五日ヲ其選舉

ヘキモノナリトノ建議案ヲ議決シ參政院ハ自然解散乃至暗ニ向後何等責任ヲ負ハサルヘシトノ態度ヲ示シタルニ對シ袁總統ハ四月一日附語文ヲ以テ參政院ニ對シ

前略(參政院建議ノ次第ヲ受ク)查スルニ參政院カ立法院ノ職機ヲ代行スルハ約法ノ特定スル所推戴一案ハ已ニ明令ニテ取消サレタルモ此後ノ一切ノ議事トハ相關セス建議ノ次第今回ノ臨時會中緊急事件ナキ限リハ照弁スヘキモ今ヤ明令ヲ以テ立法院ハ更ニ正式ニ選舉ノ上召集スヘキニ付其未成立以前若シ開會議決スヘキ事件アレハ約法ノ第六十七條規定ニヨリ弁理スヘキモノナリ云々

トテ一面ニハ參政院ヲ慰撫シ一面ニハ北方側ニハ依然トシテ正式代行立法機關ノ繼續存在スルヲ示セリ夫レカ故ニヤ參政院ハ四月一日再ヒ開會右大總統ノ回答ヲ報告シタル上先キニ民國法令効力回復ヲ議決シタル結果「國民代表大會ノ決定シタル君主立憲ナル國体案及本院カ總代表ノ名義モ亦タ同時ニ取消スヘシ」トノ議案ニ付キ討論何等ノ異議モナク通過シ之ヲ袁總統ニ諮達セリ其結果四月二日附申令ヲ以テ右ノ次第ヲ宣布スルニ至リタル次第ニ有之候

右ノ次第ハ隨時電信公信ヲ以テ報告致置候ヘ共成行一括茲

期日トセリ然ルニ元來國民會議ハ憲法議定機關ニシテ民意代表ノ立法機關トハ其性質ヲ異ニスルノミナラス假令立法院議員選舉法ニ準拠シテ選舉セラレタルモノトスルモ元來此選舉法ハ兩年以來袁總統專斷政府ノ手ニ制定進行セラレタルモノニテ官選ノ傾向アツテ民選ノ性質ニ悖ルトノ議論ヨリ到底南方一般輿論ノ満足ヲ得サルノミナラス遂ニ帝制取消ノ已ムナキニ至リ且ツ代行立法院タル參政院ハ三月二十五日ノ開議ニ於テ民國法令ノ効力回復ヲ議決シ二十七日附申令ヲ見ルニ至リシ次第モアルヨリ遂ニ往電第二四七号電報ノ通り四月一日附申令ヲ以テ五月一日立法院召集ノ議ヲ取消シ國民會議ハ依然繼續シテ更ラニ單選互選ヲ行ハシメタル上約法ノ規定ニヨリ憲法議定機關トスヘク又タ立法院モ別ニ立法院議員選舉法ニ照シ期ヲ定メ選舉ヲ行ハシメ其完了ヲ俟チ召集スヘキ旨ヲ公布スルニ至リ國民會議ハ暫ク立法院ノ召集ニ至ツテハ前途猶遙々ノ至リニ候

將又タ三月二十五日ノ參政院ニ於テ帝制取消ニ至リタル今日參政院ハ須ク其實ヲ分チ解散或ハ辭職ヲ為スヘシト主張スルモノアリ紛々囂々ノ末臨時會ノ議事ハ帝制廢止ニ関スルモノニ限ルヘク其他ハ正式民意機關成立ノ後詳慎討議ス

ニ及報告候也

六六 四月八日

石井外務大臣ヨリ  
在英國井上大使宛(電報)

中國時局ノ推移及在留外國人保護問題ニ関シ  
日本政府ノ意向ヲ英國外相ニ傳達方回訓ノ件

第一三一号

貴電第一三〇号ニ関シ

英國外相ノ問ニ對シ貴官カ与ヘラレタル説明ハ正シク帝國政府ノ意向ヲ顯ハスモノナルコトヲ「エドワード、グレー」氏ニ告ケ尚左ノ通り附言セラレタシ

支那ノ時局ハ益發展シテ袁世凱ハ漸ク之ヲ鎮定スルノ実力無キヲ示シツ、アルモノ、如シ又南方一帯ノ意向ハ要スルニ袁世凱ハ此時局ヲ激成セル全責任ヲ負ヒ名実共ニ政界ヨリ隱退セシムベク國會ヲ召集シ憲法ヲ制定シ新大統領選定迄ノ間ハ黎元洪ヲシテ國務ヲ處理セシムルニ略ホ一致スルモノノ如シ支那ノ大勢既ニ如斯シトスレハ外國人ノ生命財產ニ危害ヲ及ボサル限リ干涉ヲ避ケテ大勢ノ進行ニ任スヲ以テ穩當ナル政策ト思考ス

右在仏伊米ニ転電アリタシ

六七 四月十七日 石井外務大臣會談  
在本邦中國公使

日本ノ援助要請ノ袁氏提議拒否及同氏引退後  
日本來住ノ場合ニハ充分保護スベキ旨傳言方  
依頼ノ件

附記 四月十一日在本邦中國公使持參ノ同公使ニ對ス  
ル中國政府電訓和訳文

支那公使ニ對スル外務大臣談話要領

四月十七日陸公使約ニ由リテ來省ス石井大臣ヨリ去十一日  
陸公使ガ取次キタル支那政府ノ提議ニ對シ左ノ通り回答セ  
ラレタリ

日支親善ハ帝國政府カ夙ニ唱道シテ切ニ其實現ヲ希フ所  
ナリ唯自今支那ノ時局ニ際シ帝國政府ニ於テ袁大總統ニ  
援助ヲ約スルカ如キハ内外ニ重大ナル疑惑ヲ招キ却テ日  
支親善ノ目的ヲ達スル所以ニ非ズト信ズルヲ以テ遺憾ナ  
カラ之ヲ避クルノ外ナシ

右終リテ更ニ石井大臣ヨリ陸公使ニ向ヒ大要左ノ如ク申述  
ヘラレタリ

其後新聞電報及其他ノ筋ヨリ得タル報道ニ依レハ袁大總  
統ハ支那動亂ノ鎮定ヲ計ルカタメ政界ヨリ引退スルニ決

スルモ日ナラス軫シテ我日本ニ來ラルヘキヲ信シテ疑ハ  
ス其場合ニ於テハ帝國政府ハ前陳ノ厚意ヲ有スルモノナ  
ルコトヲ記憶セラレタキヲ希望シテ右伝言ヲ御依頼スル  
次第ナリ

(附記)

大正五年四月十一日在本邦支那公使持參支那

政府電訓訳文

曩ニ日本ハ四國ト共ニ勸告セラレタルガ政府ハ各省カ既ニ  
一致贊同シタルカ故ニ毫モ疑慮ヲ挾マス以テ今日アルヲ致  
シタルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ日本政府ニ信頼ス  
ルノ意ハ此後益篤ク中日邦交前途ノ保証ト為スニ足ル会见  
ノ時ハ此意ヲ以テ告ケラルヘシ

又總統ハ年齒高ク本來政權ニ恋々タルノ意ナシ然レトモ真  
心ヲ以テ各方面ヲ考察スルニ実ニ尚ホ其任ヲ繼續シ難局ヲ  
維持スルノ人ナキカ故ニ總統ハ國ヲ救ヒ乱ヲ免レシメンカ  
為メ勉メテ其難キヲ為サル能ハス友邦モ亦當ニ此意ヲ諒  
トシ共ニ東亞ノ平和ヲ維持スル為メ袁大總統ニ對シ好意友  
誼の扶助ヲ与ヘラルヘク中國政府モ當ニ切ニ兩國親善提携  
ノ途ヲ講スヘシ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 六八 六九

セラレタリトイフ真偽ハモトヨリ知ル能ハサルモ若此報  
道ニシテ果シテ根拠アルモノトスレハ貴公使御帰國ノ上  
ハ袁大總統ニ向ツテ「帝國政府カ昨年以來支那政府ニ向  
ヒ帝政延期ノ勸告ヲナシタルハ支那ニ於ケル動亂ヲ未  
ニ防カントスル友厚ノ意思ニ出テタルモノニシテモトヨ  
リ袁大總統ニ對シ毫モ不快ノ念ヲ抱ケルカ為ニハ非ス袁  
大總統ニシテ果シテ伝聞スルカ如ク自國ノ動亂ヲ救ハン  
カ為メ一身ノ榮譽ヲ犠牲トスルニ決セラレタルモノトス  
レハ帝國政府ハ袁大總統ノ今後ノ幸福ト健康トヲ祈ルモ  
ノナリ從ツテ袁大總統ニシテ引退後暫ク日本ニ歲月ヲ送  
ラントスルノ意思アラハ袁君ハ勿論其家族等ニ至ル迄日  
本ニ於ケル滞在ヲ出來得ル限り安全且愉快ニ為サンカ為  
メ充分保護ヲ怠ラサルノ厚意ヲ有スルニツキ此義承知セ  
ラレタシト伝言セラレタシ尚聞ク所ニ由レハ袁大總統ハ  
引退後英國又ハ米國ニ余生ヲ送ラントストノコトナルカ  
御承知ノ如ク亜細亞人カ欧米ニ於テ愉快ナル生活ヲ為ス  
コト事實不可能ノコトニシテ矢張同文同種ノ日本ニ滞在  
セラルルコト日常衣食住ノ上ニ如何バカリ便宜ニシテ愉  
快ナルヘキカ故ニ予ハ袁君ガタトヘ英米等ニ赴カルト

六八 四月二十二日

石井外務大臣ヨリ  
在中國日置公使宛(電報)

次ノ大總統ト目サルル黎元洪トノ密接關係保

持方訓令ノ件

第一三三三號

貴電第三三三三號ニ関シ黎元洪カ一時大總統ノ地位ヲ占ムル  
ニ至ルヘキハ有リ得ヘキコト、モ察セラル、ニ付此際我方  
ニ於テ同人ト密接ナル關係ヲ保チ置クコトハ最モ必要ノコ  
ト、存セラル、ニ付貴官ニ於テモ其御含ニテ可然方法ニ依  
リ十分黎トノ聯絡ヲ計ラレタシ尚橋三郎ハ予テ洪ト知り合  
ノ間柄ナルヤニモ承リ居リ貴電第三一一號ノ通最近黎ト面  
談ノ次第モ有之ニ付貴官ニ於テ必要ト認メラルルニ於テハ  
橋ヲシテ此際引続キ北京ニ滞在セシメ黎ト密接ノ關係ヲ持  
続セシムル様致サレタク貴電末段必要ノ場合ニ於ケル黎元  
洪一身上ノ保護方ニ関シテハ適宜十分御尽力アリタシ

六九 四月二十二日

在廣東赤塚總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

唐、陸、劉等連名ニテ在中國各國公使及領事  
ニ對シ黎元洪ヲ大總統ト認ムル旨通告文ヲ送

リタル件

第一三八号

四月十九日唐繼堯、劉顯世、陸榮廷、竜濟光、梁啓超、蔡鍔、李烈鈞、陳炳琨、任可澄、戴戡連名ニテ在支各国公使及領事ニ宛テ袁世凱大總統ヲ資格ヲ失ヒ黎元洪之ニ代リテ適法ノ大總統タルコトヲ通告スル旨ノ電報アリ関東都督ヘモ転達ヲ請フ旨附記シアリタリ続キテ四月二十一日当地各国領事宛ニ雲南都督唐、貴州都督劉、広西都督陸、広東都督竜連名ニテ左ノ通電報アリタリ

各国領事ヨリ転達各北京公使鑒、陳者貴国民国政府ヲ承認シテヨリ以来貴公使北京ニ駐劄常ニ両国ノ国交ヲ鞏固ナラシムルヲ以テ任トセラルル段我軍民共ニ深謝スル所ナリ今弊国前大總統袁世凱暴虐ヲ為シタルヲ以テ大總統ノ資格ヲ失ヒタリ帝政ヲ取消シタリト雖現在依然トシテ存在ス繼堯等軍民ヲ代表シ民国二年九月ノ国会ニ於テ議決公布シタル大總統選舉法ニ準拠シ副總統黎元洪ヲ大總統ト為スコトヲ宣言シ既ニ通告ヲ経タリ只黎大總統ハ今敵地ニ陥リテ未タ脱スル能ハス而シテ本軍政府北京ヲ征服スルニハ尚時日アリ故ニ本軍政府ハ黎大總統カ袁世凱ノ暴力範圍ヲ離脱シタ

ル後其ノ行動言論ノ有効ナルヘキコトヲ茲ニ宣言ス尚袁世凱既ニ謀叛ヲ敢テシタル以上更ニ陰謀ヲ運ラシ害ヲ我元首ニ加フルナキヲ保セス惟フニ貴公使元ト正義ヲ重シシ厚ク国交ヲ念トセラル、ヲ以テ茲ニ電報ヲ以テ懇請ス冀クハ袁世凱及其ノ徒党ノ我黎大總統ニ対スル行動ヲ共同監視シ法ヲ設ケテ黎元洪ノ生命及自由ヲ保証セラレヨ我軍民ノ感謝何ソ極ラン繼堯等ノ区々ノ苦心御諒察アラレンコトヲ請フ北京宛電報ハ途中差押ヘラル、虞アルヲ以テ特ニ各地ノ貴国領事ニ託シテ転達ヲ請フ次第ナリ

北京上海香港ヘ電報済

七〇 四月二十二日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

責任内閣組織ニ関スル申令等公布サレタル件

第三三四号

四月二十二日政府公報ヲ以テ責任内閣組織ニ関シ大要左ノ如キ四月二十一日附申令及教令ヲ発表セリ

由來行政ハ統一ニシテ責任ノ帰スル所アルヲ尊ブ曩ニ諸政整理ノ必要ヨリ本大總統政権ヲ総攬シ國務卿ヲ置テ以テ贊襄ニ資ス二年以來極力經營セシモ成效尚未タ顯著ナラス其

ヲ以テ議長ト為ス

第五條

國務卿ハ其職權或ハ別ノ委任ニ依リ政府令ヲ發スルコトヲ得

第六條

政事堂ハ國務總理ノ所ニシテ國務卿之ヲ管理ス其所屬各官ハ別ニ官制ヲ以テ之ヲ定ム

第七條

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

七一 四月二十二日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

日本ノ援助要請ノ袁氏提議拒否ニ関連シ曹汝霖高尾ニ対シ袁氏ノ引退ハ日中兩國ノ為不利益ナル旨極力強調シタルニ付請訓ノ件

第三四七号

数日來南北妥協ニ関スル袁政府ノ立場ハ益々不利ニ傾キ容易ニ解決ノ見込附カサルヤノ消息ニ接シ居タル処四月二十一日別用ヲ以テ高尾ヲ曹汝霖ノ許ニ遣ハシタル際曹ハ往電第三四六号留學生資金ニ関スル用談ヲ終リタル後日本政府

原因全ク内閣未タ立タス責任明ナラサルカ為ナリ空シク治權ヲ擁シテ衆望ヲ充タス能ハス宜シク判然計ヲ変シ刷新ヲ図ルヘシ茲ニ約法第二十一条ニ依リ政府組織令ヲ制定シ國務卿ニ委任シテ國務ヲ總理セシメ政府ヲ組織、各部総長ハ皆國務員ト為シ同ク責任ヲ負ハシメ以テ責任内閣ヲ樹立シテ政治改良ノ初歩ト為ス冀クバ軍策軍力俱ニ時患ヲ拯フヘシ茲ニ令ス

教令第二十号

政府組織令

第一條

政府ハ國務員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條

國務卿及各部総長ハ齊シク國務員ト為ス

第三條

國務卿ハ大總統ヲ輔弼シテ其責任ヲ負フ國務卿ハ大總統ノ委任ヲ受ケテ國務ヲ總理ス法令ノ公布及其他國務ニ関スル文書ハ國務員之ニ副署ス

第四條

國務ハ國務會議ノ議決ニ依リテ之ヲ行フ國務會議ハ國務卿

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 七一

ハ何故ニ斯ク迄支那ヲ苦シメラル、ニヤ東亜前途ノ大局ニ顧ミ遺憾ニ堪ヘサル処ナリトテ日支兩國ノ利害一致セル所以ヲ力説シタル後時局ニ関シ今日迄日置公使及日本側ノ有志諸君等ニ会见セル際ニハ總テ外交次長若クハ個人タル支那人ノ立場ニ於テノミ希望及意見等ヲ申述ヘタル次第ナレトモ事態ハ日ニ増シ切迫シ戦ハントセハ軍費ハ乏シク和セントセハ衰ノ没落ヲ期セサルヘカラサル破目ニ近キツ、アルカ故ニ本日ハ仮ニ支那人タル地位ヲ捨テ日本人タル立場ニ於テ忌憚ナキ批評ヲ試ムヘシトテ極メテ興奮セル語調ヲ以テ大要左ノ通論シタル趣ナリ

歐洲戦争勃發以來支那問題ヲ左右スルノ中心ハ全ク日本ニ移リ政事經濟其他ノ点ニ於テ支那トノ關係最モ浅カラサル英國ト雖日本ノ意志ニ反シテハ何事ヲモ為ス能ハス而シテ又支那ハ時局ノ現状ニ顧ミ日本ノ援助ヲ請フニアラスンハ遂ニ立国ノ基礎ヲモ危カラシメントスルノ悲惨ナル状態ニアリテ吾人年来ノ宿望タル東亜百年ノ大計ヲ確立セシニハ当ニ逸スヘカラサル絶好ノ機会ナリト信ス就テハ如何ナル手段方法ニ依ルヘキカト云フニ先ツ事ノ順序トシテ之ヲ議シ之ヲ行ヒ得ヘキ支那側ノ中心人物ヲ求ムルニアリ孫逸仙

否ヤ雷ニ之レナキヲ危マルルノミナラス其ノ日本ノ運命ニ及ホス影響ハ果シテ如何以上ハ袁ノ退位ニ依リ必然来ルヘキ当然ノ経路ナリ袁ト雖何ヲ苦シテ現地位ニ恋々タルヘキヤ又不肖予ノ如キモ次長ノ職ヲ擲ツカ如ハキ朝飯前ノ仕事ノミ只叙上ノ如キ破目ヲ見ルコトガ如何ニモ残念ニ感セラ、次第ナリ憲法モ出来ズ立法院モ開ケズ万事袁独裁政治ニテ行ハルヘキ今日ノ場合ガ袁ヲ利用スルニ最絶好ノ機会ナラズヤ

以上ハ仮リニ予カ日本人タル地位ニ於テ論シタル処ナレトモ更ニ支那人トシテ時局ノ現状ヲ説明センニ南北ノ妥協ハ日本ノ態度変ラサル限リ到底実現シ得ヘキ見込ナシ其故ハ現ニ南方側ヨリ入手セル檄文(印刷セルモノナリト云ヘリ)ナルモノヲ見ルニ袁ノ退位ハ隣国ノ力ニ依リ必ス行ハルヘキニ依リ我党ハ宜シク既定ノ方針ニ依リ猛進スヘシトアリスル上ハ袁政府ノ相手ハ南軍ニアラスシテ寧ロ日本ト見ルノ外ナク如何ニ蔡鐸等ト妥協ヲ試ムルトモ埒ノアカサルコト当然ナリ最近陸公使ノ電報ヲ見ルニ大隈首相石井外相ハ袁ニシテ退位セハ日本ニ来リ十分保護ヲ加フヘシト申サレタル趣ニテ其好意ハ謝スル処ナルモ同時ニ日本政府ノ

可ナリ岑春煊蔡鐸亦可ナルヘシト雖不幸ニシテ彼等ノ徒ハ尠クモ現在ノ責任者ニアラス其当面ノ責ヲ負ヒ所信ヲ断行シテ有効ノ盟ヲ為シ得ヘキハ元首袁世凱ヲ措キテ他ニ求ムヘカラス故ニ日本トシテハ此際須ク袁ノ現地位ヲ利用シ日本ノ欲スル処ハ其何モノタルヲ問ハス試ニ之ヲ要求シ彼之ヲ聞カズンハ初テ最後ノ手段ニ移ルモ敢テ遅キニアラザルヘシ

然ルニ若シ此ノ機会ヲ逸シ去リ袁退キテ後南方ノ有志位ヲ繼クトセンニ其ノ權威ヲ有セサルコトハ云フ迄モナク自己ノ立場ト周囲ノ事情ニ余儀ナクセラレ仮令袁以上ノ親日主義ヲ有スルモノト雖自ラ進ンテ日本ノ希望ヲ容ルルノ勇氣ナカルヘキハ勿論不幸ニシテ排日的人物ナリトセハ素ヨリ言フヲ待タサルヘシ(段祺瑞如キカ後ヲ繼カハ実ニ目モ当ラレス又南北ヲ通シ親日派ナルモノ果シテ幾人アリヤト附言セリ)加之袁ノ退位ハ忽チ北方ノ軍隊ニ動揺ヲ来シ続イテ無政府ノ状態トナリ転シテ或ハ往年ノ土匪事變ノ如キ不測ノ變ヲ醸スナキヲ保シ難ク延イテ列国干涉トナリ終ニ支那ハ四分五裂ノ状態ニ陥ルニ至ルヘク此ノ場合ニ於テ日本ハ尚且独力支那ヲ左右シ得ヘキ地位ト実力ヲ有スヘキヤ

意圖ヲ忖度スルニ蓋シ袁没落後同人ヲ日本ニ引附ケ後日之ヲ利用セントノ趣旨ニアラサルカトモ考ヘラル果シテ然ラハ大ナル謬ニテ現ニ四百余州ヲ統轄スル袁ト一介ノ亡命者トナリ終リタル後日ノ袁ト其優劣素ヨリ同日ノ論ニアラザレバナリ亡命後ノ袁ニ対シ十分ノ保護ヲ加フベシトノ好意アラバ何故一国ノ元首タル現在ノ袁ニ対シ之ヲ保護シ之ヲ利用スルノ方策ニ出テラレサルカ這般ノ消息ニ付テハ予ノ到底解シ能ハサル所ナリト説キ転シテ支那現在ノ時局ヲ仮リニ満足ニ收拾シ得タリトセンニ予等ノ考ニテハ此機會ヲ以テ根本的ニ内政ノ改革ヲ断行スルニアラスンハ今後再ヒ第四第五ノ革命ヲ繰返シ結局滅亡ノ外ハナカルベクト信ズ改革ノ第一歩ハ財政ト軍事ニアリ財政ニ於テハ現ニ関稅制度及塩政制度ノ如キ外国人ノ力ニ依リテ多大ノ効果ヲ収メツ、アル实例ニ顧ミ思切ツテ有力ナル財政顧問ヲ傭聘シ之ニ監督ヲ委ネ軍事ニアリテモ亦無用ノ軍隊ヲ廢撤シテ精銳ノミヲ存シ之ヲ外国顧問ノ監督ニ委スルコトトシ兵器ノ統一兵器廠ノ經營ノ如キモ等シク外人ノ手ニ依リ之ヲ行フ事トセハ国運ノ發展期シテ俟ツヘキナリト論シ最後ニ日本政府ニ於テハ支那ニ対シ何等希望セラル、所ナキヤ若シ有之

トセバ袁ヲ現在ノ儘援助スヘシトノ諒解ノ下ニ如何ナル種類ト事項タルヲ問ハス試ニ之ヲ提議セラレタク去スレハ予ニ於テハ誓テ外部ニ洩レサル様衰トノ聯絡ヲ保ツヘキニ依リ右ニ付日置公使ヨリ内密政府ノ意図ヲ確メラレタシト熱心ニ希望シタリ

右ニ対シ高尾ハ議論ハ一切之ヲ避ケ単ニ自分ノ承知スル所ニテハ今日ノ場合ニ於テ我政府ヨリ特ニ袁總統ニ援助ヲ与フルカ如キコトハ内外ニ種々ナル誤解ヲ惹起シ却テ日支親善ノ目的ニ反スルノ結果ヲ来スモノト認メ居リ自分等ニ於テモ亦素ヨリ同様ノ感想ヲ懷キ居ルノミナラス寧ロ袁總統ニ於テハ此際潔ク退位セラル、コソ時局ノ收拾ニ偉大ノ効アルヘシト考ヘ居ル位ナレハ御希望ノ如キ事柄ハ之ヲ公使ヨリ政府ヘ取次クトモ何等期待セラル、カ如キ結果ヲ見ルニ至ラサルヘクト信セラルルモ兎ニ角御話ノ次第ハ一応公使ヘ伝ヘ申スヘシトノミ答ヘ尚貴官ノ口吻ニ依レハ日本政府ニ於テハ南方ヲ援助シ居レリト信シ居ラルルヤニ諒解セラル、処斷シテ右様ノ事實無之ニ付此点ハ誤解ナキ様希望スト述ヘタルニ曹ハ敢テ政府ヲ援助シ居レリトハ信シ居ラルモ日本人ニ対スル幾多ノ事實ハ各方面ノ報告ニ依リ大

第三五三号

新内閣員ノ役割ハ過日来幾多ノ曲折變更ヲ經タル後遂ニ左ノ如ク四月二十三日附策令四月二十四日政府公報ヲ以テ発表セラレタリ陸軍總長段祺瑞兼任、外交總長陸徵祥、内務總長王揖唐、財政總長孫宝琦、海軍總長劉冠雄、司法總章宗祥、教育總長張国淦(参政院参政)、農商總長金邦平、交通總長曹汝霖、参謀總長王士珍、審計院々長莊繼寬尙外交部参事夏詒霆ハ外交次長代理ヲ命セラレタリ

七三

五月三日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁總統支持ガ良策ナリト米国公使談話ノ件

第三七八号

五月二日米国公使ト会谈中同公使ハ時局ニ関シ語リテ曰ク新聞紙ノ論調等ニ依リ判斷スルモ日本ニ於テハ袁ノ勢力ノ地位ニ在ルコトヲ好マレサルヤノ所自分ノ見ル所ニテハ將來如何ナル政府ガ現出スルトモ外国關係ニ於テハ蓋シ袁政府以上ニ円満ナルヘキコトハ到底望ムヘカラス聞ク所ニ依レハ梁士詒其他現政府ノ大官ニ於テ日本ト經濟上ノ關係ヲ密接ナラシムルコトヲ以テ機宜ノ政策ト為シ熱心ニ其ノ実

体承知シ居レリト如何ニモ意味アリ氣ニ答ヘ最後ニ高尾カ我首相及外相ニ於テ袁總統退位ノ上ハ日本ニ参ラルル様ノ勸告セラレタリトノコトハ初テ承知スル処ナルカ右様ノ意向ハ我民間ニモ之アルモノト見エ現ニ本邦二三有力ノ新聞紙上ニモ似寄リノ事柄ヲ論シ居リ自分等ニ於テモ至極妙ナラント考ヘ居ル次第ノ処愈々退位ノ已ムヘカラサル場合ニハ袁總統ニ於テ果シテ日本ニ赴カルル考ヘアリヤ如何ト問ヒタルニ曹ハ袁氏ノ氣質ニテハ外国ニ亡命スルカ如キコトハナササルヘク又時局ノ為愈現地位ヨリ退クコトアルニ於テハ再ヒ政事ニ参与スルカ如キコトハ万ナカルヘシト考フト述ヘタル趣ナリ

以上ハ貴電第一二六号御申越ノ次第モ之レアリタルニ依リ袁政府ノ現状御参考ノ一端迄ニ冗長ヲ顧ミス電報ス尚曹ニ対シテハ本使ヨリ一応ノ返答ヲナスノ要モ之レアルヘキニ依リ右ニ対シ特ニ心得置クヘキ事項アラハ至急電訓アリタシ

七二 四月二十四日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

新内閣員ノ役割ニ関スル件

現ヲ希望シ居ル模様ナレハ現政府ハ日本ノ政治的要求ニ対シテモ亦十分相応スルノ覚悟アルモノト觀察セラルルヲ以テ此際日本政府ニ於テ袁ニ一臂ノ力ヲ貸シ時局ヲ收拾セシムルコトハ日本ノ為ニモ亦一般ノ為ニモ望マシキ次第ナリト云ヒタルニ付袁カ日本ニ於テ一般ニ人望ナルコトハ隠レモナキ事實ナレトモ要スルニ今回ノコトハ全ク袁自身ノ誘発シタル所ニシテ又純然タル支那人ノ仕事ナレハ如何トモ致シ方ナシト信スルノミナラス大勢ニ反抗シ何等画策スル所アリ之ニ依リテ一時ノ小康ヲ得ルコトアリトスルモ夫ハ到底長キニ維持スルコト不可能ナルヘケレハ寧ロ此際自然ノ成行ニ任ス方却テ鞏固ナル平和ノ基礎ヲ得ルニ可ナラント私見ヲ述ヘ置キタリ其口氣ヨリ察スルニ米国公使ハ支那側ヨリ始終泣キ付カレ居ルニアラスヤト思ハル又時局ニ対スル帝國ノ關係等ニ付テモ存外明確ナル知識ヲ有スルコト尠カラサルヤニ推測セラルル兎ニ角米国公使ハ袁維持說ヲ懷クコト明白ナリト信ス御参考迄ニ

七四

五月九日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

時局解決ニ関スル馮、張、倪三將軍ヨリ北京

政府宛ノ電報内容ノ件

第四一 一 号

馮國璋、張勳、倪嗣冲三人協議ノ結果中央政府ニ袁留任勸告ノ電報ヲ發シタル趣ハ既電ノ通ナルガ其後内偵ノ結果右電報ノ内容ハ時局ノ大勢ニ顧ミ前記三將軍ハ今直チニ袁ヲ退位セシムルヲ国家ニ不利ナリトシ未獨立各省ノ代表者ヲ南京ニ集メ左記八ヶ条ノ弁法ヲ提出シテ時局ヲ解決スルコトヲ提議シ中央政府ヨリ各省ニ至急代表者派遣方ヲ電命スル様申出同時ニ同様ノ通電ヲ各省ニ發送セリト云フ

一 袁ハ清朝ノ委託ヲ受ケ民国ヲ肇始セルモ帝政実施ノ為波瀾ヲ生シ既ニ之ヲ取消シタル為民国ハ中断シ民国從來ノ地位ハ破滅ニ帰シ之ヲ法律上ヨリ論スルモ約法既ニ無ク政府無ク法律無キ状態ニ陥リ大總統副總統亦俱ニ同時ニ消滅ニ帰セリ故ニ大總統其職ヲ去リ副總統代リテ其職ヲ行フコトモ今ヤ問題トナラス宜ク當ニ清朝退位當時ノ原案ニ依リ袁世凱ヲシテ暫ク首領ノ名ヲ以テ責任ヲ保タシメ同時ニ副總統ノ職ヲ有シタル黎元洪ヲモ出デシメ俱ニ事ニ當リ速カニ国会ヲ組織シ選舉ヲ行ヒ袁ノ命令ニ依リ国会ヲ開クコトトスヘキコト

西ヨリモ同様ノ内報アリ且坂西等ハ黎ヨリ内密本件応答振ニ関シ相談ヲ受ケタルニ付条件第一ニ於テ清帝退位ノ原案ニ拠ルトセハ今日ノ袁ハ當時ノ清帝ニ該当スルヲ以テ袁ヲシテ責任ヲ保タシムルコトハ不合理ニシテ了解ニ苦シムトテ一応署名ヲ拒ミ然ルヘキ旨勸告シ置ケリトノコトナリ

(終)

(奉天經由 五月十日 前九、二〇)

七五 五月十五日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中国目下ノ政事上財政上ノ事態ニ鑑ミ時局収拾ノ為關係各國ト共ニ袁氏ノ引退勸告ガ日本ノ採ルベキ当然ノ措置ナル旨稟申ノ件

第四三三 号

支那ノ時局ニ関シテハ一時袁ノ退位モ余程差迫リ居リタル模様ニ見受ケラレシガ其後馮張倪三人ノ時局ニ對スル解決案ナルモノ發表セラレテヨリ退位問題モ稍變調ヲ来シ最近ニ至リテハ南京會議ノ結果ヲ予想シ新ニ大總統ノ選舉ヲ見ル迄ハ退位ヲ為サハルコトニ決定セルモノ、如ク觀察セラハ、ト同時ニ南方ノ形勢モ亦獨立五省モ漸次ニ其結束ヲ固

二国会議員資格ハ嚴密ニ制限シ金錢運動乱暴分子等ノ加入ヲ許ササルコト

三民国元年ノ約法ヲ根拠トシ其ノ不適當ナルモノハ之レヲ除去スルコト

四經濟問題ハ南北共ニ其ノ使用セル經費額ヲ發表シ以後極力節約ヲ図ルヘキコト

五軍隊ハ開戦後新タニ募リタルモノハ成ルヘク共ニ尽ク之レヲ解散シ其ノ余ヲ以テ編成シタルモノハ陸軍部ノ管轄ニ歸スルコト

六官吏登用法ヲ改正スルコト

七今回想起レル禍乱ノ首領ハ国会成立後法律ニ拠リ裁判スルコト

八乱党ハ国会ニ由リ其ノ良否ヲ判別シ赦免ヲ行フコト

右三將軍ヨリノ來電ヲ齎ラシ昨八日段ノ内命ニ拠リ林長民ハ黎元洪ヲ訪問シ之レヲ示シ同時ニ黎段徐王(士珍)四名ノ連名ニテ各省ヘ宛馮張倪ノ通電ニ賛成ノ趣發電シタキ旨ヲ陳ヘ黎ノ同意ヲ求メタルニ黎ハ返答ニ窮シ熟考ノ上返答スヘシト答ヘ林ヲ歸シタリト云フ右ハ黎元洪側ニ接近セル郭同ナルモノカ當館諜報者ニ内話シタル所ニシテ其ノ後坂

クシ四川、湖南、山東等ノ向背尚未タ分明ナラサルモ漸次北方ニ不利ナル事態ニ進ミツ、アルモノト推察セラレ目下ノ処所謂南京會議ナルモノカ果シテ予期ノ如キ成果ヲ収メ得ヘキヤ否ヤモ甚タ疑ハシク万一何等カノ決議ヲナスコトアリトスルモ南北ヲ満足セシムルニ足ルヘキ妥當ノ成案ヲ得ルコト殆ト不可能ナルカ如クニ見エ少クモ一時的ニセヨ袁ノ留任ヲ条件トスルニ於テハ到底獨立五省ハ之ニ同意スルモノト觀察スルヲ得ス此ノ場合ニ於ケル南京會議ハ徒勞ニ終リ結局形勢ハ會議前ト殆ト大差ナカルヘキハ勿論時局ノ解決ハ却テ之カ為益々遷延シ益紛糾スルノ結果ニ終ラサルナキカ支那政府ノ日ニ危機ニ赴キツ、アル次第ハ屢次ノ電報ニテ御承知ノ通ナルガ本月十一日ノ國務院令ハ支那ノ財界ニ深甚ノ印象ヲ与ヘ其ノ市面ニ現ハレタル影響ハ当局者ノ樂觀的弁明アルニ拘ハラス各方面ニ於テ各種ノ形式ニテ現ハレ日ヲ経ルニ從ヒ何等カ特別ノ救済方法ノ講セラレサル限り其ノ結果ノ那邊ニ至リ止マルヘキヤ殆ト想像ノ及ハサル所ナリ内地商業ノ杜絶、外国貿易ノ休止、行政機關ノ停滯、軍隊ノ動搖、外国ニ對スル債務ノ不履行、物価ノ騰貴、民心ノ不安等數ヘ来レハ其ノ影響ノ頗ル深大ナルモ

ノアリ寔ニ寒心ニ堪ヘサル次第ナリ而シテ斯ル無政府ニ近キ状態ノ永續ハ果シテ能ク内外人ノ堪フル所ナリヤ否ヤ大ニ疑ナキ能ハス而シテ今日南北妥協ニ関スル唯一ノ争点ハ袁ノ退位問題ニ存スル次第ナルヲ以テ此ノ難問ヲ外国ノ力ニ依リ解決シ以テ南北妥協ノ実ヲ挙ケシムルコト支那ニ利害ノ關係ヲ有スル各国ノ当ニ利益トスル所ナルヘシ換言スレハ支那ノ時局ハ正ニ關係各國ニ於テ相当ノ措置ヲ講ジ然ルベキ時機ニ達セリト認メラル

先般來本使カ仏国公使ニ面会ノ折既ニ兩回迄日本カ卒先シテ袁ノ退位ヲ調停シテ速ニ時局ヲ收拾スルノ至当ナルヲ諷シタルコトアリ昨十四日同公使來訪ノ節ニモ支那財政窮狀ハ到底外国ノ援助ニ依ラサレハ救済ノ途ナシト論シ之カ監督問題ニ関シ近日ニテモ重ナル国ノ使臣会合ノ上意見ヲ交換シテハ如何ト頻リニ本使ヲ慫慂シツツ愈々各國協同ニテ財政上ノ援助ヲ与フル場合ニハ關稅及塩稅事務ニハ既ニ英國ヨリ二人ノ監督者ヲ出シ居レバ日本ヨリ land tax ト會計検査ノ方ニ監督者各一人ヲ出スヘシナド語レリ又現ニ最近迄袁留任ヲ前提トシテ熱心ニ時局解決ノ必要ヲ縷説シタル米国公使スラ一昨十三日会见ノ折ニハ最早袁ノ退位ヲ見

手段方法ニ付テモ本使ニ於テ一応ノ卑見ナキニアラサルモ差当リ右ノ次第ヲ具陳シ帝國政府ノ御考慮ヲ請フ

七六 五月二十三日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

曹汝霖出淵ニ対シ日本ノ袁政府援助ヲ願ヒ度

キ旨懇談ノ件

第四五八号

五月二十一日出淵曹汝霖ノ招宴ニ赴キタル際曹ハ人ヲ遠ケテ特ニ同官ニ会談ヲ求メ頗ル熱心ナル調子ニテ日本政府ハ何時迄袁政府ヲ苦ムル所存ナルヤ最早大概ノ所ニテ手ヲ握リ可然ト切言シ自分ハ袁總統ノ過去ニ於ケル失政ハ十分之ヲ認メ居リ決シテ漫リニ弁護セントスルモノニアラザルモ現内閣ノ方針ハ袁ヲ仏国大統領ノ如キ無權限ノモノトシテ從來通りニ据置キ責任内閣ノ実ヲ挙ケントスルニアリ世人或ハ袁氏留任セハ再ヒ憲政ヲ破壊スヘシトノ疑念ヲ懷クヤモ計リ難キモ現内閣ハ断シテ袁氏ヲシテ去ル我儘ヲ為サシメザル丈ケノ成算アリ支那ノ現狀ニ鑑ミルニ既往ノ失政ハ兎モ角實際袁氏ニアラザレハ時局ヲ收拾シ得ルモノ絶對ニ無之ニ付自分ハ飽迄袁氏ト進退ヲ共ニスル決心ヲ有シ居リ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 七六

スシテハ時局ヲ收ムルニ由ナキヲ明言シ是又事態ノ漸次ニ紛糾シ來レルヲ承知シタルノ模様ナリ露国代理公使ノ意見モ殆ント右ト大同小異ナレバ結局当地ノ重ナル使臣ハ大体同様ノ感想ヲ懷キ居ル一方北支那在留英人ノ機關新聞トモ目スヘキ京津「タイムズ」ノ時局ニ対スル論調ハ過般來累次ノ電報通りニシテ十五日ノ北京「ガゼット」ニ掲載セラレタル Punom Weale 論文モ亦此地英人多数ノ意嚮ヲ表示セルモノト看テ大過ナカルベク今や当方面一般ノ空氣ハ帝國カ此際時局解決ニ対シ何等カノ提議ヲ列國ニナスヲ至当トシ又之ヲ予期スルモノノ如シ就テハ仏国公使所見ノ如ク財政状態ノ改善ハ素ヨリ焦眉ノ急ナルモ差当リ先ツ政事上ノ紛糾ヲ解クヲ以テ先決問題トスル儀ナレバ旁々帝政計画ノ実行ヲ以テ支那国内ニ動乱ヲ惹起スルノ虞アリトシ聽テハ東洋ノ平和ニ有害ナル結果ヲ來タスモノトシテ其中止ヲ勸告シタル帝國ハ支那目下ノ紛糾セル政事上財政上ノ事態ニ鑑ミ關係各國ト共ニ支那政府ニ対シ袁ノ退位ヲ勸告シ速ニ時局ヲ收拾シテ新政府ヲ確立シ進シテハ財政其他ノ改善ヲモ希望スル旨ヲ通告スルコトハ論理上帝國ニ於テ執ルヘキ当然ノ措置カト考フ其退位勸告後ニ於テ更ニ執ルヘキ

袁氏去ラバ何人ガ大統領トナルモ断シテ官職ニアラザル覺悟ナリ之レ今日袁氏去ラバ支那ノ統一必ス不可能トナリ到底專任ヲ以テ國政ヲ処理シ能ハサレハナリト述ヘタルニ依リ出淵ハ之ニ対シ程好ク応答シタル上陸徵祥ハ再ヒ外交總長ノ椅子ニ戻ルヘキヤト質問セルニ多分戻ルコトナカルヘク結局自分ニ於テ專任トシテ引受クルニ至ルヘキモ只今ノ処交通總長ノ後任決定セサル為メ當分兼任ノ外ナク尚ホ外交次長ニハ丁子源(現任漢口特派交渉員)ヲ適材ト認メ拔擢任用スル意嚮ナル旨ヲ極内密トシテ洩シ何トカ自分ノ外交總長タル間ニ日支兩國握手ノ機会ヲ造リ多年理想トスル親善ノ基礎ヲ堅メ度キニ付日本政府ニ於テ此際袁氏ヲ排斥スルカ如キ態度ニ出デラレス速ニ時局ノ平靜ヲ見ル様充分ノ援助ヲ願ヒタシ若シ夫レ現政府ノ日本ニ対スル好意表彰方案ノ如キハ自カラ多々アリト確言スルニ憚ラズト述ヘ最後ニ濟南事件ニ関スル我方ノ処置ニ対シ深ク感謝シ居ル旨ヲ洩ラシタル上高尾ノ南京転任ニ言及シ右ハ日本政府ノ對南方政策ト何等カノ關係アルニアラズヤト語レルニ付出淵ヨリ断シテ去ル事ナク単ニ人繰ノ都合ニ過キスト答ヘ置キタル趣ナリ

(奉天經由 五月二十二日 後二、四〇)

七七 五月二十六日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

曹汝霖ノ小幡ニ対スル内談ニ於テ若シ日本ガ  
袁氏ノ退位又ハ宣統復辟ヲ希望スルナラバ卒  
直ニ其儀申出サレ度キ旨ヲ述ベタル件

第四六九号

五月二十五日或宴会ノ席ニテ曹汝霖ハ小幡ニ左ノ如キ密話  
ヲナシタル由ナリ

自分等(曹)ハ支那ノ将来ハ袁ノ手腕ニ待ツニアラスンハ  
到底平和ヲ期シ治安ヲ保チ能ハスト確信シ居ルヲ以テ今ニ  
日本ノ助力ニ依リ目下ノ局面ヲ展開シ袁ヲシテ時局ヲ解決  
セシメタキ希望ヲ棄ツル能ハサル次第ナルモ所詮日本ニ於  
テ袁擁護ノコト不可能ナラハ寧ロ日本政府ヨリ明白ニ且公  
然其ノ意志ヲ支那政府ニ通告シ袁ノ退位ヲ希望スルナラハ  
其ノ旨又袁ノ後ニハ黎元洪ヲ出ストカ或ハ宣統皇帝ヲ出ス  
トカ希望カアラハ夫レモ明白卒直ニ切出サレンコトヲ望ム  
左スレハ袁ニシテモ亦政府ニシテモ何トカ方針ノ立テ様モ  
アル次第ナリ(此時小幡ハ日本政府及国民カ袁擁護ノ意志

ナキコトハ是迄種々ノ機会ニ又色々ノ形式ニテ発表セラレ  
居ルコトナレバヨモヤ支那政府ニ徹底シ居ラサル筈ナカラ  
ント言葉ヲ挿ミタルニ曹ハ自分等ニハ其ノコトハ承知シ居  
ルモ支那政府ニハ未タ公然ト徹底シ居ラスト答ヘタル由)

元来袁ハ自分等ノ見ル所ニテハ決シテ退位セサル考ニハア  
ラスト確信ス只退位後ノ国情ニ付一方ナラス心配シ居ル様  
ナレハ其ノ方ノ安心サヘ付カハ必ス退位ヲナスニ躊躇セサ  
ルヘシ目下袁ノ最モ懸念シ居ル点ハ其ノ退位後ニ生スヘキ  
四五將軍其ノ他ノ有力者ノ互ニ相下ラサル危険ナル不和ノ  
状態ナリ假令ハ仮リニ黎元洪カ大統領タリトスルモ段祺瑞  
馮國璋張勳倪嗣冲等ハ必ス之レヲ推戴スルコトヲ肯セス必  
ス之レヨリ騒乱カ起ルノ虞アリ又仮リニ段ナリ馮ナリヲ大  
總統トスルモ互ニ相和セサルコト同様ナルヘク結局袁ノ退  
位ハ自然右ノ如キ紛争ヲ来シ尚其ノ外ニ南方ノ分子モアリ  
混乱ノ程度ハ益々拡大錯雜スルノミニシテ支那ノ破滅ハ益  
々近クナルノ虞アリ或ハ此ノ際宣統ヲ出セハ袁トシテハ前  
清ノ依托ニヨリ統治權ヲ得タリトノ觀察ヲ有スレハ此ノ事  
ニハ寧ロ快ク耳ヲ傾クヘシト信スヘキ理由アリ又地方將軍  
其他ノ有力者中ニモ同情者少ナカラス差当リ張勳ノ如キ馮

國璋ノ如キ倪嗣冲ノ如キ何レモ宣統復辟ニ賛成ノ筈ナリ  
(段祺瑞ハ或ハ賛成セサルモ知レスト云ヘル由)之レ或ハ時  
局ヲ比較ノ平穩ニ解決スル一方案カトモ考ヘラルル所日本  
ニテハ之ニ対シ如何ノ見解アリヤ云々(小幡ハ之ノ質問ニ  
対シ成程日本ニ於テハ或ル一部分ニ斯ノ如キ考ヲ有スル者  
無キニアラザルモ十分ノ勢力アル次第ニアラズ又宣統復辟  
ガ官武大多數ノ意嚮ニ投スルヤ否ヤ目下ノ氣運ハ何分右様  
ノ方向ニ向キ居ラスト考ヘラルルモ日本ノ之ニ対スル意嚮  
ヲ承知シ度シトナラハ本使ニ其旨報告シ東京ヘ打電スルコ  
トモ出来ザル次第ニモアラスト思ハル若シ曹氏ニシテ之ヲ  
時局解決上実行シ得ヘキ案ト考ヘラル、ナラバ日本ニ打合  
ハセ見ルモ一策ナラン電報ヲ打ツコトトシテハ如何ト態ト  
水ヲ向ケタル処曹ハソウトナレハ自分モ今少シ考ヘ度キコ  
トアルニ付電報スルコトハ見合ハサレ度シト述ヘタル由)

曹ハ本使ニ対シテモ是迄略ボ右ト同様ノ言ヲナシタルコト  
一再ナラザリシモ當時ハ余リ之ニ重ヲ置カス報告モ致サマ  
リシ次第ナルガ同人カ斯ク再三迄モ同様ノ言ヲナス裏面ニ  
ハ相当真意ノ伏在スル義カトモ考ヘラル第一ニ日本政府ヨ  
リ公然支那政府ニ袁退位其他ノコトニ関シ掛合ヒ来ルコト

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 七八

ヲ希望スルカ如キ口吻ヲ漏スハ袁ニ於テ夫レヲキツカケニ  
安全ナル退却ノ機会トナサン考アルガ為ニアラスヤトモ思  
ハレ或ハ政府側ガ日本ノ勸告ヲ機ニ袁ノ退位ヲ実行セント  
ノ魂胆ヲ有スル為ノ様ニモ想像セラレサルニアラス其ノ真  
意ノ何レニ在ルヤハ姑ク別トシ曹ガ斯ノ如キ言ヲ屢々スル  
ノ一事ハ十分注意スヘキコトト考フ次ニ宣統復辟說モ一時  
馮國璋筋ヨリ上海宗方等ニ伝ハリ又嘗テ徐樹錚カ段ノ意ヲ  
受ケ南京ニ齎ラシタル使命ノ内ニモ時局解決ノ一策トシテ  
宣統復辟說ノアリタルコト事実ノ如ク信セラル、ヲ以テ本  
件モ最初ニハ必ス袁及北方派ノ議題ニ上リタルモノナラン  
ト考ヘラル或ハ曹等ニ於テ日本ノ助力ニ依リ袁擁護ノ目的  
ヲ達セスンハ切メテモノ一案トシテ日本ノ力ニ依リ宣統復  
辟ヲ実行シ之ニ依リ北方派官僚派若ハ袁派ノ手ニ政權ヲ収  
メ置キ以テ南方人ニ勢力ヲ擅ニセシメサラントスル画策アリ  
夫レトナク日本ノ意向ヲ探ラントスルモノ、如クニモ想  
像セラル兎ニ角何等御參考迄

七八 五月二十八日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

塩税剰余金引渡問題ニ関スル仏国公使談話及

右ニ対スル日本ノ所見ニ付請訓ノ件  
第四七三号

五月二十七日日公使本使ヲ来訪シテ曰ク塩税剰余金引渡問題ニ関シ過般日本政府ヨリ英仏政府へ提出セラレタル書面竝両政府ノ之ニ対スル回答等一件書類接到シタルニ付篤ト熟閲ヲ遂ケタル処支那ノ時局ニ顧ミ標準準備額ヲ増加スルノ必要アリトノ日本政府ノ提議(仏国政府ハ依然我提議ヲ誤解シ居ル義ト認ム)ニ対シテハ英仏両政府ニ於テ俱ニ何等異見ヲ有シ居ルモノトハ認メサルモ銀行團カ支那政府ノ引渡要求ヲ拒絶スヘキ法律上ノ理由ナシトノ点ニ付両政府ノ意見一致シ居ルコトヲ認メ得ヘキト同時ニ日本政府ノ意嚮ニ副ハン為臨機ノ処置トシテ両国政府ハ何レモ其ノ駐支公使ニ向ッテ一時仕払拒絶方ヲ訓令シタル次第ナリ然ルニ支那政府ニ於テハ關係国政府ノ此ノ処置ヲ不法トナシ「デーン」ヨリハ既ニ銀行團ニ対シ嚴重ナル掛合ヲナシ来レルノミナラス之レカタメ支那政府ト銀行トノ關係自然円滑ヲ欠クニ至リ仏国銀行当事者ノ如キハ迷惑千万ナリトテ頻リニ苦情ヲ公使館ニ申出速カニ禁令ノ撤回ヲ要求シ居リ一面又タ支那側ノ態度ヲ見ルニ從來四川省ノ塩税收入ハ

契約上銀行團ニ預ケ入ルルノ義務ナキモ實際ニ於テハ他省ヨリノ分ト同様保管銀行ニ預入レタル次第ノ所前月分ハ之レヲ預ケ得サルノミナラス「デーン」ノ主張ノ如ク銀行團ニ於テ契約ヲ遵守セサル以上支那側ニ於テモ之レヲ守ルヘキ義務ナシトテ何等カ報復手段ヲ執ルノ態度ニ出テ各省ヨリノ塩税收入モ四川ノ分ト同様保管銀行ニ預入レヲナサ、ルヘキヤモ計リ難ク此ノ場合ニ於テハ外国ハ之レヲ非難スヘキ理由ヲ有セサルノミナラス事茲ニ至レバ各国ノ有スル債務ハ非常ナル危険ノ地位ニ陥ルヘク誠ニ懸念ニ堪ヘサル次第ナリ

抑モ先ニ日本政府カナシタル提議ハ政事上ノ理由ニ基クモノニシテ此際袁政府ニ資金ヲ供給スルヲ不可ナリトスルモノナルヘク各国政府モ十分其ノ意ノアル所ヲ諒トシ不取敢臨機ノ措置トシテ一時塩税剰余ノ引渡シヲ差止メタル義ナルモ本問題ヲ今日ノ儘ニ打棄テ置クコトハ到底事情ノ許サルコトハ前陳ノ通ナレハ駐支各国公使ニ於テ直ニ調査ニ着手シ日本政府ノ提議ニ基キ標準準備額増加問題ヲ決定シテ支那政府ト交渉ヲ開キ彼我ノ關係ヲ正当ニナシ置クコト焦眉ノ急ナリト信ス云々ト(以上日公使陳述ノ要領)本

使ハ之レニ対シ日公使ノ所見ハ諒トスルモ標準準備額ヲ決定スルニ当リテ先ツ第一ニ考慮セサルヘカラサルハ時局ノ關係ナリ支那ノ状態ニシテ今日ノ如クニテハ如何ニシテ見込ヲ立ツルコトヲ得ヘキヤ政局ノ決定ハ先決問題ニアラスヤト陳ヘタルニ日公使ハ之レニ答ヘ果シテ然ラハ此際日本政府ハ關係国政府ニ対シテ目下ノ時局ニ於テ支那ニ対スル關係ハ政事上ノモノヲ以テ最モ重シトナスト云フ趣旨ヲ提議シテ各国政府ノ同意ヲ求メラルガ至当ナルヘシ左スレハ各国政府ニ於テモ日本政府ノ提議ニ同意スル以上其ノ債權ニ關スル条件ニ付テハ自然日本政府トノ間ニ相当ノ協定ヲ見ルコトヲ得ヘシ

然シ政局ノ決定ハ一ニ日本政府ノ掌中ニ在リ目下各国ハ勿論一般支那人モ非常ノ損害ト苦痛トヲ蒙リツツアルコトナレバ此ノ無政府状態ノ一日モ速ニ終了センコトヲ齊シク渴望スル折柄日本ニ於テ其ノ方針ヲ決定シ時局ノ收拾ヲ急ガシコトハ中外一般ノ歡迎スル所ナリ日本トシテハ北京ニ向ヒテ一喝、南京一喝更ニ雲貴兩広一喝ヲ放テハ支那人ハ唯然從ノ外ナカラン又各国ニ於テモ其ノ既得權ノ尊重セラレ且假令形式ニ過ギザル關係ニ於テナリトモ支那問題ニ干与

スルノ權利アルコトヲ承認セラルルニ於テハ支那問題ノ處理ハ日本ニ一任シ何等異議ナカルヘシト想像ス之ハ公使トシテ云フヘキコトニ非ザルモ貴下トハ別懇ノ間柄ナルニ付友人間ノ私談トシテ申上クル次第ナルカ今ハ日本ニ取リ遣リ時ナリ一日ヲ遅ルレハ一日ノ損アリ速ニ決心シテ断乎トシテ其計画ヲ実行スヘシ歐洲戰爭終結ノ上ハ右様ニ勝手ニハ參ル間敷ク今日少々位過テ他日一部ヲ吐出セザルヘカサル時アリトスルモ全部ヲ吐出セザルヘカラサル様ノコトハナカルヘシ否ナ其大部分ハ必ス維持スルヲ得ント云ヘルニ付本使ハ好キ参考ノ資料ヲ得タリト惚ケタルニ彼ハ呵々ト打笑ヒ斯様ノコトハ拙者ガ語ラズトモ日本政府ニテハ百モ承知ノ事ナリト大笑シツツ退出セリ余事ハ兎モ角塩税引渡ノ件ハ近ク問題トナルヘキ模様アルニ付日公使所説モ一応尤モノ所アリ旁々至急帝國政府ノ御所見御回訓置キヲ請フ

七九 五月二十九日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁氏引退勧告後ノ中国時局解決ニハ黎元洪起  
用ノ外ナキコト及關係列国ノ右解決ニ干与ノ

範圍程度並引退後ノ袁氏ニ対スル措置等ニ付

詳細稟申ノ件

第四七五号

往電第四三三号主段ニ関シ貴電第一六三号御電訓ノ次第モ有之ニ付不取敢本使卑見ノ程左ノ通御参考迄

第一 目下ノ場合何人ヲ当事者トシテ時局ヲ收拾セシムヘキヤニ付今日迄世論ニ上リシ意見ハ結局左ノ三案ノ外ニ出テサルヘシ

一 袁留任説、二 宣統復位説、三 黎元洪大總統説  
右第一ノ袁留任説ハ主トシテ北方官僚系ノ首唱ニ係リ中央支那ニ於テモ袁ト旧誼アル軍人官僚ノ之ニ賛成スルモノ少カラス齊シク留任説中ニモ国会召集新大總統改選迄暫ク留任セシムヘシトナスモノト絶対無条件ニ留任ヲ主張スルモノト區別アルモ対内対外ノ關係ニ於テ甚シク人心ヲ失ヒ信用ヲ墜シタル袁ヲ留任セシムルハ支那ノ政局ヲ益々紊乱セシムルモノニシテ別シテ袁ヲ政權ノ地位ニ在ラシムルコトハ實際我既定ノ政策ト絶対相容レサル所ノモノアルニヨリ此ノ説ハ我國ノ立場ヨリ論シ全然問題トナラサル次第第二付詳説ヲ要セス

次ニ第二ノ宣統復位説ハ張勳、張作霖其ノ他前朝ヲ僞フ清帝ノ遺臣中ニ從來ヨリ此ノ説アリタルハ勿論最近袁ヲ中心トスル北方政府側ニモ或ハ万一ノ場合此ノ計画ヲ実行シ以テ南方人ノ政權ヲ壟斷セントスルノ氣運ヲ妨ケントスルノ考ヲ有スルニハアラスヤト想像セラルル節ナキニアラス併シ此ノ説ハ帝政中止ヲ勧告シタル帝國ノ立場ヨリ今俄ニ之ニ同意シ難キノミナラス北方ハ兎モ角南方大多數ノ民意ニ投スヘキヤ否ヤヲ疑ハシク現在我國民ノ深大ナル同情ノ下ニ行動シツ、アル南方新進派ノ激烈ナル反抗ヲ惹起スヘク旁此説ハ仔細ニ研究スレハ種々考慮ヲ加ヘ然ルヘキ点ナキニアラサルモ現下ノ時局解決案トシテハ殆ト実行不可能カト考ヘラル

然ルニ第三案タル黎元洪ヲ出現セシメテ時局ヲ收拾スルノ策ハ目下ノ場合他ニ良案ナキ限り之ヲ以テ最機宜ニ適シ併カモ比較的実行シ易キ解決案ナリトセサルヲ得ス素ヨリ黎氏ガ此ノ難局ニ処シ乱麻ヲ斷ツノ機略智力ヲ備フル政治家ノ資質ニ於テ欠クル所アルコト其ノ有力ナル子分ニ乏シキコト其ノ文武兩方面ノ官僚ニ対シ勢力ナキコト、又現ニ段祺瑞、馮國璋、張勳、倪嗣冲ノ如キ有力者カ其ノ節度ニ服

セサルヘキハ勿論袁派ノ首領中公然反對ヲ唱フルモノモ少カラサル等ノ事實ニ顧ミレハ黎元洪カ此ノ難局ニ当ルノ人トシテハ甚シキ欠点ノ少カラザルハ何人ノ意見モ一致スル所ナルモ他ノ一面ニ於テ彼ノ出現ハ(一)袁ノ退位ヨリ生スル約法上当然ノ後継者タル法律上ノ強キ論拠アルコト(二)其ノ寛厚ノ資質ハ人ノ同情ヲ引キ個人トシテ敵ノ少キコト(三)其ノ大總統ニ就職スルモ直ニ外国ヨリ承認ヲ得ルヲ要セザルコト(四)南方獨立各省ガ既ニ公然其ノ大總統タルコトヲ宣言セルコト等ノ事實アリテ黎ノ側ニモ強ミノ点少カラズ特ニ袁ノ退位ニ伴フ法律上当然ノ結果トシテ其ノ大總統タルヘキハ理論上何人モ争フヲ得サル所ニシテ此ノ一点ハ黎ノ出現ヲ「サッポート」スヘキ最有力ナル論拠ナリ黎ノ機智才略ハ袁氏ニ及ハサルコト遠キモ其ノ德望ト寛厚ノ資質ハ無用ノ政敵ヲ造ラズ紛糾セル此ノ時局ヲ処置スルニハ見方ニ依リテハ却テ都合好キ影響アルヤモ計リ難シ北方官僚系ノ者ハ動モスレハ彼ノ威望足ラス一旦大總統タラバ昔日同列ノ諸將軍ハ直ニ立テ反抗ノ態度ニ出デ北方派ノ軍隊モ亦動乱ヲ起スナキヲ保シ難シトテ盛シニ悲觀説ヲ唱フル者アルモ是レ彼等ノ希望スル袁擁護論ヲ「サ

「サッポート」スルカ為ノ駈引ヲ含ム誇張ノ論タル嫌ナキニアラスト考ヘラル現ニ南方ニ出征ノ軍隊ハ悉ク意ノ如ク中央ノ節制ニ服スルモノト断言スルヲ得ズ中ニハ地方ノ形勢ニ余義ナクセラレ干戈ヲ動サス退却シツ、アルモノモアル状況ヨリ推断スレハ到底多數ノ北軍ガ一齊ニ黎元洪ニ反抗シテ立ツトモ想像スルヲ得ス後継政府カ彼等ニ対スル給与等ニ意ヲ用フレハ左迄恐ルヘキノ破綻ヲ生スルトモ考ヘラレズ況シテ大勢次第ニテ其ノ向背ヲ決シツツアル幾多將軍ノ現狀ニ顧ミレバ袁退位ト決定シ黎元洪出デテ大總統トナリ各国力之ニ強固ナル掩護ヲ与フルノ意思明白トナレバ大勢ノ前ニ極メテ從順ナル彼等ノコトナレバ左迄甚シキ反抗モスマジト觀察セラル万一ニモ彼等ノ反對シ軍隊動搖ノ兆候アル場合ニハ新政府ノ為ニ秩序ヲ維持スル趣旨ニテ外国ヨリ出兵ノ已ムナキヲ声明スルニ於テハ目下南北兩軍トモ戰意ナキ折柄實際或ハ一兵ヲ動カサザル間ニ大勢ハ定マルナランカト信ス但シ万一ノ場合ヲ慮カリ關係國ハ時局ノ收拾上一時限リ出兵ノ必要ヲ生スル場合モ之アルヘキコト丈ケハ予メ覺悟シ置クノ要アルノミナラス早キニ及ンデ各國ト此種ノ打合せヲ為シ置クモ肝要ナルヘシ兎モ角愈退位ノ勸

告ヲ為ス場合ニハ其ノ論拠方法等ニ関シ特ニ慎重ナル考慮ヲ竭スノ要アルト同時ニ關係国ヨリ進シテ黎ヲ援ケテ袁ニ代ラシメ之ヲシテ時局ヲ收拾セシメントスル場合ニハ各国ハ予メ善後ノ処置ニ要スル資金ノ供給ヲ為スコトト必要ノ場合ニハ兵力ヲ用フルモ新政府ヲシテ秩序ヲ維持セシムル覚悟ト決断アルヲ要ス退位ニ伴フ善後処分ニ関シテハ或ハ外国使臣ノ好意的仲介ニ依リ關係当事者間ニ予備的打合せヲ遂ケシムルモ一策ナルヘキカト考フ

遇然ノ談合ヨリ英國公使ハ此際日英公使館ヨリ南京及広東ニ適當ナル人物ヲ派遣シ現在鼎立ノ姿ニアル三方面ノ間ニ斡旋ノ勞ヲ執リ適當ナル打合せヲナシムルモ可ナリトノ意見ヲ有スル次第ヲ承知セリ少クモ關係国ハ各省將軍中ノ有力者例ヘハ馮國璋、張勳、倪嗣冲若クハ段祺瑞等ニ対シ黎ノ就職ヲ承認シ其適法ニ總統タル間ハ猥リニ反抗ノ態度ニ出デザルベキコトヲ確メ置クノ必要アルベク總テ此等ノ目的ヲ達スルカ為ニハ關係国ハ極メテ内密ニ適當ナル方法ニ依リ關係当事者間ニ好意的斡旋ノ勞ヲ取りヤルモ一案ナランカ

## 第二 時局解決ニ関シ行動スヘキ關係国ノ範圍

袁トシテモ目下ノ場合此ノ勸告ニ従フノ外アラザルベク只今日迄發表セラレタル袁ノ意嚮ナルモノニ顧ミ各国ハ袁ヲシテ相當ノ面目ヲ維持シテ退位セシムルコト及後任大統領ノ手ニ於テ時局ヲ收拾セシメ得ヘキ見込アルコトノ二点ニ付袁ニ安心ヲ与フルノ措置ヲ講スルコト或ハ時局收拾上便宜ノ取計ナルヘキカトモ考フ將又段祺瑞、馮國璋等ハ結局袁ノ退位ヲ已ムヲ得スト認メ居ルカ如キニ拘ハラス姑息ナル一時的留任說ナドヲ唱ヘ居ルハ袁トノ旧誼ニ顧ミ又支那一流ノ作法ニ拘泥シ退位ノ時局收拾上已ムヘカラサル所以ヲ切實ニ力爭シ得難キ情実モアルヘク旁々外国ノ此際ノ勸告ハ閉塞セル局面ヲ解決スルノ動機ヲ与フルモノトシテ彼等モ寧ロ期待シ居ル所ナラスヤト想像セラレザルニアラズ尚袁ノ退位ニ関シ前記二条件ヲ実行スル代償トシテ袁ヲシテ平穩ニ政權ノ受授ヲナシ又其ノ配下ノ軍人ヲ教唆シテ不穩ノ舉ニ出デシムル如キコトナキヲ誓ハシムルモ一策ナランカト考フ

第四 干涉ノ程度及ヒ範圍ハ可成的輕ク小ナルヲ可トス又退位ニ伴フ各種ノ紛爭ノ解決ニ関シ已ムヲ得サル場合ノ外成ル丈ケ直接ノ關係ヲ避クルヲ可トス今干涉ニ関シ二三氣

ニ就テハ帝制中止勸告ノ行掛リモアリ此際我國ガ单独ニテ干涉ヲ開始スルノ四圍ノ狀況ニ顧ミ頗ル面白カラザルハ殆ンド絮說ヲ要セス矢張一応ハ順序トシテ帝政中止勸告ニ協同シタル各国聯合シテ退位問題ニ関シテモ干涉スル方ヲ合理的ニシテ而カモ有効ナルベシト信ス過日来ノ會見ニ於テ仏國公使ハ屢々此意見ヲ漏ラシタルニ反シ英國公使ハ其行動ヲ日英兩國間ニ限ルヘシトノ意見ヲ有スルニ似タリ思フニ英國公使ハ必ズシモ其意見ヲ固執スルモノニアラザルヘク支那問題ヲ公明ニ解決スル責任者トシテ吾國ハ帝政中止勸告ニ同意シタル各国ト協調ヲ執ルノ德義上ノ義務アルニ鑑ミ又支那人民ノ誤解ト猜疑トヲ避クル為矢張五國協同ニテ勸告ヲ為スヲ至當ト考フ

第三 袁ノ処分ハ如何ニスヘキヤ現在ノ如ク支那ノ紛糾セル狀態ハ支那ニ於テ利害ノ關係ヲ有スル諸國ノ到底永クハ忍ブ能ハサル所ナルト同時ニ此ノ形勢ヲ何時迄モ放任スルニ於テハ局面益々紊亂シテ全國ハ遂ニ全然無政府狀態ニ陥ラスンハ已マサルノ趨勢ナルヲ以テ關係国ハ宜シク袁ノ退位ヲ勸告シ新政府ヲシテ速カニ國內ノ秩序ヲ回復セシムルノ行動ニ出ヅルノ当然ナルハ勿論

付キノ点ヲ挙グレバ(一) 此際余リ深ク内政ニ立入り干涉スルコトハ自然列國共同監督ノ素地ヲ作ルノ端緒トナル眞アリ支那保全ヲ根本義トスル我對支政策ノ精神ニ悖ルヘキカ故ニ干涉ハ袁ノ退位ヲ勸告シ黎元洪ヲシテ國會ノ保護新總統ノ選舉等善後ニ必要ナル施設ヲ行フニ足ル丈ケノ權威ヲ保持セシムルニ適當ノ援助ヲ与フル程度ニ止メ可成他ノ内政ニ干与スルヲ避クルヲ主眼トスヘシ(二) 將來袁ヲシテ再ヒ政權ノ地位ニ立タシムルコトハ今日ノ如キ時局ヲ再演シ禍根ヲ残スノ虞ナキニアラサルニヨリ出来得ヘクムハ袁ノ大統領被選資格ヲ剝奪スルノ措置ヲ取り置クノ必要ナキカト考フ(三) 内閣ノ組織及ヒ總統選舉ノ如キ事件ニハ必要ナキ限り漫リニ干涉セス之等ハ支那人ノ為ス所ニ一任スヘシ(四) 關係各国ハ干涉ヲ為スニ當リ絶対ニ私心ヲ交ユヘカラス(五) 袁退位後ノ新政府ハ財政上焦眉ノ急ニ応スル為絶対ニ外國ヨリ借款ヲナスノ必要アルヘキニ付關係各国ハ必ス之ニ応シテ新政府ノ時局收拾ヲ扶助スルノ準備アルヲ要ス借款ノ条件等ニ関シテハ別ニ切實ナル攻究ヲ加フヘキモノアリト雖昨今当方面ノ外國人間ニ唱ヘラルル財政監督國際委員會組織說ノ如キハ帝國ノ立場トシテ断シテ

之ヲ排斥セサルヘカラスト信ス

右ハ退位ノ処置ニ対スル本使卑見ノ大要ナルカ本使ハ此ノ機会ニ聊カ余論トシテ一二点ニ涉リ開陳シタキハ

(一) 将来ノ我對支政策ハ袁ノ退位シ新政府ノ確立ヲ機会ニ益々親善主義ニ依リ兩國ノ結合ヲ固クスルノ方針ニ出デシコトヲ希望ス帝國從來ノ政策ハ其ノ動機ノ如何ニ拘ハラズ其ノ結果ニ付テ見ルトキハ遺憾ナカラ無用ニ支那人ノ猜疑ト反撥心ヲ挑発シタルノ恨ナキニアラス東洋ニ兩立スル兩國ノ相親和共同スヘキハ自然ノ運命ナルカ如ク又我國カ支那ノ信頼ヲ受ケ之ヲ扶掖シテ其國土保全ノ目的ヲ達セシムルコト亦自然ノ命スル所ナルカ如シ併カモ此ノ根本義ノ深ク兩國人ノ間ニ徹底セザレバ動モスレバ感情日ニ乖離シテ益々相反撥スルノ有様アルハ誠ニ痛嘆ニ堪ヘサル次第ナリ單ニ富源ノ潤沢ニシテ広大ナル市場ヲ有スル支那ヲ隣國トスル我國ノ立場ヨリ見ルモ之レヲシテ常ニ反抗心ヲ懷カシムルコトハ独リ經濟關係ニ於テ深大ノ不利益アルノミナラス万一ニモ我國カ外國ト難フ構フルカ如キ場合ニハ支那ノ向背カ直ニ我國ノ運命ニ鈔ナカラサル關係アルニ想到セハ將來常ニ支那ヲ我方ニ引付ケ置クノ絶對必要ナルハ言ヲ

俟タル所ニシテ本使ハ以上ノ理由ニ基キ袁氏ノ退位ヲ一段落トシ我對支政策ハ公明正大ノ本義ニ依リ親善提携ヲ画スルノ好箇ノ機会ヲ得タルヲ痛切ニ感シ居ル次第ナリ

(二) 目下ノ情勢ヲ以テ推移シ又我政策ノ變更セサル限り袁ノ退位ハ早晚實現セラルヘキ趨勢ニシテ其結果ハ政權ノ南方派ニ歸スルト看ルノ至当ナルヘク随テ袁退位後ニ於テハ自然第一革命後ニ現出シタル政局ト同様ノ情況ヲ呈シ新進政客ハ利權ヲ中心トシ隨處ニ横議ヲ極メ對外關係ノ如キモ種々困難ナル事態ヲ惹起スヘク特ニ我邦ニ對スル關係モ全然良好ナルヘシトモ期待シ得サルヘク旁々袁退位後ニ於テハ全然政權ヲ南方派ニ壟斷セシムルノ利弊又北方派ヲシテ依然政權ノ分配ニ与カラシムルノ得失ハ此際最モ慎重ニ講究シ置クヘキ問題ナラント思料ス

八〇 六月一日 石井外務大臣ヨリ  
在中国日置公使宛(電報)

中國時局收拾ニ関スル英國公使トノ會談模様

電報方ノ件

第一八八号

五月三十一日在本邦英國大使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ本大

臣ヲ訪問シ支那ニ於ケル時局ヲ收拾シ其統一ヲ維持スルノ方法ヲ講スルコトハ英國政府ノ唯一ノ目的ニシテ之カ為在北京ノ日英兩國公使ヲシテ時々意見ノ交換ヲ為シ其結果ヲ本国政府ニ報告セシムルコトハ極メテ必要ナルコトト思考スル旨ノ覺書ヲ提出シタリ其際同大使ノ語ルトコロニヨレハ「ジョルダン」公使ガ右ノ趣旨ヨリ貴官ヲ訪問シ袁ヲシテ國會成立迄ノ間今後二三ヶ月留任セシムルコトハ時局解決ノ唯一方法ト思考スル旨語リタルニ貴官ハ之レニ對シ若シ袁ガ新國會ニ於テ再選セラル、ガ如キコトアリテハ何等解決トナラサル旨ヲ答ヘ「ジョルダン」公使ハ其レモ一理有ル旨答ヘタルコトアリトノコトナルガ貴官ト英國公使トノ會談模様電報アリタシ

八一 六月一日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁總統ノ健康狀態ニ関シ種々風説アルニ付曹

外交總長ニ尋ネタル件

第四八七号

兩三日來袁總統ノ健康狀態ニ関シ種々ノ風説アリ甚シキハ既ニ死去シタルモ之ヲ秘シアリナドノ説サヘ支那人間ニ流

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 八一 八二

布セラレ著シク当地ノ人心ヲ動搖セシメタルヤノ感アリ本使ハ五月三十一日曹外交總長ニ面会ノ序ヲ以テ袁總統ノ模様ヲ尋ネタル処其語ル処ニ依レバ袁總統ハ平素非常ノ健啖家ナルガ過日來時局ノ為メ心身過勞ノ結果ニヤ食慾頓ニ減シ無理ニ食事ヲ為セバ嘔吐ヲ催フシ加フルニ夜間睡眠出来ズ昨今著シク疲勞ノ模様アルハ事實ナリ然シ別段就寢スル程ニアラズ國務卿及自分ノ如キ殆ント毎日ノ如ク引見セラレ今尚ホ重要ナル政務ハ絶エズ其相談ニ与カリ居レリトノ事ナリ

八二 六月二日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

中國時局收拾ニ関スル英國公使トノ會談内容

回申ノ件

第四八八号

貴電第一八八号ニ関シテハ五月二十四日英國公使來訪シ別段本国政府ヨリ訓示ヲ受ケタル次第第二ハアザサルモ自分ノ考ニテハ支那ノ紛糾セル現在ノ時局ハ到底此儘放任シ置キ難シト認メラルルニ付何トカ解決ノ方法ヲ講スルコトトシテハ如何ト思考シタル旨ヲ告ゲタル後此際日英兩國ニテ何

トカ早ク片ヲ付ケテハ如何アルヘキヤ日本サヘ遣ル氣ナラバ何デモ出来ルニアラズヤト語り夫レトナク本使ノ意見ヲ叩キタルニ付キ本使ハ態ト明答ヲ避クル心持ニテ貴下ハ多年支那ニ駐在セラレ其ノ事情ニ精通セラルル次第ナレバ必ズ時局解決ニ対スル名案アラント信ズト反問セル所「ジョルダン」ハ別段名案トモナキガ自分ハ袁ヲシテ国会成立迄留任セシメ彼ヲシテ時局ヲ解決セシムルコトヲ最善ノ方法ト考ヘ居レリト答ヘタリ本使ハ之レニ対シ夫レハ貴下ノ考案トシテ一理アラシモ自分ノ見ル所ニテハ袁其ノ人ノ留任ガ却テ時局收拾ノ障害ト認メラルルニヨリ先ヅ以テ袁ヲ除カザレバ時局解決ノ歩ヲ進メ難カラント考フル旨ヲ語リタル所英國公使ハ然ラバ袁ヲ退ケテ何人ヲシテ時局ヲ收拾セシムル考ナルカト尋タルニ付本使ハ約法ノ規定ニ従ヒ当然黎元洪ヲ出現セシムル外ナカラント云ヘルニ対シ彼ハ黎ニハ到底此ノ紛糾セル時局ヲ收拾スルノ力ナシ現ニ馮國璋、段祺瑞、倪、張等有力者ノ反対アルニアラズヤト強ク反対ノ意ヲ表セルニ付仮ニ貴説ノ如ク国会成立迄袁ヲ留任セシムルトスルモ彼ニシテ再ヒ大總統タルノ自由ヲ有スルニ於テハ其ノ現在ノ勢力ヲ以テシテモ優ニ之ヲ贏チ得ルモ

## 第四九八号

六月二日「タイムス」特派員本使ヲ来訪シ日英兩國ハ尚引続キ此狀態ヲ袖手傍觀セントスル積リナリヤ支那カ袁ニ依リ支配セラルルト又別人ニ依リ統治セラルルトハ吾人ノ関スル所ニアラス將又支那人ノ蒙ムル損害ガ如何様ナルトモ吾人ノ関スル所ニアラザルモ我等外國人ノ蒙ムル損害ハ到底忍ブ能ハザル所ナリ殊ニ今日時局收拾ノ拳ニ出ヅルニ於テハ比較の容易ニ支那ヲ其常態ニ回復セシムルコトヲ得ンモ此上一層形勢ヲ紊乱セシムルニ於テハ支那ノ經濟狀態ハ全然破壊セラルルニ至リ之方回復ニハ多大ノ時日ヲ要スベシ之レ英國商人ノ焦慮措ク能ハザル所ニシテ到底此狀態ニ堪ヘ兼ヌル次第ナリ從テ我等ハ日英兩國カ尚此時局ヲ坐視スルハ頗ル了解ニ苦ム所ナリトテ憤慨の意見ヲ洩セリ是レ蓋シ内外人一般ノ感想ヲ卒直ニ代表セルモノト見テ然ルベキカ、現下ニ於ケル内外人一般ハ最も熱烈ニ時局ノ迅速ニ收拾セラレンコトヲ希望シ居ルモノト感セラル英國政府カ昨今支那ノ時局收拾ニ関シ積極の手段ニ出デントスルノ意嚮アルハ輿論ノ趨勢ニ余儀ナクセラレタル結果ナラント想像セラルル所帝國政府ニ於テハ此末何処迄モ傍觀の態度ヲ

ノト思料セラル、処斯デハ又復今日ト同一ノ狀態ヲ繰返スニ過ギザレバ支那ノ治平ハ永遠ニ期シ難カルベシ故ニ若シ仮リニ貴説ノ通實行スルトモ大總統選舉ニ對シテハ袁ノcandidacyヲexcludeセザルベカラズ是モ外國政府ノ確実ナル保障アルニアラザレバ支那ノ國民ハ満足セザルベシト論ジ「ジョルダン」モ本使ノ説ヲ一理アリト引取レリ右「ジョルダン」トノ會談ハ別ニ纏マリタルコトニモ之ナク且同人カ再三何等本國ノ訓令ヲ受ケタル次第ニアラザル旨ヲ特ニ斷ハリタルヲ以テ一場ノ私談トシテノ説話ノ積ニテ應對シタル義ナレハ公ケニ之ヲ報告シテハ却テ彼ニ不便ナル事情ヲ生スルコトモアラシカト懸念シ今日迄更メテ電報セサリシ次第ナルモ同人談話ノ趣意ハ本使最近報告中ニ大体包含セラレ居レリ

## 八三 六月三日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

タイムス紙特派員及一般内外人ハ中国時局ノ  
早急收拾ヲ希望スルニ反シ我陸軍部内ニハ形  
勢觀望論モアルヤニ付日本政府ノ意向内示方  
稟請ノ件

持續セラルル御意嚮ナリヤ或ハ時宜ニ依リテハ進ンテ時局ノ收拾ヲ援助セラルル事モ可有之哉

曩ニ往電第四三三号及第四七五号ヲ以テ卑見開陳ノ次第モアリ未タ何等ノ御訓示ニ接セス且ツハ最近齊藤少將カ本官ニ語ル所ニ依レハ同少將カ時局ノ益々混亂紛争コソ我レニ有利ナレ結局其ノ狀態ニ堪ヘス外國政府ヨリ我レニ泣付キ来ルヲ待チ帝國ハ徐ロニ行動ヲ開始シテ可ナリ從テ目下ノ場合ハ形勢ヲ觀望シ時局ノ紊乱スル儘ニ任セ置クコト得策ナラント考フル趣打電シタルニ付參謀總長ヨリ至極同意ノ旨回電アリタリトノコトナルガ帝國政府ニ於テハ或ハ此種ノ見解ニ依リ帝國ノ手下ス時機ニ達セズトスル次第ナリヤ御承知ノ通英國公使ノ如キ不意打ニ本使ト意見ノ交換ヲ行ヒタリナドト報告スルアリ今又前記ノ如ク「タイムス」通信員ナドヨリ議論ヲ吹掛ケ来ルアリ旁々一応此際ニ於テ徹底シテ帝國政府ノ方針ヲ商議シ置カデハ本使ノ應對折衝上ニモ差支之レ有ルニ付至急政府御存意ノ程成ルヘク詳細ニ御内示ヲ請フ尚又往電第四八八号英國公使ヘノ応答振ハ帝國政府ノ御主意ニ添フヤ否ヤモ併セテ承知シ置キタシ

八四 六月三日

在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

白国公使来訪シテ中国政局解決ヲ強ク要望シ  
タルコトニ付報告並日本ガ積極的行動ニ出ツ  
ベキ氣運熟シタル旨ノ觀測上申ノ件

## 第五〇一号

近頃白耳義公使ハ兩三回モ引続キ本使ヲ来訪シタルモ生憎  
ク不在ノ為メ面会スルヲ得ザリシガ六月三日朝電話ヲ以テ  
予メ在否ヲ確メタル上來訪シ支那ニ於ケル白耳義ノ投資額  
ハ其總額八千万磅ニモ上ル所当現時ノ經濟狀態ヲ顧ミル  
時ハ実ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリ聯合各國ハ宜敷ク協同シ  
テ速ニ支那ニ對シ各自ノ利益ヲ保護スルノ方法ヲ講スル  
ヲ焦眉ノ急務ナリト思考セルニ付先ツ貴公使ト相談ノ上追  
テハ英、露、仏等諸国公使トモ相談スル積リナリトテ頗ル  
興奮セル調子ニテ敦圀キ語リ出デタルニ依リ本使ハ何等具  
体案ニテモアル次第ナリヤト確メタルモ外国ニ於テ支那ノ  
財政ヲ監督スルトカ軍隊ハ支那ニ取リ無用ノ長物ナレバ之  
ヲ廢シ解散セシムベシトカ述ヘ別段纏リタル意見ナキモノ  
ノ如クナリシヲ以テ本使ハ之ニ對シ当國財政狀態ノ危機ニ

ガ故ニ殊更 Resolute ノ態度ヲ以テ應對シタレドモ白耳義公  
使坏ガ漫ニ斯ル問題ヲ提ケ各公使ノ間ニ説キ廻リ一種ノ趨  
勢ヲ作為セントスルガ如キハ帝國ノ面目上面白カラザルモ  
ノアリト考ヘタルヲ以テ斯ノ如キ妄動ヲ防止セシムル意味  
ニテ支那ノ經濟的破綻ノ為ニ日本ノ被ムル損害ハ蓋シ白耳  
義ノ夫レニ優ルモノアラン從テ今日ノ時局カ帝國政府ニ於  
テ最真摯ナル考慮ヲ受ケツツアルコトハ言フヲ俟タザルノ  
ミナラス英國ノ如キモ亦決シテ時局ヲ等閑視シ居ラザルコ  
トナルベケレバ適當ノ時機ニ於テ日英等ノ國々ヨリ相当ノ  
提議アルベキカト信ゼザルヲ得ザルモ兎ニ角財政救済ニ對  
スル先決問題タル政局ノ解決モ決シテ貴下ノ言ハルル如ク  
爾ク容易ナルモノニアラザルベシト説明シ聊カ彼ノ興奮セ  
ル熱氣ニ水ヲ注ギ置カント試ミタルニ却テ容易ニ承服スベ  
キ模様モナク之ヨリ英國公使ニ会谈スベシトテ當館ヲ辭シ  
去レリ

之ヲ要スルニ過日来新聞記者ト言ハズ外交官ト言ハズ何レ  
モ右同様ノ調子ニテ本使ニ時局解決ノ必要ヲ迫リ来ル所以  
ハ彼等ニ於テ此ノ支那ノ時局ハ帝政中止勸告ニ始マリ終始  
一貫帝國ノ醸成セルモノト信ジ從テ之カ收拾ノ責モ亦自カ

関シテハ本使モ深ク之ヲ憂慮シ居ル処ナルモ之カ救済ニ着  
手スル前ニ於テ先ツ其政局ノ解決ヲ告ゲシメザルベカラズ  
換言スレバ政局ノ解決ガ先決問題タラザルベカラズト説キ  
タルニ對シ政局ハ何故日本ニ於テ速カニ之ヲ解決セザルヤ  
袁ノ退位ハ最早問題ニアラズ政局ハ如何ニ解決スルトモ吾  
人ノ関知スルトコロニアラザレバ日本ニ於テ勝手ニ片付ケ  
ラレテ宜シキモ吾ガ國人ハ内ニアリテハ独逸ノ為ニ極メテ  
悲慘ナル苦境ニ陥レラレ其ノ上支那ニ於ケル投資迄モ危険  
ニ瀕スルガ如キコトハ到底忍ブ能ハザルトコロナリ何トカ  
聯合各國ガ宜シク速ニ協同的行動ニ出デ各自ノ利益ヲ保護  
スル方法ヲ講ズルコトヲ熱望シテ已マザル次第ナリ尤モ聯  
合各國トハ云フモノ、其利害關係ノ深淺厚薄ハ自カラ異ナ  
ルモノナルヲ以テ例ヘバ伊太利ノ如キハ其ノ支那ニ於ケル  
利益關係僅少ナルガ故ニ必ズシモ之ガ参加ヲ必要トセザル  
ベキモ同時ニ聯合國ニアラザルモ其支那ニ關係ノ密接ナル  
ト他日ノ独米聯合ヲ防止スルノ策トシテ米國ヲ聯合側ニ引  
入レ置クヲ得策トスルガ故ニ米國ハ宜シク聯合運動ノ仲間  
ニ入ル、方可ナラント論シタリ

依テ本使ハ本問題ニ関シ未タ政府ノ意向ヲ承知シ居ラザル

ラ帝國ニ在リト信ズルガ故ナルベシト察セラル而シテ彼等  
ノ言フ処ヲ綜合シテ試ミニ其意中ヲ忖度スレバ彼等ハ日本  
ガ支那ニ於テ政治上ノ野心ヲ遂行センガ為歐洲戰爭ノ時期  
ヲ捉ヘテ支那ニ動亂ヲ誘發セシメタルモノト解シ今ヤ各國  
ハ支那問題ニ容喙スルノ余裕ナキヲ以テ残念ナガラ先ヅ日  
本ノ為スガ儘放任シ置クノ外ナシト諦ラメ彼等ノ利益ニ直  
接ノ關係ヲ及ボサル限り傍觀ノ方針ヲ執リ来リタルモ昨  
今急ニ勃發シタル經濟的恐慌ハ直接ニ彼等ノ利益ヲ迫害セ  
ントスル形勢ヲ呈シ来レルヲ以テ彼等ハ大ニ躍起トナリ来  
リタルモノト信セラル蓋シ支那ノ時局ニ對スル日本ノ關係  
ハ今ヤ殆ト之レヲ知ラサルモノナキコトハ到底否認スベカ  
ラザル所ニシテ各國人モ亦之ヲ已ムヲ得ザルコトトシテ傍  
觀シ来レルナラムモ彼等ハ常ニ其ノ結果トシテ各自ノ利害  
ニ影響ヲ蒙ランコトヲ深ク懸念シ何故日本ガ速カニ手ヲ下  
サザルヤニ付類リニ氣ヲ揉ミ居ルコトハ当方面ニ於テ時々  
耳ニシタル外國人ノ談話ニ依リテモ將又廣東駐在英國領事  
ガ赤塚ニ向ヒテ日本ハ最早程好ク暗中飛躍ヲ止メテ宜シカ  
ラズヤト言ヘル一言ニ依リテモ外國人一般ノ意嚮ヲ察スル  
ニ難カラザルナリ兎ニ角外國人ガ利害ノ念ニ深キ一点ハ帝

国政府ノ対支問題処理上ニ於テモ大ニ考慮ヲ加フベキ所ナルヘク而シテ本使ノ卑見ニテハ帝国ガ積極的行動ニ出ヅヘキ氣運ハ当ニ熟セルモノト考フ若シ尚拱手為ス所ナク、一部論者ノ唱フルガ如ク支那ノ形勢ヲ窮極迄紊亂セシメ外国政府ノ泣付キ来ル時機迄手ヲ下サザルヲ得策トストノ意見ハ一見妙ナルガ如キモ帝国ニ於テ極メテ遠大ナル着眼ト最モ鞏固ナル決心ヲ有シ同時ニ始メヨリ着々機宜ニ処スル布置成算ノ確立シ居ラザル限り本使ノ見ル所ニテハ此ノ辺ガ手ノ下シ所ナルベク若シ此ノ儘内外人一般ノ切望ト期待トヲ無視シ形勢ノ紊亂スルガ儘ニ放任スルニ於テハ帝国ハ自然其ノ責任ヲ負担セザルベカラザルノミナラズ行詰リ手ヲ出ス場合ニ於テハ極メテ大ナル責任ト容易ナラサル困難ヲ自覺セザルベカラザルニ至ラント信ズ況シテ南方獨立諸省ノ結束尚未十分ナラズ広東ノ如キ動モスレハ内部ノ軋轢已マザルノミナラズ北方政府ニ於テモ所有手段ヲ以テ其ノ間ニ乗ゼントスルノ趣アリ中部支那ノ形勢モ尚未定マラズ上海方面ノ革命有力者間ノ結束モ亦甚タ堅カラズ剩サヘ北方政府ガ掉尾ノ武力解決ヲ試ミントスルヤノ風評モアリ目下ノ場合財政上此ノ種ノ活動ハ不可能ナルベシトハ想像

或ハ重体ナリト云ヒ或ハ左迄憂フヘキ程ノコトニアラストモ伝ヘラレ其ノ真相判然シ兼ヌルモ新任露国公使ガ今以テ国書捧呈モナサズ又坂西ガ袁ノ達テノ依頼ニ依リ山東ニ赴キ帰京後今ニ面会ノ機ヲ得ザルヨリ察スルニ其ノ容体ハ決シテ輕キモノトハ想像スルヲ得ザルモ望月内報ノ事実ハ尚精探ノ後ニアラザレハ何トモ之ヲ確断スルニ由ナシ尤總統府側ニテハ昨夜来少シク取込ノ模様モアリトノ報道モアリ尚確報ヲ得ルニ努ムヘシ次ニ右ハ望月ガ「モリソン」ヨリ秘密ニ得タルモノ、由ニ付本件ハ其ノ御含ニテ御取扱ヲ請フ

附 各地ノ反袁運動狀況

八六 一月二十四日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛

雲南省獨立ニ関スル唐雲南將軍任巡按使ノ照會文送付ノ件

附屬書 民國四年十二月三十一日付、唐雲南將軍及任巡按使ヨリ日置公使宛照會

雲南省獨立ニ関スル件

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 八六

ニ難カラザルモ南北両面ノ真勢ヲ洞觀スルトキハ我国一部論者ノ考フルガ如ク形勢ハ容易ニ我カ思フ壺ニ嵌リ来ルベシトハ考フルヲ得ズ就テハ内外人一般ニ我行動ヲ期待切望シツ、アル今日ノ機會ヲ捉ヘ速カニ既定ノ計画ヲ進メ支那ニ於ケル指導ノ地位ヲ占ムルニアラザレバ遂ニハ不測ノ事態ヲ現出シ結局帝国ノ作為シタル形勢ニ無用ノ閑人ヲ参加セシメ時局ヲ解決セザルヲ得ザルガ如キ結果ニ至ラズヤト懸念ス

八五 六月五日 在中国日置公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ容体ニ関スル情報報告ノ件  
第五〇三号

六月五日午前十一時頃望月小太郎ガ「モリソン」ヲ訪問會談中刺ヲ通シタル一來客アリ「モリソン」ハ暫ク之ト面会ノ後只ナラサル顔色ニテ戻来リ望月ニ対シ袁世凱ノ容体ハ甚タ輕カラサル由ナルガ多分死スルナラント語レリト云フ袁ノ病状ニ関シテハ先日來種々ノ風評アリ現ニ今ヨリ凡ソ十日程前總統府内ニ容易ナラサル出来事生シ多分袁ハ死シタルナラントノ噂サヘモ伝ハリ其後病氣ノ旨報セラレ爾來

機密第二一号 (一月二十九日接受)

大正五年一月廿四日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

雲南將軍巡按使照會送付ノ件

雲南將軍唐繼堯同巡按使任可澄ヨリ雲南省獨立ノ件ニ関シ本使並ニ各国公使ニ書面ヲ送付シ来レル次第ハ一月廿四日附往電第八二号ヲ以テ及報告置候処該書面写訳文相添エ茲ニ及送付候間御査閱相成度候也

追テ前記書面ニハ「督理雲南軍務之印」「雲南巡按使印」ノ二印章捺押有之候間為念申進候也

(附屬書)

照 會

雲南將軍行署照會

為照會事照得本國自一九一一年十月十号武昌倡義各省響應実因全国人民久苦君主專制之压抑乃奮起而為政治革命爾時承各友邦認為交戰团体宣告中立及南京臨時政府成立改建民國清帝退位宣布共和均經通告各友邦厥後正式国会成立政府